

平成 26 年度 「全国学力・学習状況調査」  
長野県の結果分析報告書

平成 26 年 11 月

全国学力・学習状況調査 長野県分析委員会

## 目 次

○ まえがき	
I 調査の実施状況	1
II 教科に関する長野県の調査結果と分析	2
1 平成26年度の調査結果	2
(1) 小学校調査	
(2) 中学校調査	
2 過去7回(平成19年度～平成26年度)の調査結果	6
(1) 小学校調査	
(2) 中学校調査	
III 分析委員会における協議	10
1 本県の学力の状況と課題	10
(1) 活用する力を支える知識・技能などの確実な定着の必要性	
(2) 学習に対する関心・意欲・態度の向上：無回答率の意味	
(3) 中学校において授業改善を推進する必要性：目標の明示と振り返りの確保・充実	
(4) 探究的な活動としての総合的な学習の時間の充実	
(5) 「記述」及び「論述・証明」の問題の充実：県立高等学校入学者選抜学力検査	
(6) 本県の学力に関する提言	
2 家庭学習の改善	19
(1) 中学生の家庭学習の改善の必要性：計画を立てる、復習をする	
(2) 家庭学習充実の方向性：調べる、文章を書く	
(3) 家庭学習の改善に関する提言	
3 基本的な生活の改善	21
(1) 睡眠の改善：質と量	
(2) 家庭における中学生の過ごし方	
(3) 基本的な生活の改善に関する提言	
4 長野県教育委員会の取組	24
(1) 授業改善についての取組	
(2) 補充指導についての取組	
(3) 家庭学習についての取組	
(4) 中学生の生活についての取組	
(5) 学力向上に向けた長野県教育委員会の取組に関する提言	
5 市町村教育委員会及び学校の取組	30
(1) 市町村教育委員会の取組	
(2) 学校の取組	
(3) 知町村教育委員会及び学校の取組に関する提言	
6 学力に関する地域の実態	36
IV 分析委員会からの提言(総括)	37
○分析委員会名簿	38



# 学習と生活の包括的な改善に向けて

全国学力・学習状況調査長野県分析委員会委員長

宮崎樹夫

文部科学省による全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象として平成19年度より平成23年度を除き毎年実施されています。この調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。調査の内容は、国語、算数・数学であり（平成24年度より3年ごとに理科を実施）、主に「知識」に関する問題（A問題）と、主に「活用」に関する問題（B問題）が出題されています。また、学習・生活及び学校環境に関する質問紙調査が児童生徒及び学校に対し実施されています。

昨年度に続き本年度も、長野県教育委員会により、全国学力・学習状況調査の目的である、継続的な検証改善サイクル確立の一環として、有識者、教育関係者、保護者等からなる「全国学力・学習状況調査長野県分析委員会」が設置されました。本委員会では、調査結果に基づき信州の子ども達の現状を把握し、今後の課題を明らかにするとともに、学習・生活・ふるさとの観点から明日を担う子ども達のために、何に取り組むべきかについて協議しました。

この報告書には、信州の子ども達の学力に関する現状と改善に向けた提言が示されています。提言の実現には、授業の改善を基軸として、学校・家庭・地域の連携による学習と生活の包括的な改善が欠かせません。本報告書における提言をもとに、各学校・家庭・地域が、教職員の心身に十分配慮しつつ、信州の子ども達に知識基盤社会で求められる資質・能力を高める取組を一層推進・充実されることを切望しております。

# I 調査の実施状況

- 1 実施日 平成26年4月22日(火)
- 2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年  
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

## 3 調査の内容

### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ・主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

- ・主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

### (2) 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## 4 平成26年4月22日(火)に調査を実施した学校・児童生徒数

### 【小学校調査】

	実施学校数	児童数
全国(公立学校)	20,177校	10,080,663人
長野県(公立学校)	368校	19,118人

### 【中学校調査】

	実施学校数	児童数
全国(公立学校)	9,742校	1,018,365人
長野県(公立学校)	188校	18,181人

※ 学校行事等で実施日に実施できなかった小学校1校、中学校4校を除く。

※ 調査を実施した児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

## Ⅱ 教科に関する長野県の調査結果と分析

### 1 平成 26 年度調査の結果と分析

#### (1) 小学校調査

##### ① 結果

〔表1〕 教科調査の平均正答率・平均正答数(小学校)

		平均正答率	平均正答数
国語A	長野県(公立)	72.6	10.9/15
	全国(公立)	72.9	10.9/15
国語B	長野県(公立)	57.0	5.7/10
	全国(公立)	55.5	5.5/10
算数A	長野県(公立)	79.1	13.5/17
	全国(公立)	78.1	13.3/17
算数B	長野県(公立)	59.0	7.7/13
	全国(公立)	58.2	7.6/13

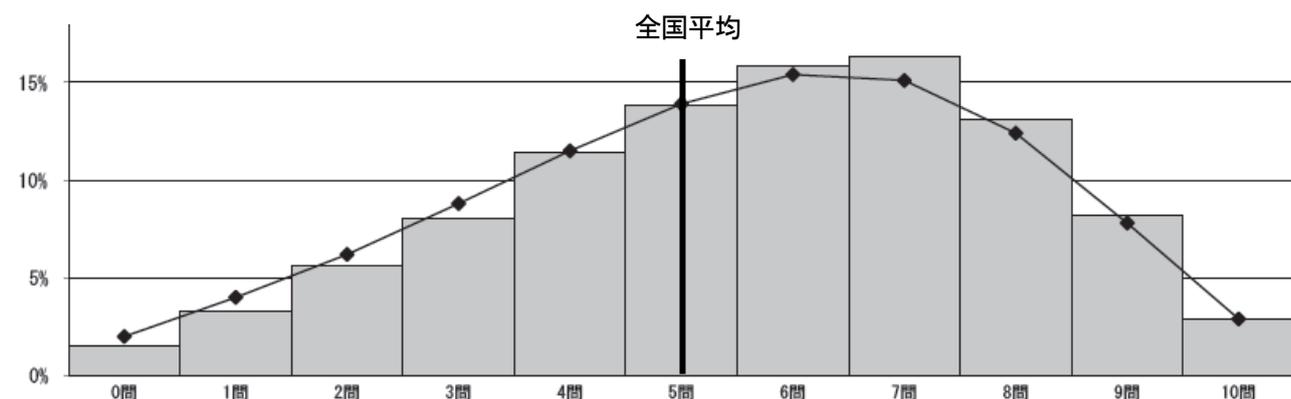
#### 正答数分布グラフ

〔横軸：正答数、縦軸：割合〕

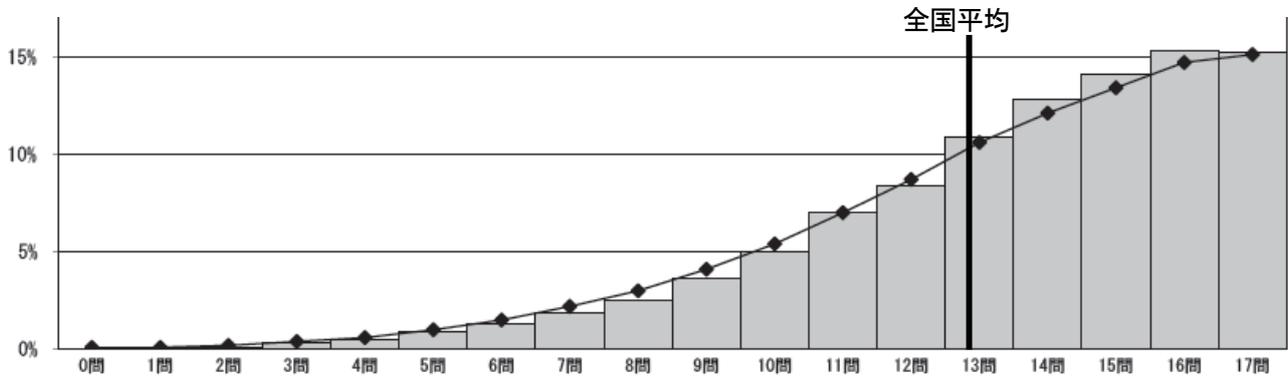
〔グラフ1〕 生徒数の分布(小学校国語A)



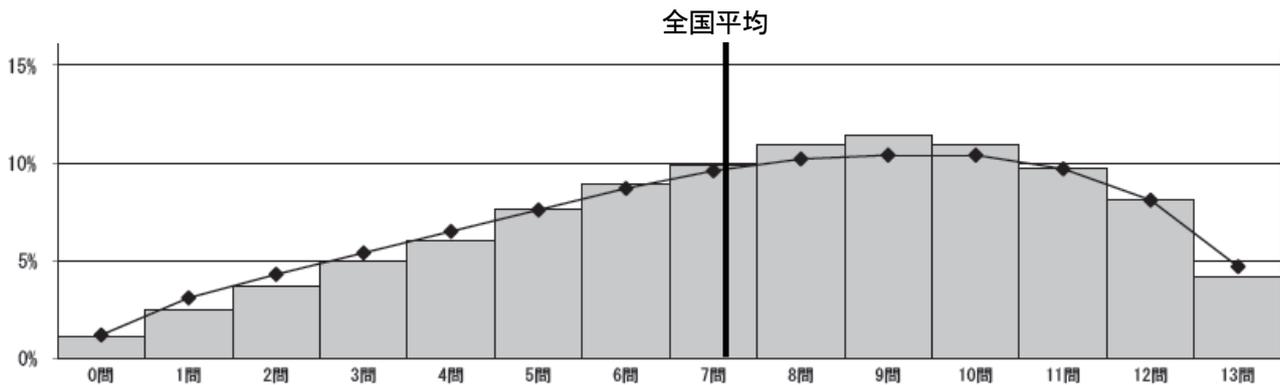
〔グラフ2〕 生徒数の分布(小学校国語B)



〔グラフ3〕 生徒数の分布(小学校算数A)



〔グラフ4〕 生徒数の分布(小学校算数B)



② 分析

◇:成果 ◆:課題

◇小学校では、国語Aが若干全国平均を下回ったものの、それ以外は全国平均を上回り、概ね良好な結果となった。(表1)

◇国語A、Bの正答数の分布状況は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフ1、2)

◇国語B、算数Bでは、正答数の少ない児童の割合が、全国と比べて低い。(グラフ3、4)

◆国語Aは、正答数の多い児童の割合が、全国と比べてやや低い。(グラフ1)

(2) 中学校調査

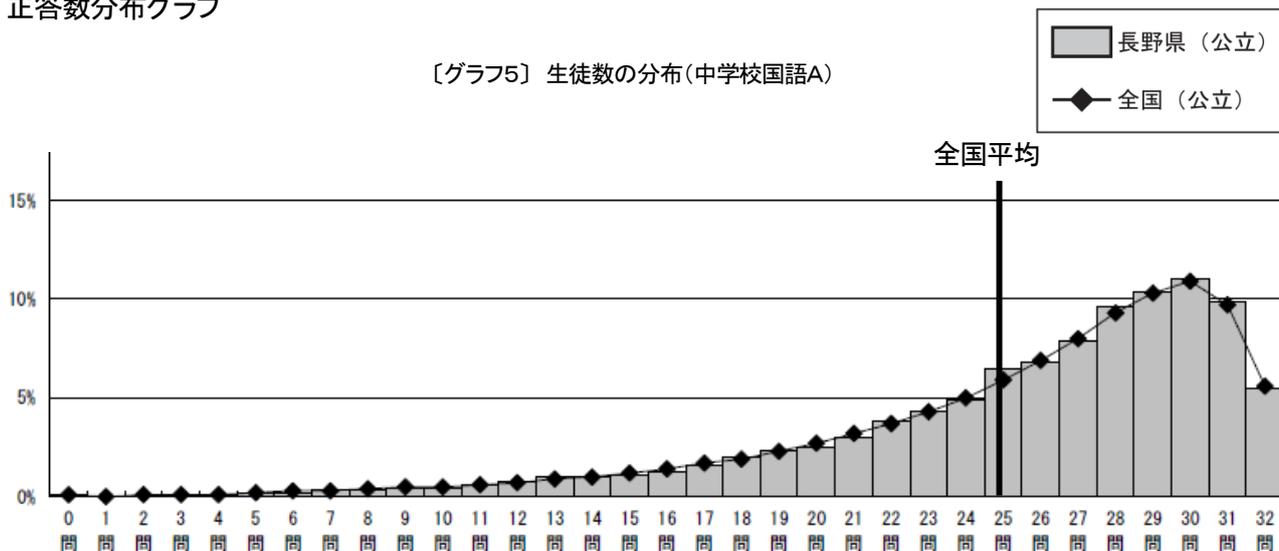
① 結果

〔表2〕 教科調査の平均正答率・平均正答数(中学校)

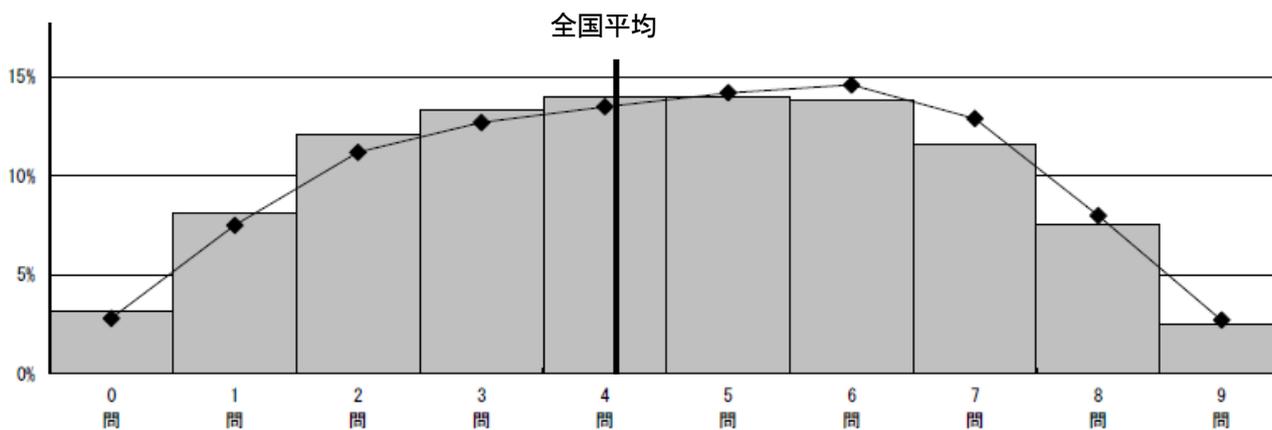
		平均正答率	平均正答数
国語A	長野県(公立)	79.7	25.5/32
	全国(公立)	79.4	25.4/32
国語B	長野県(公立)	49.4	4.4/9
	全国(公立)	51.0	4.6/9
数学A	長野県(公立)	67.2	24.2/36
	全国(公立)	67.4	24.3/36
数学B	長野県(公立)	58.1	8.7/15
	全国(公立)	59.8	9.0/15

正答数分布グラフ

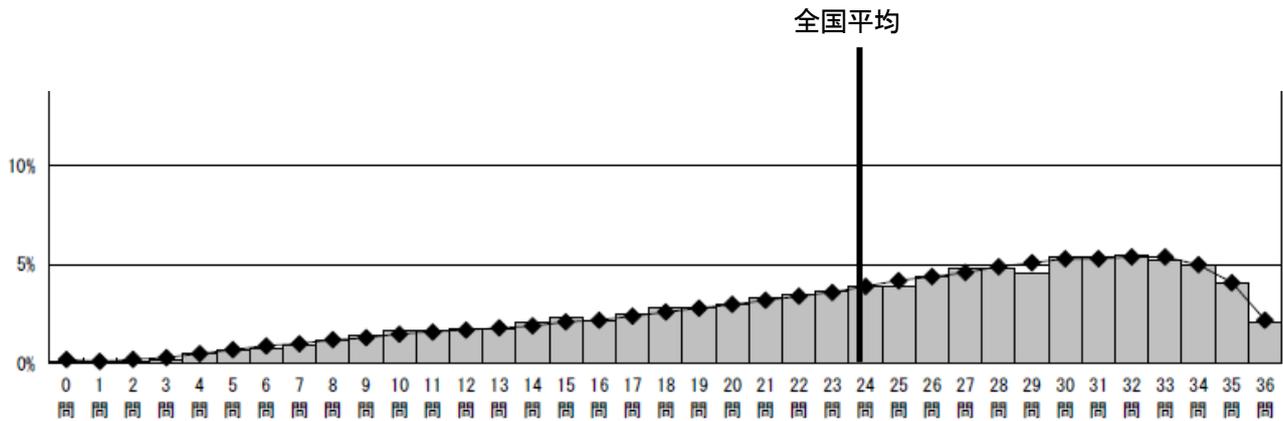
〔グラフ5〕 生徒数の分布(中学校国語A)



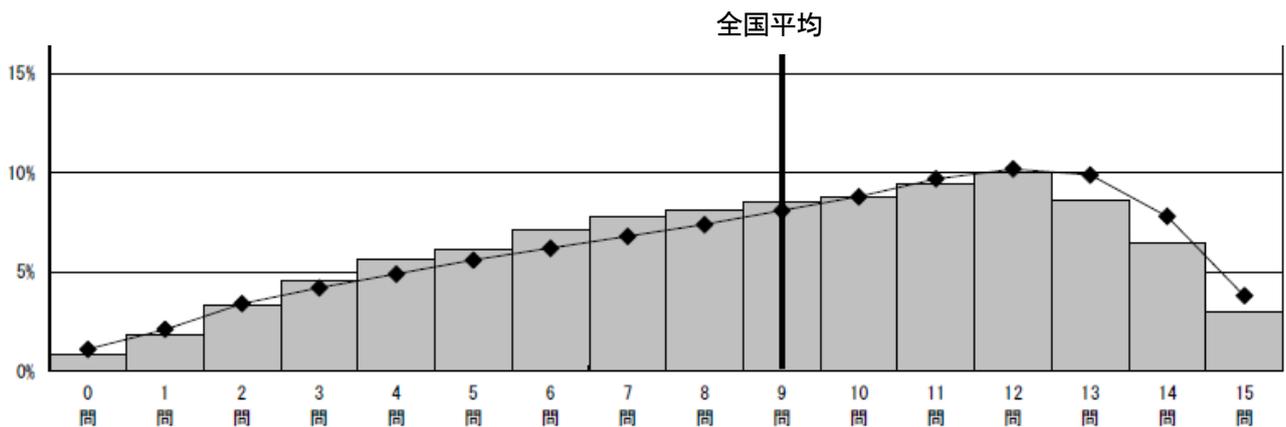
〔グラフ6〕 生徒数の分布(中学校国語B)



〔グラフ7〕 生徒数の分布(中学校数学A)



〔グラフ8〕 生徒数の分布(中学校数学B)



② 分析

◇:成果 ◆:課題

◇中学校では、国語Aが全国平均を上回り、数学Aも全国平均と同程度となった。一方、国語B、数学Bは依然として全国平均を下回っている。(表2)

◇国語A、数学Aの正答数の分布状況は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフ5、7)

◆国語Bの正答数の分布状況は、6問、7問正答した生徒の割合が全国よりも低く、2問、3問正答した生徒の割合が全国より高い。(グラフ6)

◆数学Bの正答数の分布状況は、13問以上正答した生徒の割合が全国よりも低く、4問から9問正答した生徒の割合が高い。(グラフ8)

2 過去7回（平成19年度～平成26年度）の調査結果の経年変化と分析

(1) 小学校調査

① 経年変化

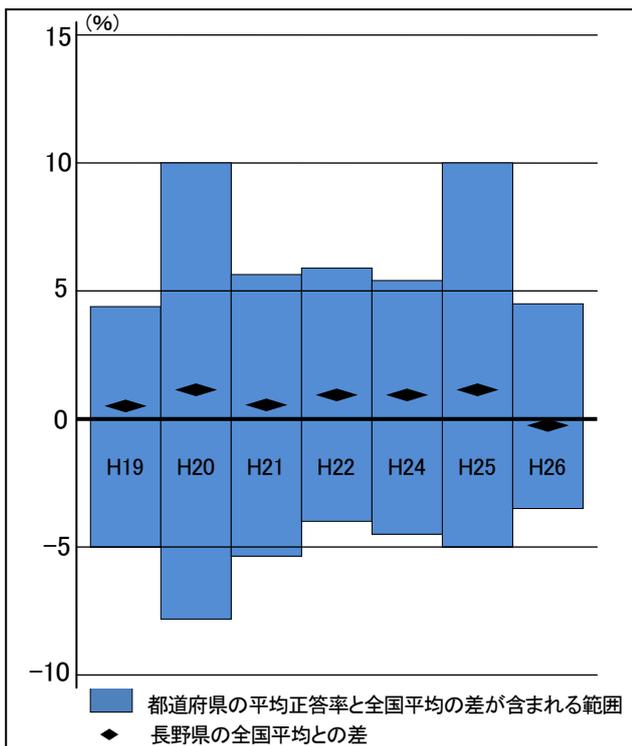
〔表3〕 教科に関する調査の平均正答率(H19～H26)

		国語A	国語B	算数A	算数B
H26	長野県（公立）	72.6	57.0	79.1	59.0
	全国（公立）	72.9	55.5	78.1	58.2
H25	長野県（公立）	63.7	50.3	77.8	59.5
	全国（公立）	62.7	49.4	77.2	58.4
H24 <sup>※</sup>	長野県（公立）	81.8～83.0	54.9～56.7	72.4～74.1	57.6～59.6
	全国（公立）	81.4～81.7	55.4～55.8	73.1～73.5	58.7～59.1
H22 <sup>※</sup>	長野県（公立）	83.4～84.9	77.7～79.5	72.9～75.0	47.6～49.4
	全国（公立）	83.2～83.5	77.7～78.8	74.0～74.4	49.1～49.5
H21	長野県（公立）	70.4	51.1	79.5	54.4
	全国（公立）	69.9	50.5	78.7	54.8
H20	長野県（公立）	66.5	51.2	72.1	51.2
	全国（公立）	65.4	50.5	72.2	51.6
H19	長野県（公立）	82.2	63.0	83.7	63.0
	全国（公立）	81.7	62.0	82.1	63.6

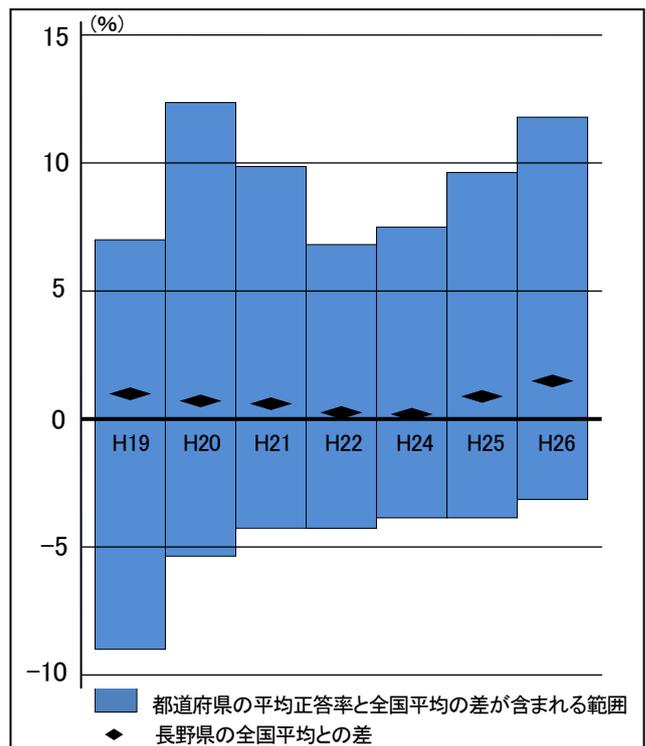
※H22、H24は抽出調査であったため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲が「○～○」と示されている。

各年度の長野県の平均正答率の全国平均との差

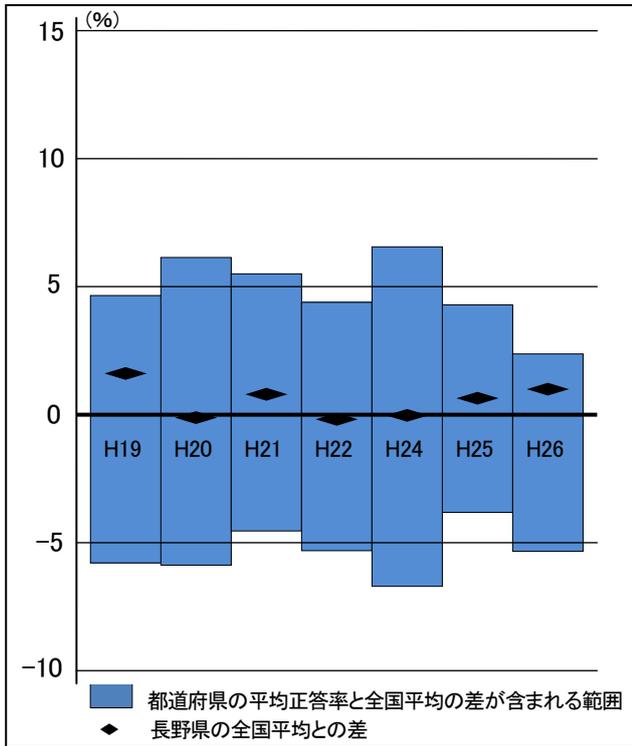
〔グラフ9〕 全国平均との差(国語A)



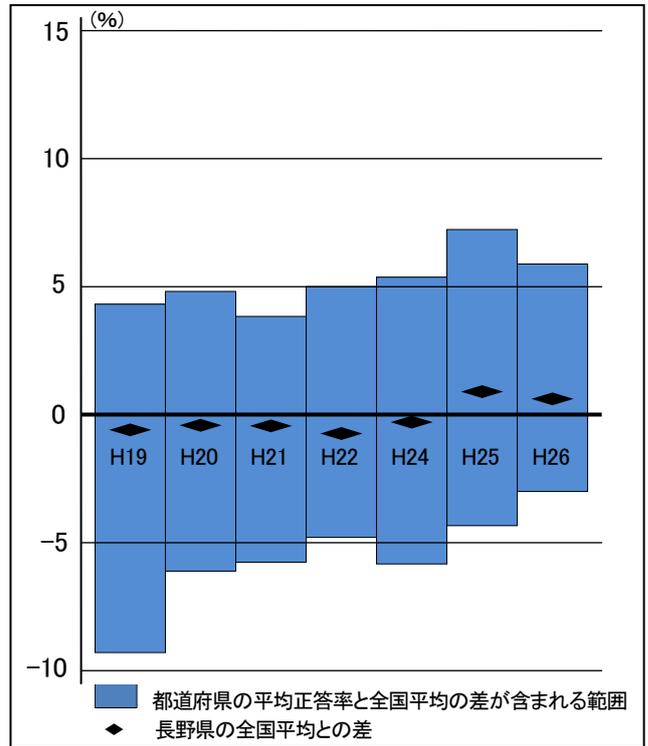
〔グラフ10〕 全国平均との差(国語B)



〔グラフ11〕 全国平均との差(算数A)



〔グラフ12〕 全国平均との差(算数B)



※H22、H24は抽出調査であったため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲の中央の値が用いられている。

② 分析

□:全国の傾向 ◇:成果 ◆:課題

□都道府県間の平均正答率の差は、年々縮小傾向にある。(グラフ9~12)

◇小学校国語Bは、全国平均を上回った状態で順調に伸びている。(グラフ10)

◇小学校算数では、A、Bともに全国平均との差はプラスに転じ良好な状態で推移している。

(グラフ11、12)

◆今年度全国平均を下回った国語Aについては、学習内容の確実な定着のための指導改善を図っていく必要がある。(グラフ9)

(2) 中学校調査

① 経年変化

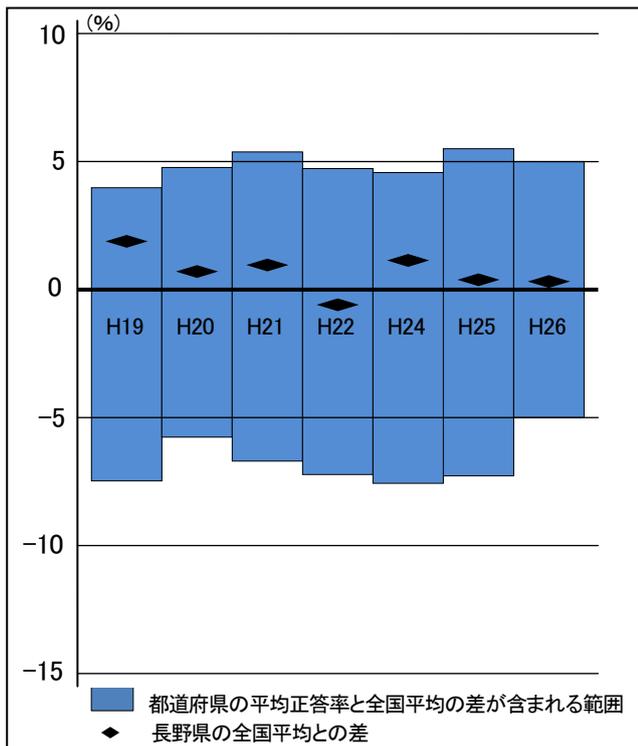
〔表4〕 教科に関する調査の平均正答率(H19～H26)

		国語A	国語B	数学A	数学B
H26	長野県（公立）	79.7	49.4	67.2	58.1
	全国（公立）	79.4	51.0	67.4	59.8
H25	長野県（公立）	76.8	65.9	61.9	40.2
	全国（公立）	76.4	67.4	63.7	41.5
H24 <sup>※</sup>	長野県（公立）	75.6～77.0	62.6～65.0	61.2～63.5	47.1～50.4
	全国（公立）	75.0～75.2	63.2～63.4	62.0～62.3	49.2～49.5
H22 <sup>※</sup>	長野県（公立）	73.6～75.2	62.6～65.0	61.1～64.1	39.7～42.8
	全国（公立）	75.0～75.2	65.1～65.5	64.4～64.8	43.1～43.5
H21	長野県（公立）	77.9	74.8	62.5	56.7
	全国（公立）	77.0	74.5	62.7	56.9
H20	長野県（公立）	74.3	61.3	63.2	50.3
	全国（公立）	73.6	60.8	63.1	49.2
H19	長野県（公立）	83.5	73.0	73.1	61.8
	全国（公立）	81.6	72.0	71.9	60.6

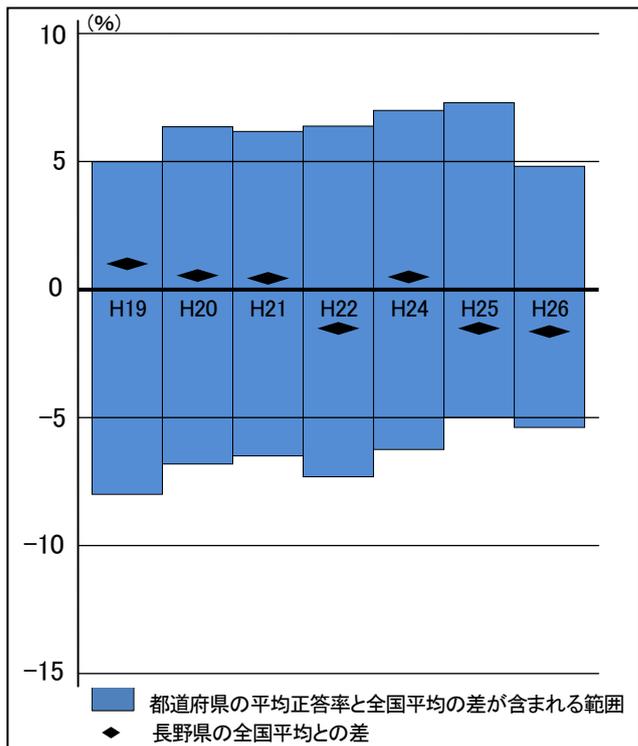
※H22、H24は抽出調査であったため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲が「○～○」と示されている。

各年度の全国平均と都道府県の平均正答率・長野県の平均正答率との差

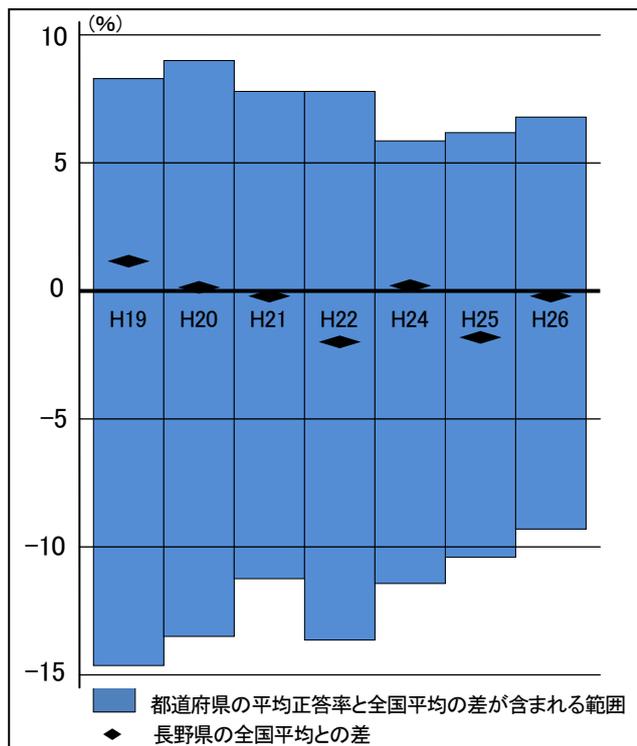
〔グラフ13〕 全国平均との差(国語A)



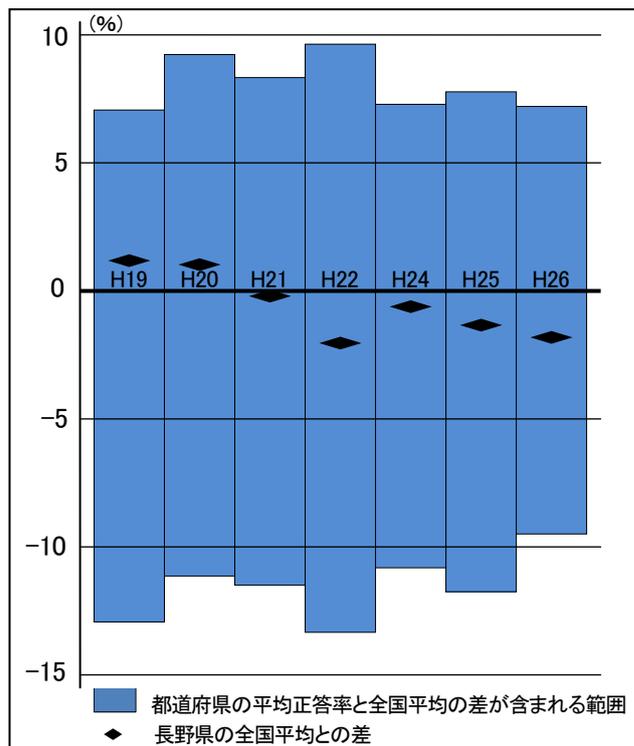
〔グラフ14〕 全国平均との差(国語B)



〔グラフ 15〕 全国平均との差(数学A)



〔グラフ 16〕 全国平均との差(数学B)



※H22、H24 は抽出調査であったため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲の中央の値が用いられている。

② 分析

□:全国的傾向 ◇:成果 ◆:課題

□都道府県間の平均正答率の差は、年々縮小傾向にある。(グラフ 13~16)

◇中学校では、国語Aについては全国平均を上回った状態で推移しているものの、全体として全国平均を下回る方向に推移している傾向が見られる。中学校数学Aは、全国平均を下回っているものの、平均との差が小さくなり、改善の兆しが見られる。(グラフ 13、15)

◆中学校国語B、数学Bは、依然として全国平均との差が大きく、知識・技能の活用について、指導の改善を図っていく必要がある。(グラフ 14、16)

※設問別の正答率等は、巻末の資料に掲載

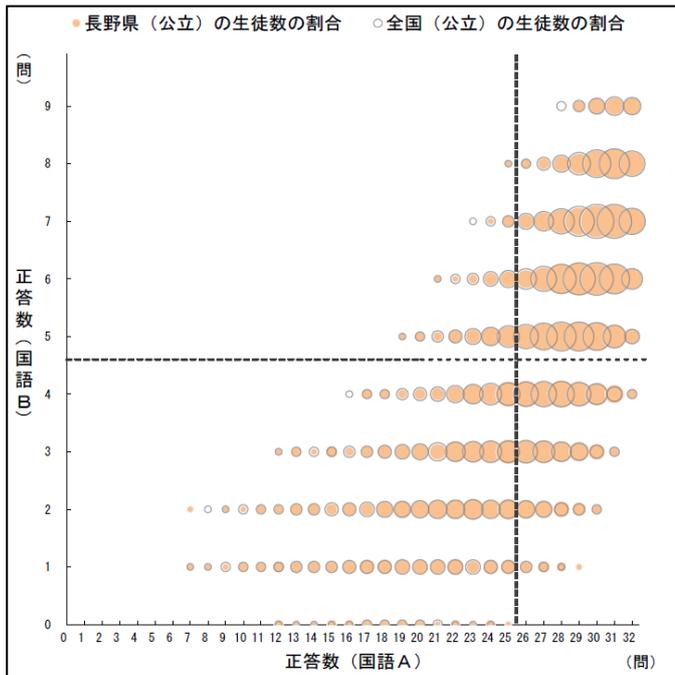
### Ⅲ 分析委員会における協議

#### 1 本県の学力の状況と課題

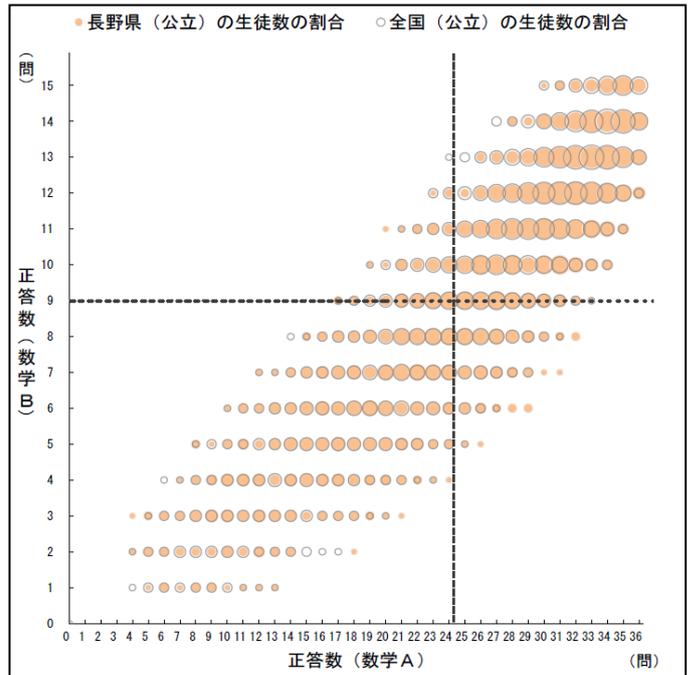
##### (1) 活用する力を支える知識・技能などの確実な定着の必要性

本県中学生の知識に関する調査（A問題）と活用に関する調査（B問題）の相関は、**グラフ1、2**のとおりである。

〔グラフ17〕 国語A、Bの正答数、正答生徒数の相関



〔グラフ18〕 数学A、Bの正答数、正答生徒数の相関



- ・グラフの点線は全国平均（公立）を示している。
- ・グラフ中の円状の図（バブル）の大きさは、生徒数を表している。

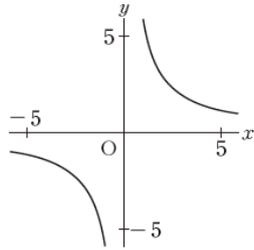
グラフ17、18から、国語Bの正答数が多い生徒は、国語Aの正答数も多い傾向にあり、国語Aの正答数が多い生徒は、国語Bの正答数において広く分布している。数学Bの正答数が多い生徒は、数学Aの正答数も多い傾向にあり、数学Aの正答数が多い生徒は、数学Bの正答数も多い傾向にある。この傾向は全国と同様であり、知識・技能の確実な定着と活用については、国語に比べて数学の方がより強い相関がみられる。

本県の中学校における調査結果は、国語Aは全国平均を上回り、数学Aは全国平均と同程度であるが、国語B、数学Bは依然として全国平均を下回っていることから、B問題で求められている活用力を支える知識・技能などについて、一層の定着が必要である。

例えば、平成26年数学A $\boxed{10}$ (4)は、「反比例について、グラフと表を関連付けて理解しているかどうかをみる」問題であり、長野県の正答率は46.7%（全国45.7%）である。

$\boxed{10}$ (2)「 $y$ が $x$ に反比例するとき、 $x$ の値と $y$ の値の変化の特徴を理解しているかどうかをみる」の正答率が、73.0%（全国75.9%）であることから、反比例の変化の特徴、表の特徴の理解することに加え、グラフと表を関連付けて理解することに本県の生徒の課題があるといえる。

(4) 次の図の曲線は、反比例のグラフを表しています。このグラフについて、 $x$ と $y$ の関係を示した表が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



【平成 26 年中学校数学A 10(4)】

ア

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	-2	-3	-6	X	6	3	2	...

イ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	-2	-4	-6	X	6	4	2	...

ウ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	-1.5	-3	-6	X	6	3	1.5	...

エ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	2	3	6	X	-6	-3	-2	...

国語A 6一は、「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することができるかどうかをみる」問題であり、長野県の正答率は51.5%（全国54.3%）である。示された内容を適切に取り上げて相違点を説明することができない誤答の割合が、39.7%あることも併せて考えると、共通点や相違点を整理することに本県の生徒の課題がある。

数学、国語の問題例から、本県生徒の課題の一つとして、複数の情報を関連付けて考えることが十分にできていないことがあげられる。このような知識の定着は、ドリルなどの単なる繰り返しだけで身に付くものではない。学習している内容の意味を正しく理解していない生徒がいることが予想されることから、中学校の授業の質を改善していくことが一層求められているといえるであろう。

平成 26 年度の教科調査における各設問で、正答率が 7 割を下回る問題の数は表 5 のとおりである。数学Aで1問の違いがあるものの、全国の状況と比べて大きな差はみられない。

また、A問題の正答の状況について正答率の高い県と比較したところ、正答率に5ポイント

【黒板】

題名の候補について		
候補	メモリー ～いつも隣に友がいた～	はばたき ～きずなを胸に～
整理	学級の団結力	
共通点		
相違点	過去の思い出	

6 岩田さんの学級では、卒業文集の題名を決めています。次は、話し合いの内容を整理した【黒板】と【話し合いの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【黒板】にある相違点の欄の□に当てはまる言葉を、高橋さんの発言の中にある言葉を使って、六字以内で書きなさい。

【話し合いの一部】

岩田さん（同会）

前回、題名の候補を「メモリーいつも隣に友がいた」と「はばたききずなを胸に」に絞りました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の推薦者から再度意見を聞きまします。そして、話し合って決めます。それでは、南さんからお願します。

南さん

「メモリーいつも隣に友がいた」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出すことでしょうか。また、副題から、学級でいつも団結できたことも表せます。

高橋さん

「はばたききずなを胸に」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、何事も団結して取り組んだ学級のこと「きずな」という言葉に込められているからです。

【平成 26 年中学校国語A 6一】

【表5】 正答率が7割を下回る問題数

	国語A	国語B	数学A	数学B
長野県	5/32	9/9	19/36	10/15
全国	5/32	9/9	18/36	10/15

以上の差がある設問はあるものの、問題の領域、形式に目立った特徴はみられない。

このことから、本県の中学生の学習の定着状況は、全体に課題があるのであり、特定の分野・領域に限って定着状況がよくないということではないと考えられる。

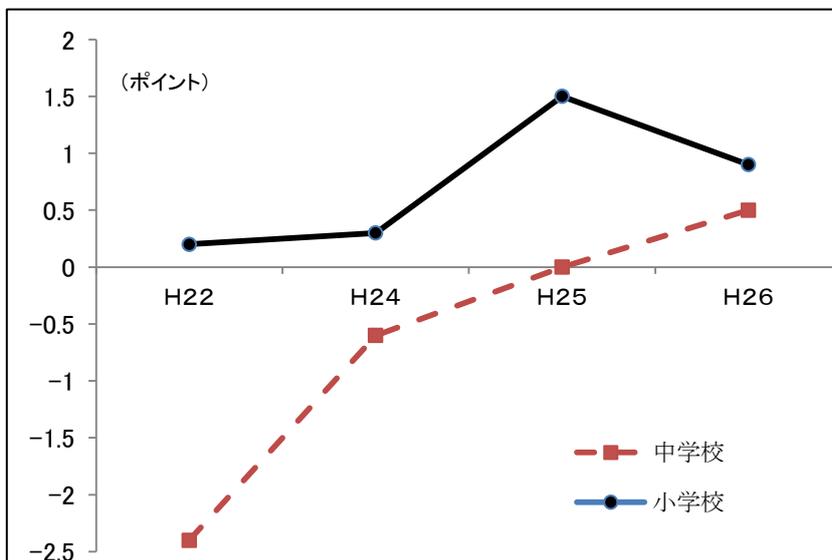
## (2) 学習に対する関心・意欲・態度の向上：無解答率の意味

グラフ 19 は、記述問題におけ

〔グラフ 19〕 記述問題における無解答率の経年変化

る全国の無解答率との差の経年変化を表している。(全国の無解答率－長野県の無解答率)の変化から、差のポイントが大きいかほど全国の無解答率より長野県の無解答率が低いことを意味している。

無解答率自体は、平成 22 年度から、小学校、中学校ともに低くなってきている。小学校の無解答率は、全国より常に低い。一方、中学校の無解答率は、平成 22 年度は全国よりかなり高かったものの、年々低くなり、平成 26 年度は全国を下回っている。

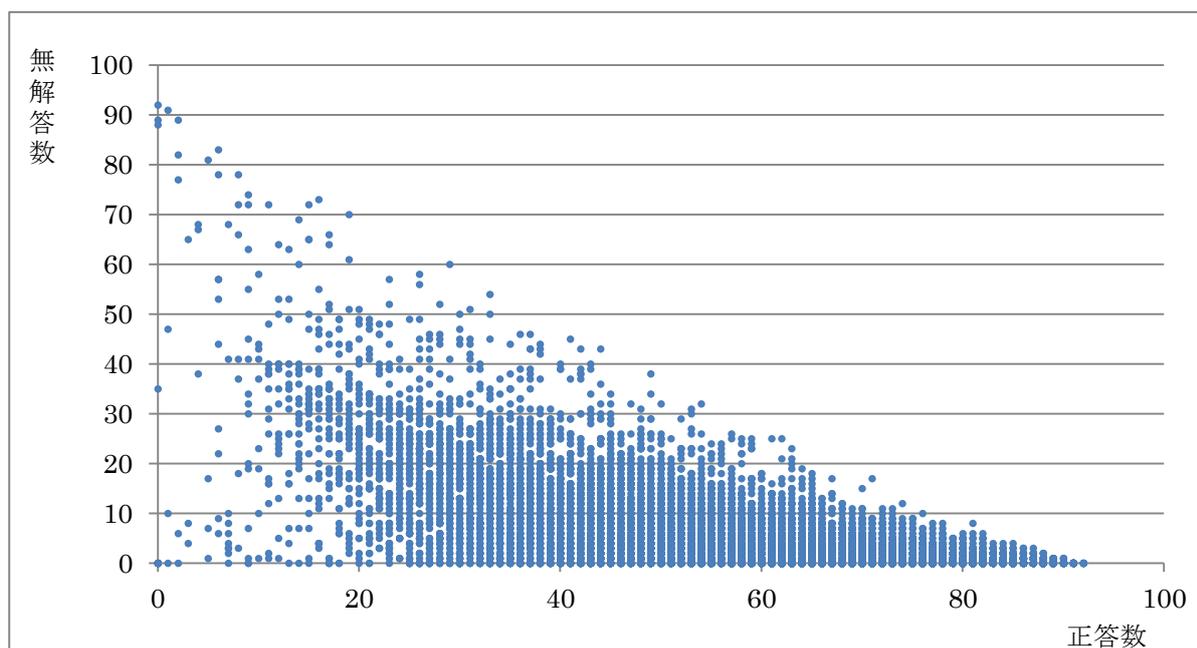


平成 22 年度は全国よりかなり高かったものの、年々低くなり、平成 26 年度は全国を下回っている。

グラフ 20 は、4 つの科目の全設問を合計した正答数と無解答数の関係を表している。

正答数の多い生徒ほど無解答数は少ない傾向が読み取れる。誤答数は問題の難易に影響されることは当然あるが、解答欄を空欄にしない生徒は、何とか問題を解こうとする傾向が強いと言える。このことから、学力の定着を考えると、無解答率について検討することは、意味のあることであると考えられる。

〔グラフ 20〕 正答数と無解答数の関係

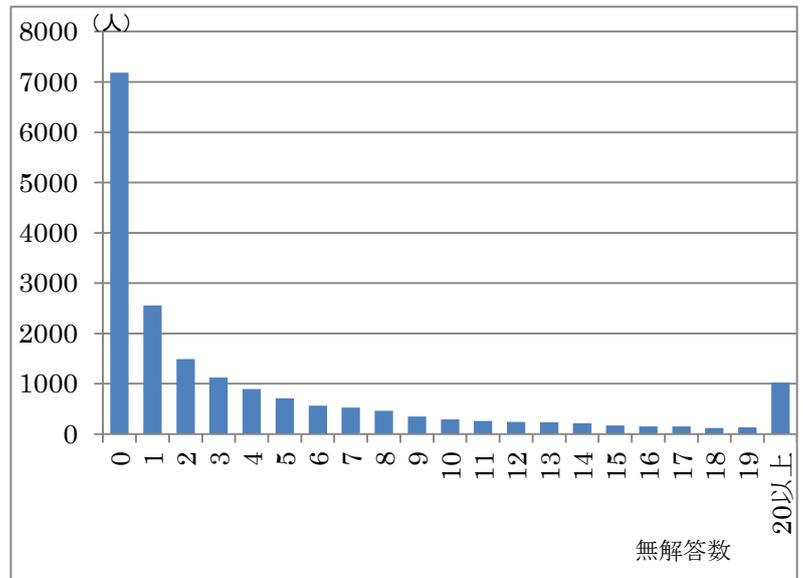


【グラフ 21】 4科目の無解答数

グラフ 21 は、国語 A、B、数学 A、B の 4 科目について、無解答数の合計を表している。

ほとんどの生徒は、無解答数が 10 問以内（全問数の約 10%）であり、おおむね良好であるが、注目すべき点は、20 問以上空欄の生徒が、県内に約 1000 人（約 5.5%）いることである。

無解答である理由はさまざまであり、数字のみをもって全てを語ることは危険であることは当然であるが、



一つの調査の問題数が 16 問～38 問であることを考えると、この数字を無視することはできない。無解答が極端に多い生徒が一定数いることを忘れずに指導に当たることが必要である。

生徒が、本調査において解答欄に何も書かないことについて、次のような要因がないのかどうかを、各学校、教員が検討してみる必要がある。

- 児童生徒が、答えが正しいかどうかに関心が強く、答えが違ふと自ら判断し解答しなかったのではないか。これは、普段の授業において教師が、正しい答えを出すことを求め、答えに至る過程を軽視しがちになっていることに起因しているのではないか。
- 児童生徒が、答えがわからないからすぐにあきらめてしまっているのではないか。粘り強く追究することを保障し、支援するような授業が工夫されているか。

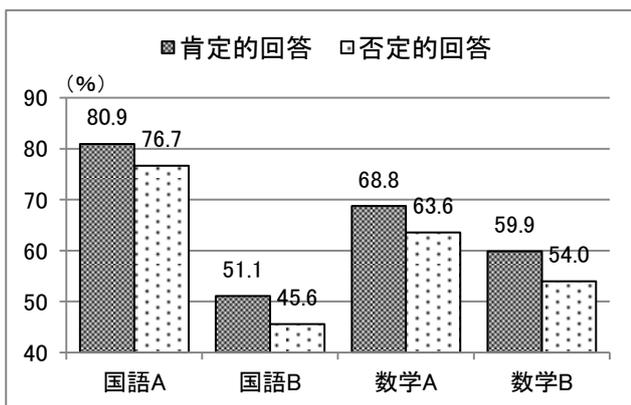
### （3）中学校において授業改善を推進する必要性：目標の明示と振り返りの確保・充実

調査結果から、本県では、小学校の結果が概ね良好であるのに対し、中学校の結果に課題があることから、中学校の学習指導に焦点をあてて協議を行った。

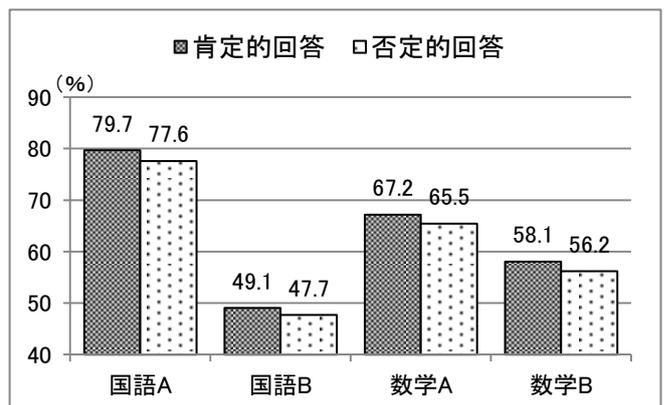
授業のはじめに目標を示す活動、授業の最後に学習を振り返る活動を位置付けることについて、正答率と関係があることが指摘されている。

グラフ 22 は、授業のはじめに目標が示されているかと思っているかどうかと、平均正答率の関係、グラフ 23 は、授業の最後に学習を振り返る活動を行っているかと思っているかどうかと正答率の関係である。（いずれも生徒質問紙）

【グラフ 22】 授業のはじめに目標を示す活動と正答率の関係



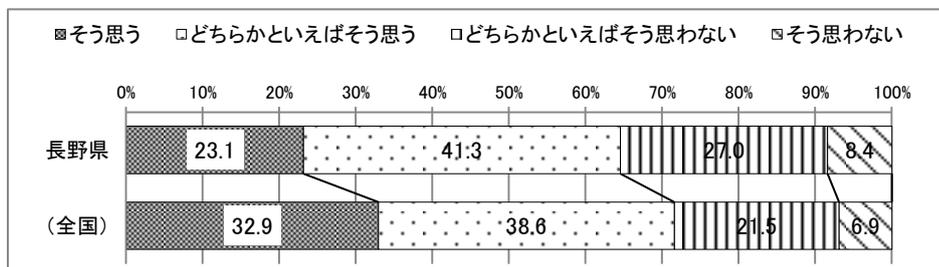
【グラフ 23】 授業の最後に学習を振り返る活動と正答率の関係



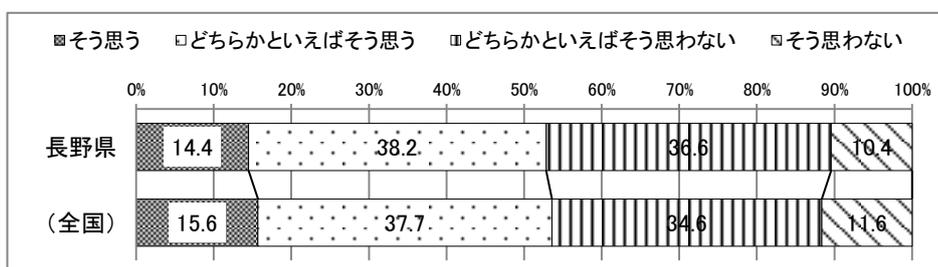
4科目のいずれにおいても、授業のはじめに目標が示されていると思っている生徒、授業の最後に学習を振り返る活動を行っていると思っている生徒は、平均正答率が高い傾向がみられる。

グラフ 24、25 は、授業のはじめに目標（めあて、ねらい）を示す状況について表している。

〔グラフ 24〕 授業のはじめに目標が示されていると思う（長野県・全国）



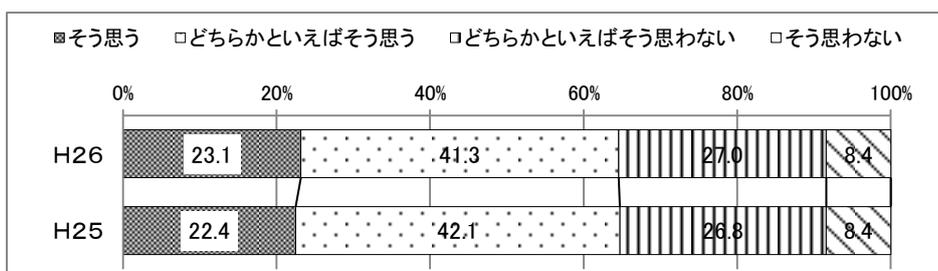
〔グラフ 25〕 授業の最後に学習を振り返る活動が行われていると思う（長野県・全国）



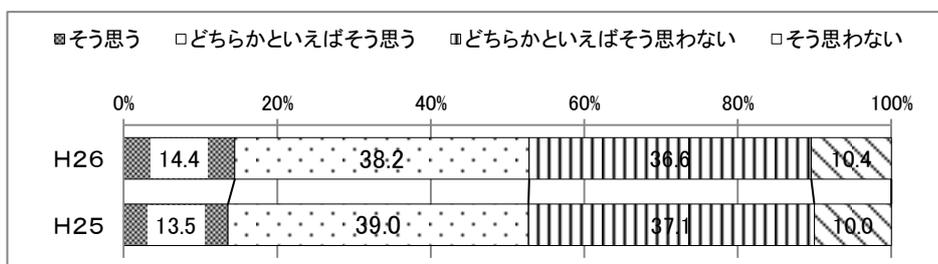
グラフ 24 から、授業のはじめに目標が示されていると思っている生徒は 23.1% であり、全国より 9.8 ポイント低く、グラフ 25 から、授業の最後に学習を振り返る活動を行っていると思っている生徒は 14.4% であり、全国より 0.8 ポイント低い。

グラフ 26、グラフ 27 は、目標を示す活動、学習を振り返る活動についての経年変化を表している。

〔グラフ 26〕 授業のはじめに目標が示されていると思う（長野県経年）



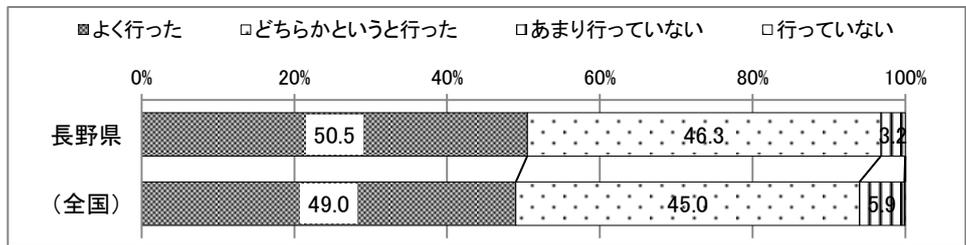
〔グラフ 27〕 授業の最後に学習を振り返る活動が行われていると思う（長野県経年）



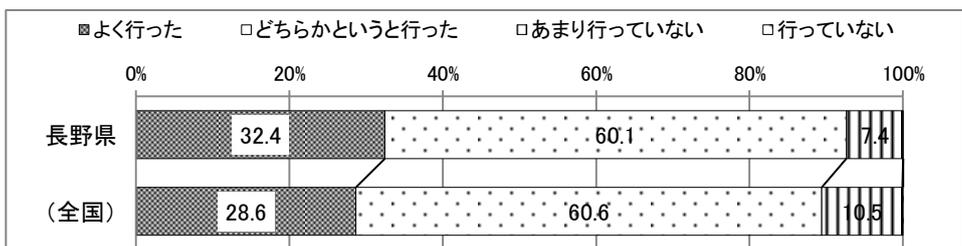
授業のはじめに目標が示されていると思っている生徒は、平成 25 年度が 22.4%、平成 26 年度が 23.1% である。授業の最後に学習を振り返る活動が行われていると思っている生徒は、平成 25 年度が 13.5% で、平成 26 年度が 14.4% である。若干ではあるが、目標を示す活動、学習を振り返る活動を行っていると思っている生徒が増加している。

また、授業のはじめに目標を示す活動、授業の最後に学習を振り返る活動を行っていても、生徒にはそのように受けとめられていない場合があることも考えられる。グラフ 28、29 は、目標を示す活動、学習を振り返る活動についての学校質問紙の回答状況である。

〔グラフ 28〕 授業のはじめに目標を示す活動を行った(学校質問紙)



〔グラフ 29〕 授業の最後に学習を振り返る活動を行った(学校質問紙)



授業のはじめに目標を示す活動をよく行ったと回答した学校は 50.5%、授業の最後に学習を振り返る活動をよく行ったと回答した学校は 32.4%である。グラフ 24、25 の生徒の回答状況と比べると、学校質問紙における肯定的な回答の割合が、生徒質問紙の割合より高いことがわかる。

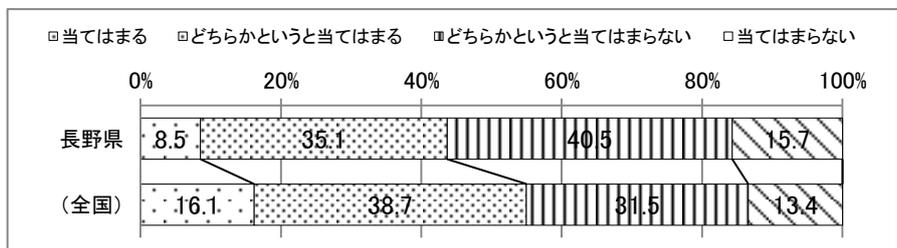
このことから、授業において、目標の明示や振り返りを行っていると教師が思っているにもかかわらず、そう捉えていない生徒が一定程度いることを頭に入れ授業を改善していくことが大切であるといえる。例えば、「それでは、今日の問題を解くコツを見付けよう」など、学習を振り返る活動であることを生徒に伝えた上で、その日に学習した内容や解決に用いたアイデアを黒板とノートにまとめる、まとめた内容やアイデアを用いて確認問題を解くなどの活動を設けるようにしたい。

#### (4) 探究的な活動としての総合的な学習の時間の充実

総合的な学習の時間は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」ことが目標である。

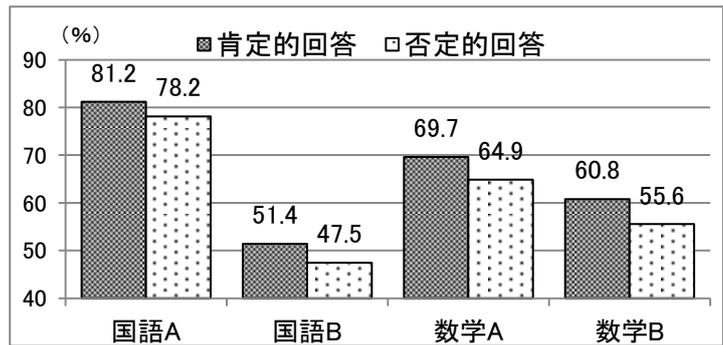
グラフ 30 は、総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる状況である。肯定的な回答をした本県の生徒の割合は、43.6%で、全国より 11.2 ポイント低い。

〔グラフ 30〕 総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動の状況(生徒質問紙)



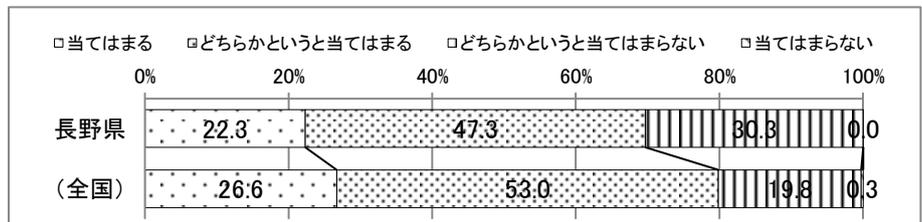
グラフ 31 は、総合的な学習の時間に探究的な活動を行ったことと正答率の関係である。肯定的な回答をした生徒は、平均正答率が高い傾向がみられる。その傾向は、A問題の結果よりB問題の結果の方がやや大きい。自分の課題やテーマの解決に向けて情報収集・情報整理、まとめる等探究的な学習の過程のなかで必要な情報を整理したり、わかりやすくまとめるなど工夫したりする課題解決的な学習を、全教育活動で充実させることは、生徒の思考力や表現力の育成に関係していることも考えられる。

〔グラフ 31〕 総合的な学習の時間の、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動と正答率の関係



総合的な学習の時間に生徒が行っている活動が、探究的な活動であると自覚して行われていない現状があることに加え、探究的な活動を十分に意図して授業が展開されているのだろうかとの指摘がされた。

〔グラフ 32〕 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導の状況(学校質問紙)



総合的な学習の時間に、教師が課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたかどうかの状況である。69.6%の学校で、探究的な活動に取り組んでいると回答している。グラフ 30 の回答状況と比べると、学校では探究的に取り組んでいるが、そう受け止めていない生徒が一定程度いることが伺える。生徒自身が、自覚できる探究的な活動を行うことが必要である。そのためには、課題解決的な学習、協同的な学習を教師自身が意識して行う必要があることも指摘された。

教科調査で良好な結果を示している学校における総合的な学習の時間の取組は、次のような特徴が認められる。

- 総合的な学習の時間のテーマ設定については、生徒の興味・関心を大切にしたり、3年間を通した課題を設定したり、学級全体で一つの課題に取り組んだりするなどの工夫をしている。
- 情報収集について、地域へ出向き自分の体験に基づく情報収集の場を大事にしている。
- 地域の人材や外部講師等とのつながりを大切に、人とのかかわりを深める学習をしている。

具体的には

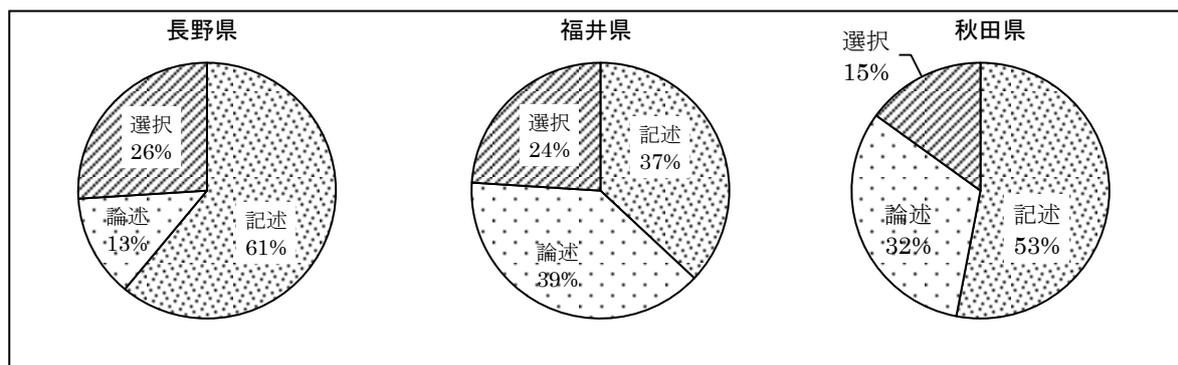
- ・ 地域の方を講師として 13 講座を開設。興味・関心のある講座を選んで個人テーマを設定し、地域素材を生かして追究を進めながら、講師の生き方や考え方から学ぶことを大切にしている。
- ・ キャリア教育を軸とした「地域とふれ合う」を 3 年間のテーマとし、1 年次は一人暮らしのお年寄りとの交流活動、2 年次は職場体験、3 年次は地域の先輩の講演会等の学習を進めている。
- ・ 1 年次は学級全体で地域に出て、文化や歴史、環境等の調査・研究活動を行い、2 年次は地域のよさをさらに深く知るために職場体験を行っている。3 年次は地域の方を講師とした講座で地域の特徴をさらに追究し、学んだことを様々な場面で地域や保護者へ発信している。
- ・ 地域にかかわったテーマを個人で設定。教育課程を工夫して一日総合の日をとり、地域の講師から直接話を聞きながら学ぶ機会をとるなど、生徒自らが情報収集して追究できるようにしている。

- ・地域の講師から直接話を聞いたり、テーマにかかわる場所を実際に見学したりして、自分の考えをまとめることを大切にしている。また、地域や保護者への発信の場を位置付けている。
- ・外部講師から学ぶ機会を積極的に取り入れている。また、2年次の職場体験の事前・事後学習として、地域や様々な職場へ出てインタビューしたり、体験した職場の方に話を聞いたりして、自分の体験に基づく情報をまとめることを大切にしている。
- ・地域の伝統文化や食文化、自然をテーマとして、地域の方とともに体験や調査を行いながら学習を進めている。また、地域の方に向けて学んだことを発表する機会を大切にしている。
- ・1年次に地域の講師から学ぶ講座を開設。2年次の職場体験、3年次の福祉施設訪問活動においても、地域の人から学ぶ活動を大切にしている。
- ・学校テーマとして平和を取り上げている。地域や県内の戦争遺跡見学、広島への修学旅行等においてフィールドワークを行い、現地の人と直接話をし、人とのかかわりを深めながら追究している。

#### (5) 「記述」及び「論述・証明」の問題の充実：県立高等学校入学者選抜学力検査

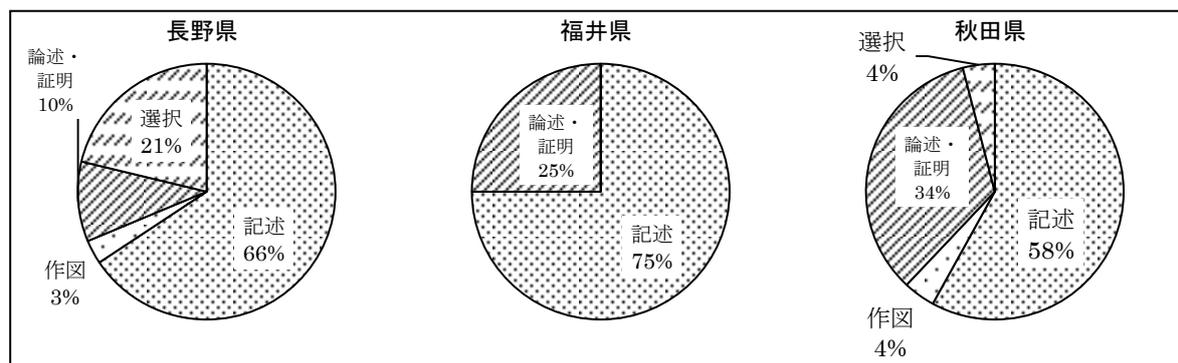
長野県と秋田県、福井県における公立高等学校の入学者選抜検査学力検査問題における問題形式別の配点割合は、グラフ 33、34 のとおりである。

〔グラフ 33〕 形式別配点割合 国語



記述:用語や単語で答える問題 選択:記号で答える問題 論述:文章で答える問題

〔グラフ 34〕 形式別配点割合 数学



グラフ 33、34 から、国語の論述問題の配点は長野県が全体の 13%、福井県は全体の 39%、秋田県は全体の 32%である。数学の論述・証明問題の配点は、長野県が全体の 10%、福井県は全体の 25%、秋田県は 34%である。高等学校入学者選抜学力検査の問題が、中学校の授業に一定の影響力を及ぼすことから、活用力のさらなる育成のために、選択問題を減らし、「記述」及び「論述・証明」の問題を増やすことが必要であるといえる。

本県の検査問題は、福井県や秋田県と比べ論述問題（証明問題）の配点割合が低い状況にある。

本県の高等学校入学者選抜学力検査問題については、改善も進んでいると聞く。特に数学において、全国学力・学習状況調査のB問題と同様な趣旨の問題が見られるようになっているが、問題の質について、さらに改善を進めていく必要があるといえる。

## （6）本県の学力向上に関する提言

### ■ 活用力を支える知識・技能などの確実な定着を図る。

- 活用力を支える知識・技能などは、ドリル等の単なる繰り返しだけで身に付くものではない。ある知識や技能がどのような場面で活用されるのかを授業で明らかにすることによって、目的意識を伴いつつ知識・技能が習得されるよう授業及び家庭学習が改善されていくことが期待される。

### ■ 目標を示す活動や学習を振り返る活動を重視した授業改善の充実を図る。

- 課題探究型の学習、協働的な学びなど、新たな学びを展開できる教員の実践的指導力の向上が求められている。（中教審教育振興基本計画部会）
- 本県の中学校では、目標を示す活動や学習を振り返る活動について、生徒自身が自覚していない状況がある。授業のねらいが確実に示され、そのねらいに沿った振り返りの活動を位置付けた授業が展開されていくことが必要である。

### ■ 授業改善を進めるための具体的な支援を行う。

- 授業改善の成果が目に見える形で表れていない現状が伺われる。教師一人一人が具体的に授業改善のポイントをイメージできるよう周知する。
- 例えば、研修会で、ワークショップやロールプレイを取り入れたり、指導主事の学校訪問で指導主事が模擬授業を行ったりするなど、授業改善について教師が具体的なイメージを持つように支援していくことが必要である。

### ■ 総合的な学習の時間における探究的な活動を充実させる。

- 総合的な学習の時間において探究的な活動を行うことは、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために必須のことである。
- 県内の一部の学校では、総合的な学習の時間が、行事の準備等に充てられている状況にある。総合的な学習の時間では育てたい力を明確にして、児童生徒が「ひと・もの・こと」とかかわりながら、探究的な活動が行えるようにしていく必要がある。

### ■ 県立高等学校入学者選抜学力検査について検討する。

- 県立高等学校入学者選抜学力検査問題に論述や証明などの「考えて書く問題」を出題することにより、日頃の授業においても「考えて書く指導」がなされていることが期待される。
- 中学生にとって、高校入試は大きな目標であることも考えると、日頃の授業、定期テスト、全国学力・学習状況調査、高等学校入学者選抜学力検査問題により関連性を持たせて、生徒を適切に評価できるよう研究していくことが望ましい。そのために、高等学校入学者選抜学力検査の課題について、関係者が検討する機会を設けていく必要があるのではないかと。

## 2 家庭学習の改善

昨年度、本分析委員会において、学習内容の確実な定着を図るために家庭学習の重要性についての議論がなされた。その中で、家庭学習の内容を、予習、復習等の授業と関連する課題としたり、一人一人の学習状況に応じた内容や方法を指導したりすることが重要であるなどの方向を示した。また、「家で、自分で計画を立てて学習する」「家で、授業の復習をする」と回答した生徒は、「していない」と回答している生徒に比べて正答率が高いことについても指摘をした。

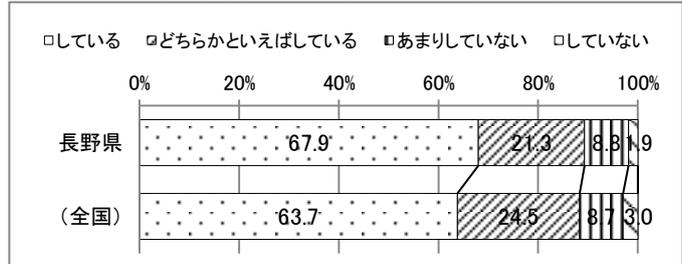
### (1) 中学生の家庭学習の改善の必要性：計画を立てる、授業の復習をする

本年度の中学生が、家で学校の宿題をしている状況については、**グラフ 35**、**36** のとおりである。

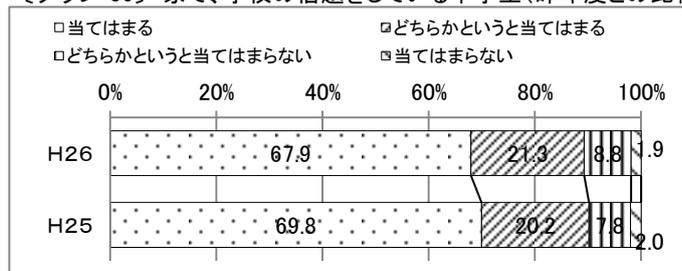
**グラフ 36** から、「家で、学校の宿題をしている」（している、どちらかといえばしている）と答えた生徒の割合は 89.2%あり、全国よりも 1.0 ポイント高い。しかし、昨年度の状況と比較してみると 0.8 ポイント低くなっている。

このことから、家で学校の宿題に取り組む中学生の割合が全国に比べて若干大きいものの、その割合はわずかに減ってきていることが伺える。

【グラフ 35】 家で、学校の宿題をしている中学生(全国との比較)



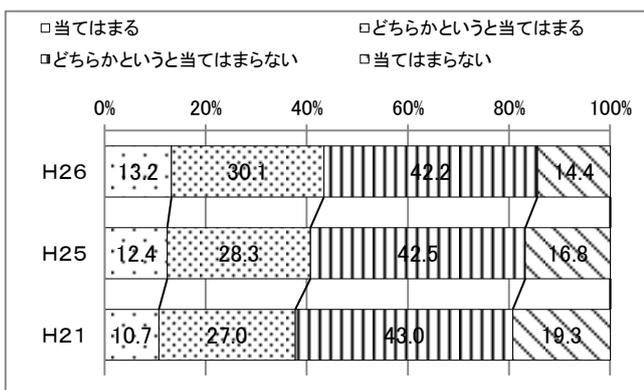
【グラフ 36】 家で、学校の宿題をしている中学生(昨年度との比較)



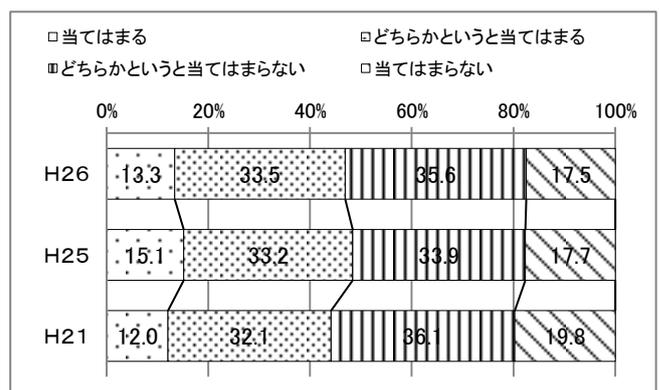
**グラフ 37** から、「家で、自分で計画を立てて学習している」（している、どちらかといえばしている）と答えた生徒の割合は 43.3%で、昨年度に比べて 2.6 ポイント高くなっている。全国と比べると 3.3 ポイント低い状況であるものの、平成 21 年度の状況から見ても改善の兆しが見える。

**グラフ 38** から、「家で、学校の授業の復習をしている」（している、どちらかといえばしている）と答えた生徒の割合は 46.8%で、昨年度に比べて 1.5 ポイント低くなっている。全国に比べても 3.6 ポイント低く、家で、学校の授業の復習に取り組む状況については、依然として課題がある。

【グラフ 37】 家で、自分で計画を立てて学習している中学生  
(経年比較。いずれの年も悉皆調査)



【グラフ 38】 家で、学校の授業の復習をしている中学生  
(経年比較。いずれの年も悉皆調査)

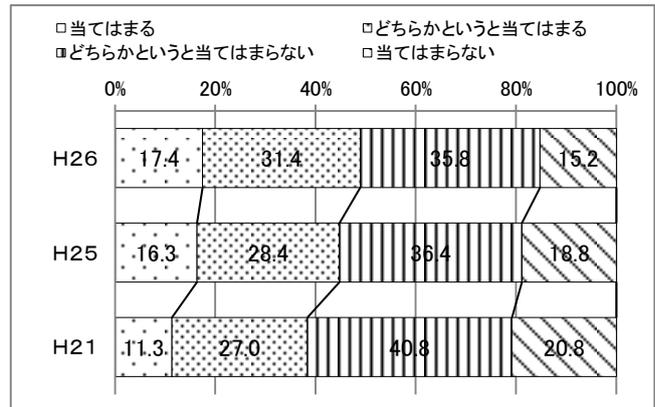


## (2) 家庭学習充実の方向性：調べる、文章を書く

グラフ 39 から、「家で、学校の授業の復習をしている」（している、どちらかといえばしている）と答えた児童の割合は 48.8% で、昨年度に比べと 4.1 ポイント高くなっている。平成 21 年度からの推移を見ても、割合は高くなってきている。

先に示したグラフ 38 の中学生の状況と比較すると、小学校では改善の傾向が見られるのに対し、中学校では伸びていると言えず、小学生と中学生の取組の違いが明らかである。

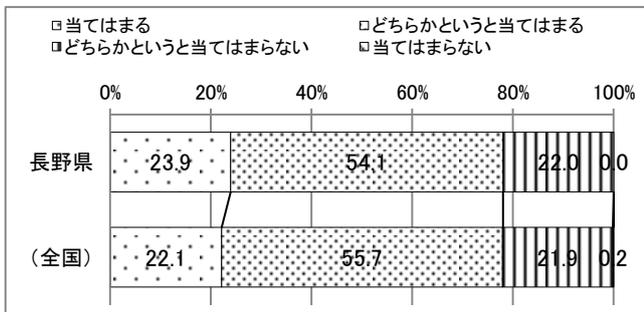
〔グラフ 39〕 家で、学校の授業の復習をしている小学生  
(経年比較。いずれの年も悉皆調査)



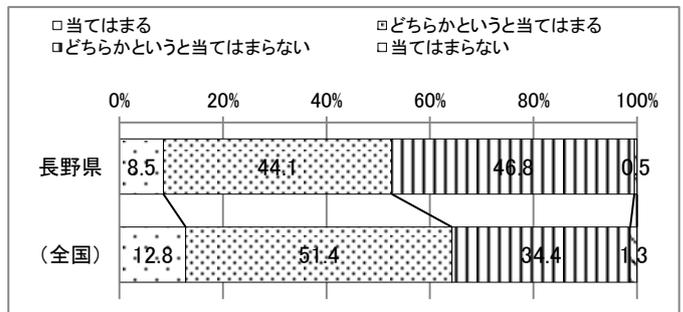
次に、調査学年の児童生徒に対して、「前年度までに家庭学習の取組で、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた割合」を比較してみると、グラフ 40 から、小学校は 78.0% で全国に比べて 0.2 ポイント高く、グラフ 41 から、中学校は 52.6% で全国に比べて 11.6 ポイント低い。小学校と中学校の割合を比較すると、25.4 ポイントの開きがある。

このことから、小学校に比べて、中学校で、調べたり文章を書いたりする課題があまり与えられていない状況があり、小学校と中学校の課題の内容の違いがあることが伺える。

〔グラフ 40〕家庭学習の取組で、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた小学校(学校質問紙)



〔グラフ 41〕 家庭学習の取組で、調べたり文章を書いたりしてくる課題を与えた中学校(学校質問紙)



## (3) 家庭学習の改善に関する提言

### ■ 学習内容を確実に定着させるために、家庭学習の内容の充実を図る。

- 宿題に取り組めていない中学生が増えた状況から、家庭学習に取り組むことに意味を見いだせていないことも考えられる。家庭において学習に向かえるようにするためにも、家庭学習の内容を、予習、復習等が授業と関連する課題にしたり、個に応じた内容や方法を指導したりする取組を一層進めていくことや、家庭学習の内容を確実に点検することが必要である。

### ■ 小中の連携した取組を進める。

- 中学校に比べて小学校の取組が充実していることから、小中の学習内容について情報交換したり、接続学年の学習内容や学習方法を関連付けたりすることなどによって、家庭学習についても、9年間を通して子どもの学習習慣を築くという視点から、小中の連携・接続を図っていく必要がある。

### 3 基本的な生活の改善

昨年度、本分析委員会において、学力向上のために児童生徒の基本的な生活の確立が欠かせないと認識に立ち、生活と学力の関係について議論された。本年度は、特に「睡眠の量と質」という観点からも分析をした。

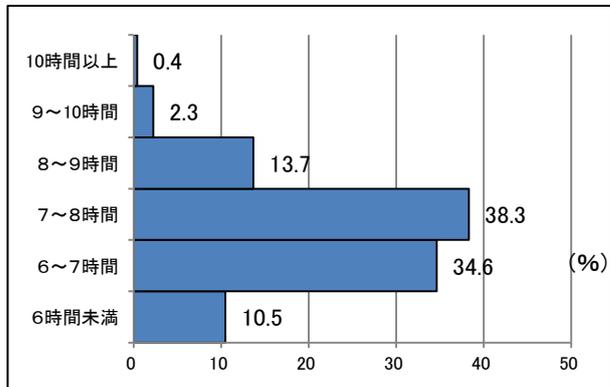
#### (1) 睡眠の改善：量と質

グラフ 42、43 は、全科目で全国平均正答率を上回った本県中学生及び小学生について、睡眠時間ごとの構成比を表したものである。グラフ 26 から「7～8時間の睡眠時間」の生徒が 38.3%と最も高く、「9 時間以上の睡眠時間」の生徒は 2.7%と非常に少ない。

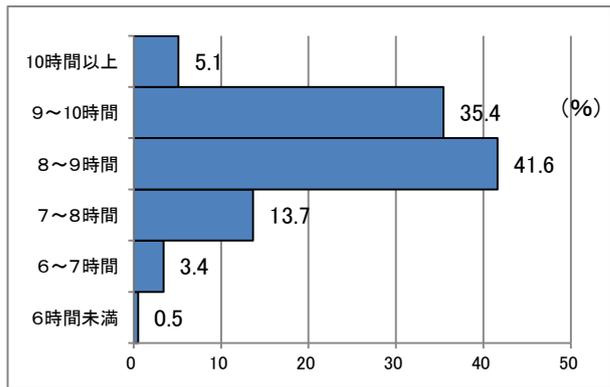
このことから「睡眠時間」と「正答率」の間には、一定の関係があるといえる。睡眠時間と日中の眠気や居眠り、イライラ感、学業成績との関連については、いくつかの報告\*がされている。厚生労働省が示した「健康づくりのための睡眠指針 2014」の中にも、睡眠不足が注意力や作業能率の低下につながると記されている。また、福井県の若狭町立三宅小学校では、「睡眠朝食教室」という睡眠や朝食について学ぶ取組により、夜 10 時以降に眠る児童や不登校児童が減少するなどの成果があがっている。本県においても、児童生徒の睡眠の質と量など、基本的な生活の改善に目を向けていく必要があると考える。

グラフ 44 は、本県の中学生の睡眠時間を表している。「睡眠時間が 7 時間未満」の生徒の割合は 42.7%であり、全国平均を 3.4 ポイント上回っており、睡眠時間が短い生徒の割合がやや高い。また、グラフ 45 は、本県の中学生の普段の起床時刻を表したものであり、グラフ 46 は就寝時刻を表したものである。本県の中学生では、「6 時 30 分より早く起きる生徒」の割合が 72.6%であり、全国平均を 32.9 ポイント上回っている。また、「午後 11 時前に就寝する生徒」の割合は 46.5%と、全国平均を 12.6 ポイント上回っている。

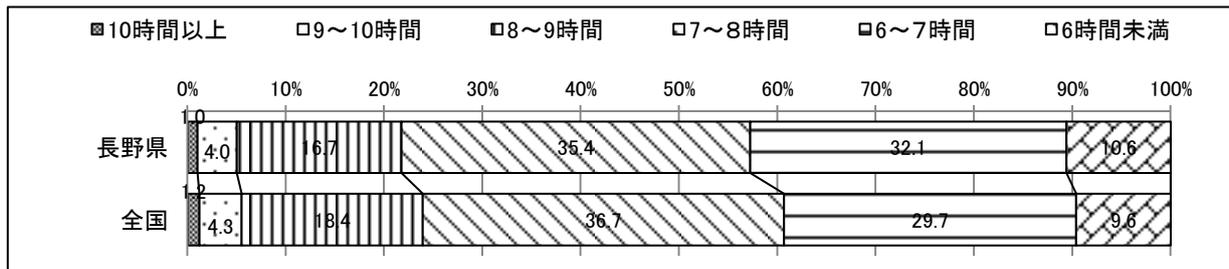
〔グラフ 42 全科目で全国平均正答率を上回った本県中学生の、睡眠時間ごとの構成比〕



〔グラフ 43 全教科で全国平均正答率を上回った本県小学生の睡眠時間ごとの構成比(H25)〕

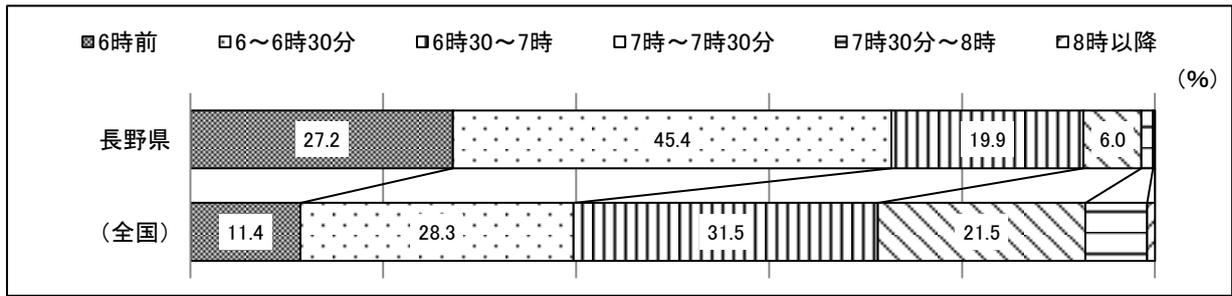


〔グラフ 44 普段(月～金)の睡眠時間 中学生(H25)〕

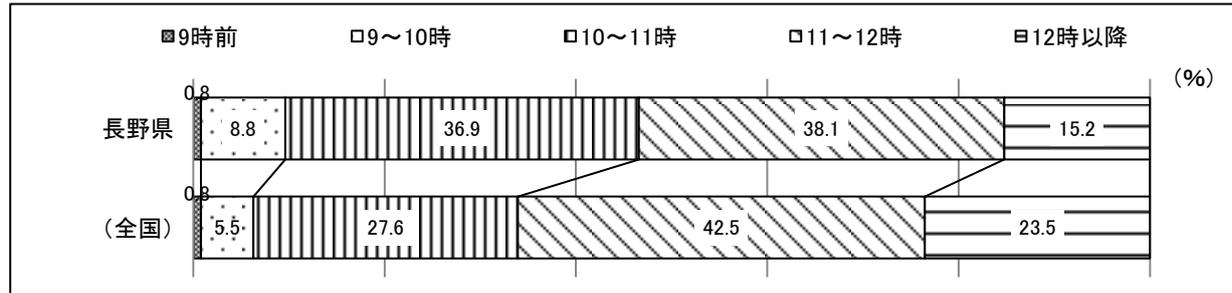


\* 「中学生の授業中の居眠りと学業成績、自覚症状及び生活時間との関連について」(服部伸一、野々上敬子、多田賢代 2010)  
 「中学生の蓄積的疲労感とライフスタイル要因との関連について—数量化Ⅱ類を用いた検討—」(服部伸一 2011)  
 「中学生の睡眠習慣と感情コントロールとの関連について」(服部伸一 2012)

[グラフ 45 普段(月～金)起きる時間 中学生(H25)]



[グラフ 46 普段(月～金)寝る時間 中学生(H25)]

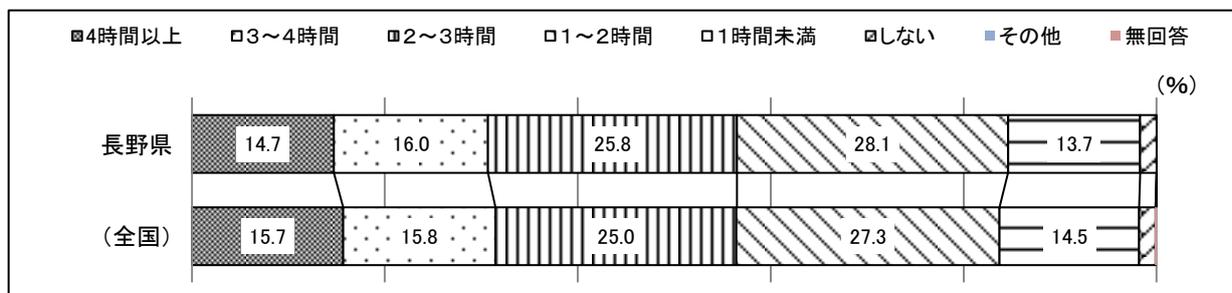


このことから、本県の中学生は、全体として早寝早起きであるが、起床時刻が早いため、全国平均と比べて睡眠時間がやや短めになる生徒の割合が高くなっていると考えられる。前述の「健康づくりのための睡眠指針 2014」には、長時間の睡眠が健康につながるわけではないこと、睡眠の質を高めることが重要であることが示されている。適切な睡眠時間を確保するとともに、睡眠の質を高めていくことが重要である。

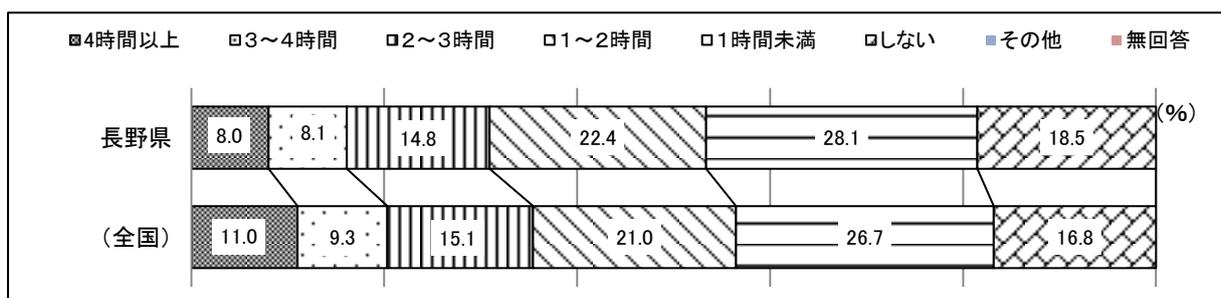
## (2) 家庭における中学生の過ごし方

グラフ 47、48、49 は、本県中学生の帰宅後のTV等の視聴時間、ゲームの時間、インターネットの時間を表したものである。3項目とも、全体的に時間が少ない生徒の割合は全国平均と同等か、やや少ない傾向にあるものの、平日の「TV等の視聴時間が2時間以上」の生徒の割合は56.5%、「ゲームの時間が2時間以上」の生徒の割合は30.9%、「携帯電話、インターネットの時間が2時間以上」の生徒の割合は23.6%となっている。

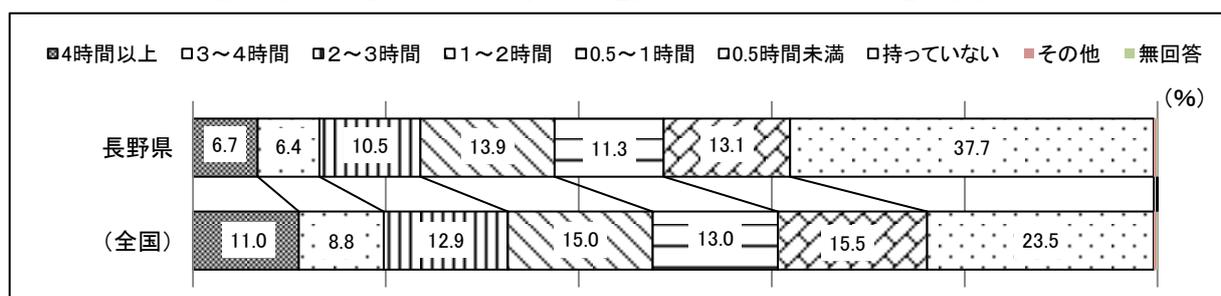
[グラフ 47 普段(月～金)TV等を見る時間 中学生(H26)]



〔グラフ48 普段(月～金)ゲーム等をする時間 中学生(H26)〕



〔グラフ49 普段(月～金)携帯、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをする時間 中学生(H26)〕



このことから、TV、ゲーム、携帯電話、インターネット等に2時間以上を費やしている生徒が相当数いることがわかる。こうした時間を含め、帰宅後の過ごし方を見直す必要がある。

### (3) 基本的な生活の改善に関する提言

#### ■ 学力向上のために児童生徒の基本的な生活の確立が欠かせない。

- 児童生徒が学校で授業に集中できる環境を整える必要があり、そのためには児童生徒が健全に生活できるようにすることが欠かせない。
- 生活の基本は、摂食・排便、睡眠の適切なリズムであるが、特に中学生の生活リズムが様々な要因により崩れている。
- 家庭・学校・地域全体が、児童生徒の健全な生活リズムの確立に向けて連携・協力していく必要がある。

#### ■ 適切な睡眠時間を確保するとともに、睡眠の質を高める。

- 学力・学習状況調査の結果によると、本県の小学生、中学生の睡眠時間と調査の正答率には関係があると考えられる。
- 本県の中学生は、全国平均と比べ睡眠時間が短い生徒の割合がやや高く、適切な睡眠時間を確保するとともに、質の高い睡眠がとれるようにする必要がある。

#### ■ 中学生は、帰宅後の過ごし方を見直す。

- 帰宅後の過ごし方について、特に中学生には「TV、ゲーム、携帯電話、インターネット等に2時間以上費やしている生徒が相当数いる」などの課題がみられ、改善を要する。
- 今後、児童生徒の生活全般に目を向け、児童生徒の生活のあり方や、そのための学校と家庭の連携のあり方などについて、学校及びPTAなど地域全体で検討する必要がある。

#### 4 長野県教育委員会の取組

昨年度、本委員会は、今後の改善に向け県教育委員会に期待する取組として、次のようなことを提言した。

◇授業改善について	
*小学校	①授業で使用できる定着確認問題の提供 例えば、クリア・チャレンジ問題の拡充
*中学校	②活用する力を伸ばす指導事例の紹介 ③生徒の学力実態を把握し、授業改善につなげる仕組の整備 ④教員の授業力向上のための研修の充実 ⑤授業や補充指導で使用できる問題の提供 ⑥活用する力を伸ばす指導事例の紹介
◇補充指導について	①補充指導の充実に向けた問題の提供 ②地域と連携した学力向上の取組例の紹介
◇家庭学習について	①授業と関連付けた家庭学習への改善の取組例の紹介 ②保護者・地域と連携した家庭学習の取組例の紹介
◇中学生の生活について	①部活動のあり方についての検討 ②望ましい生活習慣に関する情報提供 ③「共育」クローバープランのさらなる推進 ④情報モラル教育に関する情報の提供

これらの提言を踏まえ、県教育委員会としてそれぞれの提言に対応した取組を推進し、成果が以下のように表れてきている。また、成果が十分に表れていないものについては、今後もさらに取組を充実させていく必要がある。

##### (1) 授業改善についての取組

###### \* 小学校

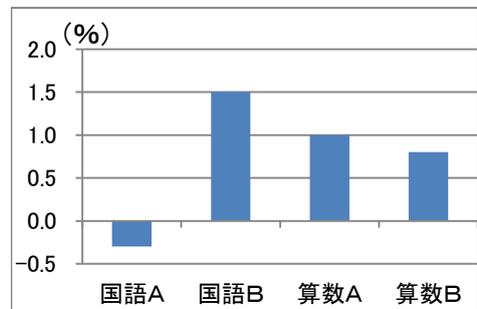
①授業で使用できる定着確認問題の提供。例えば、クリア・チャレンジ問題\*の拡充。

○: 成果の表れているもの  
●: 成果が十分には表れていないもの

[表6 H25 クリア・チャレンジ問題等を利用した学校(%)]

	国語	算数	理科	定着確認問題	復習問題	春休み課題帳	利用有
授業で扱う	74.1	82.7	55.7	73.8	69.5	37.3	100
家庭学習として利用	83.7	88.4	58.6	72.4	73.2	65.7	
授業時間外のドリル学習	71.6	79.5	46.2	63.0	61.2	35.7	
配布のみ	7.4	6.2	9.2	6.5	8.2	9.5	

[グラフ 50 小学生の正答率の全国平均との差]  
(H26 全国学力・学習状況調査)



○県内全小学校で利用され、授業や家庭学習、ドリル学習での指導に活用されている。

○平成 26 年度全国学力・学習状況調査では、特に活用に関する問題において全国平均を上回った。

\*県教育委員会作成の授業や家庭学習に利用できるプリント。クリア問題は主として知識・技能に関する問題、チャレンジ問題は主として活用に関する問題。長野県総合教育センターHPからダウンロードできる。

## ②活用する力を伸ばす指導事例の紹介

○長野県教育指導時報\*において、県内の優れた指導事例等を紹介している。

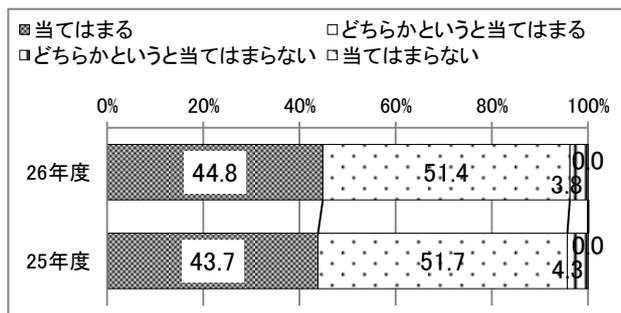
[平成 25 年 7 月号・平成 26 年 7 月号(算数)、平成 25 年 11 月号・平成 26 年 1 月号(国語)]

○活用する力を伸ばすポイントを示したリーフレットや、子どもと共に創る授業のための指導の重点を示した青本ダイジェストを全職員に配布し、日々の授業づくりで活用されている。

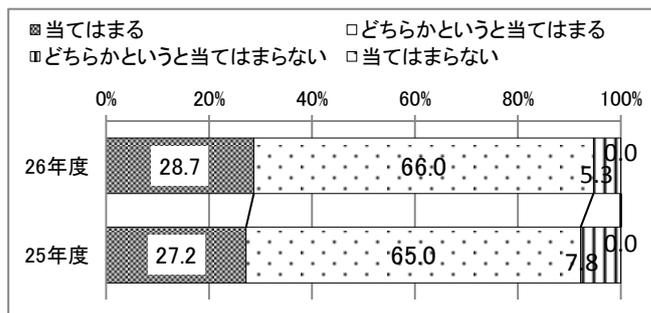
\* 中学校

## ③生徒の学力実態を把握し、授業改善につなげる仕組の整備

〔グラフ 51 学級やグループで話し合う活動を行ったか  
(学校質問紙)](小学校)



〔グラフ 52 学級やグループで話し合う活動を行ったか  
(学校質問紙)](中学校)



○学級やグループで話し合う活動を授業などに取り入れている小中学校が増えてきている。

○平成 26 年度学力スパイラルアップ事業では、学力の実態をより詳細に把握できるように調査の問題数を増やして充実し、児童生徒に学習内容を確実に定着させる指導改善の仕組みを強化している。

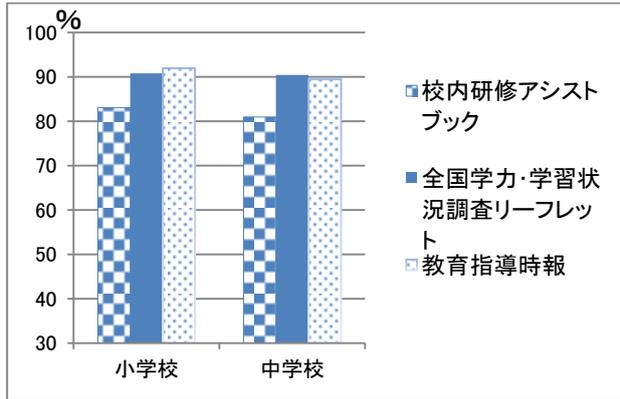
●各学校に対して、学力の実態把握に基づいて改善の方向を定め対策を講じるよう促す必要がある。

## ④教員の授業力向上のための研修の充実

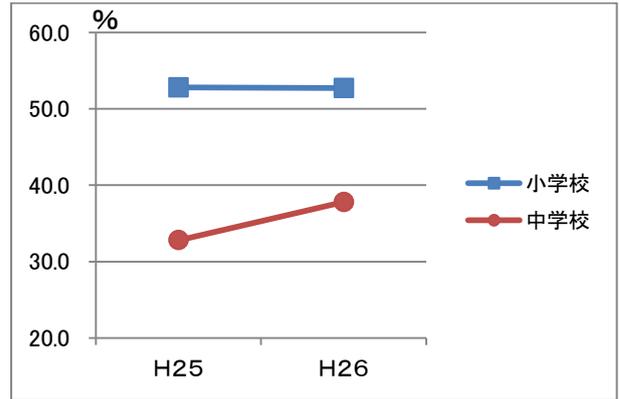
〔表 7 H26 学力向上ミーティング参加者及び会場〕

教育事務所	参加人数			県外の学力向上の取組について(講演)		
	小	中	計	日	講師	内容
東信	72	32	104	6/13	京都市教育委員会指導部 学校指導課統括首席指導主事 島本由紀	基礎・基本の定着を目指した 自主学習プログラム等
南信	57	27	84	6/14	秋田県教育庁義務教育課 学力向上推進班副主幹 鷺谷真一	全国学力・学習状況調査結果を 活用した学校支援プラン等
飯田	44	23	67	6/13	秋田県教育庁義務教育課 学力向上推進班副主幹 鷺谷真一	全国学力・学習状況調査結果を 活用した学校支援プラン等
中信	68	26	94	7/1	福井県教育研究所 調査研究部長 牧田秀昭	福井県学力調査、コアティチャ ー養成、授業名人活用事業等
北信	48	25	73	6/17	石川県教育委員会学校指導課 主任指導主事 岩木智子	いしかわ学びの指針 12 か条、 課題発見力育成事業等
合計	289	133	422			

〔グラフ 53 県教育委員会提供の各種資料を活用している学校(H26 学校経営概要)〕



〔グラフ 54 模擬授業や事例研究など実践的な研修をよく行っている(H26 全国学力・学習状況調査学校質問紙)〕



- 平成 26 年度学力スパイラルアップ事業<sup>※1</sup>には、県内の約 85%の学校が参加しており、そのほぼ全ての学校から学力向上ミーティングに参加者があった。調査結果を基に授業改善のための情報を提供するとともに、学力向上で成果をあげている他府県の担当者による講演を行った。
- 校内研修を活性化するために昨年度作成した「校内研修アシストブック」を活用している学校の割合は、80%を超えている。また、授業改善のためのポイントや具体的な事例をまとめた全国学力・学習状況調査リーフレットや教育指導時報を活用している学校の割合は、約 90%となっている。
- 模擬授業や事例研究など実践的な研修をよく行っている学校の割合は、小学校ではほぼ昨年度と同様であり、中学校では昨年度より増加している。
- 授業力向上のための研修の内容が、各学校の全職員に敷延されるよう、校内研修を充実させる必要がある。

⑤授業や補充指導で使用できる問題の提供

〔表8 H25 クリア問題チャレンジ問題を利用した学校%〕

	国語	数学	理科	英語	定着確認問題	復習問題	春休み課題帳	利用有
授業で扱う	50.5	67.7	49.5	47.9	53.2	47.8	20.4	98.4
家庭学習として利用	65.1	82.8	56.5	69.9	62.4	62.4	47.3	
授業時間外のドリル学習	26.3	37.1	21.5	19.4	21.5	23.1	10.8	
配布のみ	9.7	7.5	8.6	9.7	10.2	10.8	8.1	

- 県内ほぼ全ての中学校で利用され、授業や家庭学習等での指導に活用されている。

⑥活用する力を伸ばす指導事例の紹介

- 長野県教育指導時報において、県内の学校における指導事例等を紹介している。  
[平成 25 年 6 月号・平成 26 年 2 月号(数学)、平成 25 年 12 月号(国語)]
- 活用する力を伸ばすポイントを示したリーフレットや、子どもと共に創る授業のための指導の重点を示した青本ダイジェストを全職員に配布し、日々の授業づくりで活用されている。
- 上記リーフレットや青本ダイジェストが、日々の指導で十分に活用されるようにすることが望まれる。

※各学校における学力向上のためのPDCA サイクルづくりを支援する長野県教育委員会が実施している事業。実態と課題を把握するP調査、検証を行うC調査、取組等について協議する学力向上ミーティングなどを行っている。

## (2) 補充指導についての取組

### ①補充指導の充実に向けた問題の提供

【表9 クリア・チャレンジ問題、レビュー問題の提供状況】

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
算数 数学	クリア	24枚	24枚	24枚	24枚	24枚	24枚
	チャレンジ	24枚	24枚	24枚	24枚	24枚	24枚
	レビュー		40枚	*	*	27枚	*
国語	クリア		10枚			10枚	
	チャレンジ		12枚			12枚	
理科	クリア		10枚			10枚	
	チャレンジ		12枚			12枚	
英語	クリア						12枚
	チャレンジ						12枚

○これまでのクリア・チャレンジ問題に加え、単元ごとに定着の確認ができるレビュー問題を配信している。（\*…レビュー問題算数数学の小6・中1・中3については、11月末までに作成予定。）  
クリア・チャレンジ問題については、児童生徒が自分で学習を進めることができるように解説シートを加えた。クリア・チャレンジ問題は約1200回/月、レビュー問題は約800回/月のアクセスがある。

●クリア・チャレンジ問題、レビュー問題が、学校で一層利用されるよう、具体的な利用方法などの情報を提供していく必要がある。

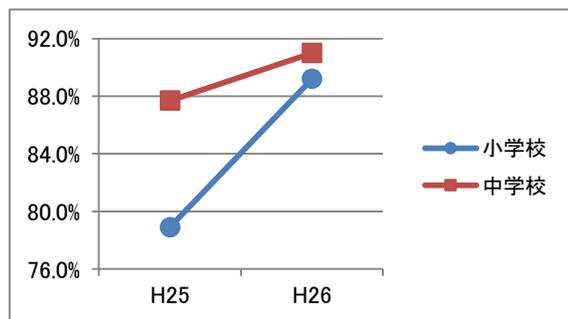
### ②地域と連携した学力向上の取組例の紹介

○文化財・生涯学習課と連携し、「地域で支えるサポート活動実践事例集」を各校へ配布するなど、地域と連携した学力向上の取組の参考となる事例を紹介している。例えば、後述の新たな家庭学習モデル創出事業における辰野中学校の取組などを、補充指導の事例として既に紹介している。

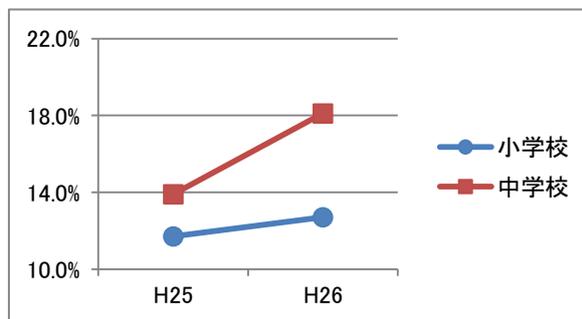
## (3) 家庭学習についての取組

### ①授業と関連付けた家庭学習への改善の取組例の紹介

【グラフ55 家庭学習の手引を作成及び改善している(H26 学校経営概要)】



【グラフ56 地域住民による放課後の学習支援や提出ノートの点検を行っている(H26 学校経営概要)】



### 【H26 新たな家庭学習モデル創出事業 <モデル校2校による実践>】

辰野町立辰野中学校…地域ボランティアを活用した補充・補充指導を継続。

家庭学習推進委員会などの設置や家庭学習通信の発行により、家庭との連携を強化。

\* 平日の家庭学習時間 30分未満又は全くしない生徒の割合 H25:17.2% → H26:10.0%

\* 休日の家庭学習時間 30分未満又は全くしない生徒の割合 H25:26.3% → H26:13.0%

安曇野市立堀金中学校…生徒の目的意識を高める家庭学習の実践(授業の導入の工夫、授業内容と関連した課題、家庭学習セルフチェックシートを活用した自己評価等)

\*H26 家庭学習に取り組むことで授業がより分かるようになったと思う生徒の割合

国語 79.1% 数学 81.8% 英語 85.8% 社会 71.0% 理科 85.0%

- 家庭学習の手引きを作成したり改訂したりする小中学校や、地域住民による学習指導を行っている小中学校が増えてきている。
- 生徒の学力向上につながり、どの学校でも継続して取り組める家庭学習モデルの創出に、モデル校2校と協働で取り組んでいる
- 各教科で、授業と家庭学習を宿題などで結び付け、学習内容の定着を確実にすることが大切である。特に、中学校では、国語、数学、英語の3教科のドリル的な内容に偏った家庭学習を抜本的に見直し、家庭学習の改善について具体的な内容と方法を学校及び地域に提案する必要がある。

## ②保護者・地域と連携した家庭学習の取組例の紹介

### 【家庭学習プロジェクト会議の実施】

第1回 5月22日(木) 県庁…モデル校2校の取組状況、広島県の家庭学習の取組の紹介

第2回 7月29日(火) 塩尻市市民交流センター 参加者100名

…家庭学習の評価・点検の仕方、自主学習の取組等について協議

### 【家庭学習シンポジウムの開催】

11月14日(金) 辰野町辰野中学校で開催予定 …モデル校の取組の紹介、分科会による意見交換

- 第2回のプロジェクト会議には多くの参加者があり、家庭学習の現状やモデル校の取組を周知する機会となった。また、参加者から多くの質問や取組の紹介があるなど活発な情報交換がなされ、家庭学習の改善への意識を高めることにつながった。

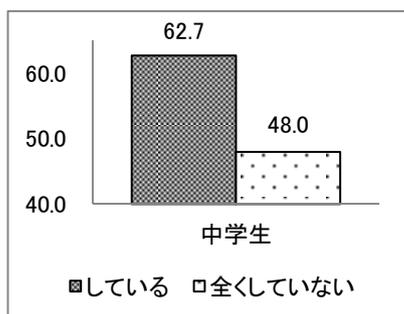
## (4) 中学生の生活についての取組

### ①部活動のあり方についての検討

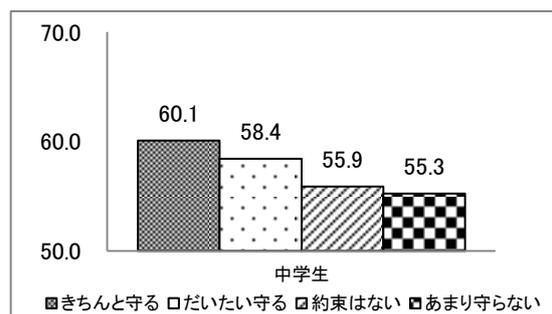
- スポーツ課から長野県中学生期のスポーツ活動指針が示され、それを踏まえて、各校及び市町村教育委員会では適切な部活動のあり方について検討・実践している。
- 中学生の学習と生活を改善するために、部活動の適正化について慎重に検討することが望まれる。

### ②望ましい生活習慣に関する情報提供

【グラフ57 朝食を毎日食べることと正答率の相関】  
(H25 全国学力・学習状況調査質問紙調査)



【グラフ58 携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人との約束を守ることと平均正答率の相関】



○全国学力・学習状況調査における教科調査と質問紙調査の結果を関係付けて考察し、よりよい生活のあり方等を、学力向上ミーティングや分析研修において提案してきた。また、提案内容をまとめたリーフレットを作成して全家庭に配布した。

●中学生の学習と生活を改善するために、望ましい生活リズムについて検討する必要がある。

### ③「共育」クローバープランのさらなる推進

○長野県教育指導時報において、参考となる事例等を紹介している。

○心の教育・長野フォーラムにおいて、「共育」クローバープランの趣旨にそって学校・家庭・地域が共に考え合う機会を設けている。（平成25年度146名参加、平成26年度110名参加）

### ④情報モラル教育に関する情報の提供

○教学指導課心の支援室から、情報モラル教育に関するアンケート結果や指導資料等の提供を行い、各校における指導に活用できるようにしている。

## (5) 長野県教育委員会の取組に関する提言

### ■ 授業改善についての取組に関する提言

- 各学校に対して、学力の実態把握に基づいて改善の方向を定め対策を講じるように促す必要がある。
- 授業力向上のための研修の内容が、各学校の全職員に敷延されるよう、校内研修を充実させる必要がある。
- 上記リーフレットや青本ダイジェストが日々の指導で十分に活用されるようにすることが望まれる。

### ■ 補充指導についての取組に関する提言

- クリア・チャレンジ問題、レビュー問題が、学校で一層利用されるよう、具体的な利用方法などの情報を提供していく必要がある。

### ■ 家庭学習についての取組に関する提言

- 各教科で、授業と家庭学習を宿題などで結び付け、学習内容の定着を確実にすることが大切である。特に、中学校では、国語、数学、英語の3教科のドリル的な内容に偏った家庭学習を抜本的に見直し、家庭学習の改善について具体的な内容と方法を学校及び地域に提案する必要がある。

### ■ 中学生の生活についての取組に関する提言

- 中学生の学習と生活を改善するために、部活動の適正化について慎重に検討することが望まれる。
- 中学生の学習と生活を改善するために、望ましい生活リズムについて検討する必要がある。

## 5 市町村教育委員会及び学校の取組

### (1) 市町村教育委員会の取組

#### ① 東御市教育委員会 小中一貫教育を推進

東御市の小中学校では、平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の全ての科目で良好な結果であり、特に、北御牧小学校・北御牧中学校では全ての教科で全国平均を上回っている。

### 1 小中一貫教育による学力向上の取組

- 家庭、地域、学校が協働し、開かれた学校づくりを目指した一貫教育の組織
  - ・小中一貫教育推進委員会（小中教職員、保護者、地域の諸団体の代表）の設置。
  - ・六つの小中職員企画作業部会の設置。  
カリキュラム編成部会、特別支援教育部会、児童生徒理解部会、キャリア教育部会  
合同研究・研修部会、児童生徒活動推進部会
- 学習習慣の確立を図り、確かな学力の定着を育む 9 年間を見通した系統的・継続的な教育課程
  - ・9 年間を見通した教育課程の研究、編成。
  - ・「家庭学習の手引き」（平成 24 年度作成）を活用した学びの習慣化、学習規律の一貫性。  
（小学校では「学びの友」の活用・「ウィークエンドドリル」の実施）
  - ・中 1 へつなぐ 5、6 年生の定期テスト実施。
  - ・1～4 年生の「ねっこ」の学習（読み・書き・計算 週 1 時間）
- 前期・中期・後期のまとまりによる個に応じたきめ細やかな学習指導
  - ・「学びの基礎をつくる時期 小 1～4」 基礎力を身に付ける授業、意欲を高める授業。
  - ・「学びを広げる時期 小 5～中 1」 5、6 年は一部教科専科制、コース別少人数学習で中 1 への接続。
  - ・「自己実現に向け学びを深める時期 中 2、3」 自分らしさの確立。
- 小学校から中学校への滑らかな接続を図るための小中教職員の相互連携による授業の充実
  - ・小中一貫推進教員（数学）の加配による小学校の授業  
小 6 へ週 5 時間、小 5 へ週 5 時間、合計 10 時間の授業。午前中に固定。それ以後は中学校で勤務。
  - ・英語科、国語科による小学校への出前授業。
- 地域の教育力を生かした学習ボランティアの導入による個別指導の充実
  - ・小学校：1～4 年生の算数の授業に T T として参加。週 1 回の放課後学習教室の実施。
  - ・中学校：テスト前 1 週間、数学、英語を中心に放課後学習の実施。
  - ・学習ボランティアは、推進委員会で募集し、校長が面接して決定。
- 教員の資質と指導力の向上を目指した小中教職員の顔が見える研修の充実
  - ・小中学校の教職員合同職員会議、研修会の開催。

### 2 その他の取組

- 学力向上委員会（市全体）による学力実態分析と研修
  - ・夏休みに市内全ての学校で行っている CRT の分析。2 学期以降の重点課題を設定し改善を図る。
  - ・学力向上委員会が秋田県等への視察研修の実施。
  - ・小中一貫教育に関する講話の実施。
- 地域と連携したキャリア教育
  - ・中 1 と小 6 で農業体験 2 日間の実施、受け入れ先 16 名
  - ・中 2 で職場体験学習 2 日間 プラットフォーム（キャリア教育支援協議会）が職場体験場所のリストを作成、情報提供。
- 東部中学校区における小中連携教育の推進
  - ・平成 26 年度から東部中学校区における教職員による連携教育推進実行委員会・企画部会や地域・保護者を含めた小中連携教育推進準備委員会を立ち上げたり、小中連携教員を加配したりして小中連携教育を推進。

## ② 富士見町教育委員会 特色ある教育施策の実施

富士見町の小中学校では、平成 25 年度、26 年度両年で全国学力・学習状況調査の結果は良好であり、特に算数・数学のB問題の平均正答率が全国平均を上回っている。

### 1 学力向上を協議する組織の設置による学力向上の取組

○学力向上推進委員会の設置による町全体での情報共有

- ・町学力向上推進委員会を設置し、校長、教頭、研究主任が生データの持ち寄り、町全体としての実態把握と改善策の検討。NRT（町内全小中学校で実施）の分析。全国学力学習状況調査、NRTで全国平均を下回っている領域について小から中へのつながりを検討。小学校で付ける力の明確化。
- ・町教育委員会作成の「家庭学習の手引き」の見直し。
- ・算数・数学部会において、県の学力実態調査P・C調査の分析、検討、授業の相互参観の実施。
- ・教員研修として秋田県・福井県への各2名の教員の視察。

○小中一貫した家庭学習、家庭生活の充実による学ぶための習慣づくり

- ・「家庭学習の手引き」を小中合同でH24に作成。今年度見直し。
- ・小学校では「家庭学習強化旬間」の実施（5月、9月、1月）。
- ・「子育て・教育5つのスイッチ」の作成、全児童、生徒の家庭へ配布。

### 2 地域の教育力を生かした特色ある学力向上の取組

○わからなかったことがわかるようになる「無料塾」

- ・「教育の町」づくり推進事業の一環として平成24年度より中学生対象の「無料塾」を開講。
- ・富士見の子どもたちに確かな基礎学力、確かな応用力、発展力を身に付けさせたいという教育委員会の熱い願いからスタート。
- ・講師は公募で決定。講師は、交通費のみで、ボランティアとして授業の実施。（講師13名）
- ・運営は全て教育委員会の職員が行い、学校は校舎を会場として提供。
- ・教科：国語、数学、英語 ・対象：中1、2、3年生
- ・参加者：H24約70名（3年）、H25約50名（1、2年）約50名（3年）

○学ぶ意欲を高めるためのキャリア教育 先輩から学ぶ「なるには教育」

- ・地元の中学校を卒業し、美容師、整備士、会計士などになっている先輩から、希望する職業に就くにはどうしたらよいかを学ぶ。

### 3 その他の取組

○小学校英語活動でのレシピ方式の導入

- ・小1～小4は各週で1時間、小5、6は週1時間、英語を母国語とする外国人講師（NLT）による英語活動。・町学力向上推進委員会、外国語活動・英語部会において、各小学校の状況・情報を共有し、授業改善に反映させている。

○中学校へ国・英・数、3名を加配 心の教室相談員、介助員など手厚い支援

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査質問紙の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で「当てはまる」と答えている生徒の割合が、全国平均を大きく上回っている。

## (2) 学校の取組

### ① 長野市立吉田小学校 ミドルリーダーを中心とした学力向上の取組

吉田小学校では、ミドルリーダーを中心に学習環境を整備したり、家庭学習や補充・補完指導を充実したりして、学力向上に取り組んでいる。その結果、全国学力・学習状況調査において、昨年度までに引き続き、平成 26 年度も良好な結果を示している。

#### 1 充実した授業を行うための取組

##### ○授業のユニバーサル化

- ・長野養護学校の教員、長野市の巡回指導員が定期的に来校し助言。
- ・シンプルな指示、黒板周りをすっきりさせる等、落ち着いた授業が行えるよう配慮。  
→落ち着いた状態で授業が行われている。

##### ○ミドルリーダーによる授業公開

- ・自主的に授業を公開し、授業研究を行う風土。  
→若手の見本、ベテランへの刺激となった。

##### ○地域素材の教材化による身近で関心意欲を高める授業の研究

#### 2 学習内容の確実な定着のための取組

##### ○学力実態の把握と結果の活用

- ・N R T調査や全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学年ごとに改善のための取組を推進。

##### ○家庭学習の充実

- ・既習内容の理解を深める問題や説明する問題等を盛り込んだ家庭学習用プリントの作成と利用。

##### ○補充・補完指導の実施

- ・家庭での学習が十分にできない児童や特別な配慮が必要な児童に対しては、担任が放課後などに補充・補完指導を行うケースもある。

#### 3 学力向上の基盤となる取組

##### ○読書指導の充実

- ・全校で年間約 60000 冊の本を借りる（1人 78 冊/年）。  
→独自のブックリスト等をもとに、図書館マスター認定証を発行したり、学習に結び付く図書館クイズ等を実施したりすることで、図書館に対しての興味・関心が高まっている。
- ・図書館司書が担任のニーズを把握し、授業で使える本を市立図書館から借りて準備  
→授業との連携が図られ、子どもたちの読書量も増加した。

##### ○学力向上に関わる情報発信

- ・学校便りやP T Aの校長講話において、学力の状況や改善の取組を保護者に伝えている。

##### ○ノート指導の重視

- ・学年体制で指導を実施。  
→板書を写すだけでなく、自分の考えを書くよう指導する。

## ② 千曲市立埴生中学校 「知識・技能を活用する」活動を取り入れた授業改善の取組

埴生中学校では、授業に「知識・技能を活用する」活動を取り入れたり、生徒のよさを認める指導を大切にしたりして、学力向上に取り組んでいる。その結果、全国学力・学習状況調査において、昨年度までに引き続き、平成26年度も良好な結果を示している。

### 1 充実した授業を行うための取組

#### ○教科会の充実

- ・ 時間割の中に教科会を位置付け、実施（国語科）
- ・ 共通の教材や学習カードを利用し、教科内で歩調を合わせた指導を実施（国語科）

#### ○授業改善の取組

- ・ 授業時間内に「自分の考えをまとめる時間」を確保（国語科）
- ・ 年に数回「創作・表現する」単元の設定（国語科）
- ・ 授業の導入で、本時にかかわる既習問題に全員が取り組む（数学科）
- ・ 授業の終末の定着確認では、基礎的な達成問題（全員が必ず取り組む）と応用的な問題の2種類の問題を準備（数学科）
- ・ 定期テストに「知識・技能を活用する」問題を出題（数学科）

### 2 学習内容の確実な定着のための取組

#### ○学習習慣形成のための支援の実施

- ・ 1年次に家庭学習の方法について丁寧に指導。必要に応じて、放課後に学年で個別指導を実施→未提出者はほとんどいない状況になった。
- ・ 学習相談の時間を年間3回設定
- ・ 水曜日は清掃を行わず、生徒が自由に使える時間を設定→質問をする時間として利用する生徒が増加した。

#### ○家庭学習の充実

- ・ 「家庭学習のすすめ」を用いて、学級、PTA、教科で統一した指導を実施。
- ・ 機械的な作業になりがちな漢字練習を、答えを隠して漢字を書く問題形式に変更。

### 3 学力向上の基盤となる取組

#### ○よさを認める指導

- ・ 任せてよいところは任せる、生徒のよさを認める指導を充実。  
→質問紙調査「先生によいところを認められている」の肯定的回答が82.2%（全国75.7%）となった。

#### ○表現力や自己肯定感を伸ばす指導

- ・ 文化祭において、テーマを決め、クラス全員が参加して3分間の発表を実施。

#### ○小学校との連携

- ・ 年度当初に、小学校の全職員が中学校の授業参観をし、情報交換を実施。
- ・ 基本的な生活習慣（起床、就寝、朝食等）は、小学校での指導の充実もあり安定している。

### ③ 伊那市立西箕輪中学校 補充・補完指導や家庭学習の充実による学力向上の取組

西箕輪中学校では、補充・補完指導や家庭学習の充実に取り組むとともに、基本的な生活習慣に関する指導にも力を入れて学力向上に取り組んでいる。その成果が、全国学力・学習状況調査の結果にも表れてきて、平成 25 年度、26 年度ともに良好な結果を示している。

#### 1 充実した授業を行うための取組

##### ○授業規律の指導

- ・聞く姿勢、授業への集中等を全職員で統一して指導

##### ○授業改善の取組

- ・授業にグループ追究を取り入れ、生徒同士で考える時間を保障
- ・自分の考えを書く活動を位置付けグループ内で発表し、お互いに感想を述べ合う。

##### ○教科会の日常化

- ・短時間の教科会（授業打ち合わせ）を日常的に実施

#### 2 学習内容の確実な定着のための取組

##### ○教科相談の実施

- ・テスト 1 週間前から、水曜日（5 時間授業）を除く第 6 校時に、教科担任が指導する教室を指定し、質問に来る生徒に対応。
- ・放課後学習支援体制の確立  
→地域のボランティアが学習支援を行う。  
毎週月、木に、45 分×2=90 分間 3 年生が 30 人程度参加（56%）

##### ○家庭学習の充実

- ・授業のあった日は、授業内容の復習に取り組む。（数学）
- ・1 週間分の学習内容を盛り込んだ自作プリントを毎週末に、休日の日数配布し、翌週の最初の時間に答え合わせをする。（数学）
- ・コラム、社説の筆写（国語）

#### 3 学力向上の基盤となる取組

##### ○基本的な生活習慣に関する指導

- ・「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底。  
→保健だより、学年・学級通信による啓発。  
【「毎日同じ時刻に寝る」と回答した生徒 32.1%（全国 28.5%）】

##### ○小学校との連携

- ・小学校 6 年生を対象とした体験授業の実施（5 教科の中から 2 教科を 2 時間程度）。
- ・6 年生による清掃の見学、中学校の校歌コンクール（中学と同じ校歌）の参加。  
→中学校への憧れ、中学入学後の変容の原動力につながっている。

#### ④ 波田中学校・飯田西中学校 キャリア教育に学校全体で取り組むことが学力向上につながる

波田中学校、飯田西中学校では、日々の教育活動をキャリア教育と結び付けて考えたり、連続5日間の職場体験学習を実施したりするなど、キャリア教育に学校全体で取り組んでいる。その成果が学力向上にもつながり、全国学力・学習状況調査において、平成25年度、26年度ともに良好な結果を示している。

#### 松本市立波田中学校の取組

##### 1 キャリア教育を柱とした学校の体制

###### ○職員の共通理解

- ・ グランドデザインへの位置付け → キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間
- ・ 年度当初の職員会議で、キャリア教育のねらいや年間計画について協議。  
→ 学校全体で取り組むことの意味を職員が理解。

###### ○校内の雰囲気づくり

- ・ 生徒の作成した体験レポート等を校内に掲示。
- ・ 成果の発表 → 1年生が発表会に参加し、具体的な姿を見て学習のイメージをもつ。

##### 2 学校全体としての取組と学力向上

###### ○一つのことに全員がかかわる職員集団

- ・ 連続5日間の職場体験学習を実施するために、全職員が連携・協力する学校の風土。

###### ○継続した取組による職員の意識の統一

- ・ キャリア教育を中心とした取組が、学力向上の基盤になっていることについて共通理解。

#### 飯田市立飯田西中学校の取組

##### 1 キャリア教育を柱とした学校の体制

###### ○職員の共通理解

- ・ 育てたい生徒の姿を、飯田型キャリア教育で目指す力と結び付けて設定。  
→ 学校全体で取り組むことの意味を職員が理解。

###### ○小学校との連携

- ・ 「キャリア教育でつなぐ9年間」 → 小中合同の教育実践発表会

##### 2 学校全体としての取組と学力向上

###### ○人との関わりを大切にした指導

- ・ 他者への関心が高く、人の話を聞いたり、問いかけに答えたりすることがよくできる生徒が多い。  
→ 質問紙調査「自分の考えを人に説明したり、文章にしたりすることは難しいと思わない」の回答が37.8%（全国32.6%）

波田中学校、飯田西中学校では、職員の共通理解のもとに、長年にわたってキャリア教育を柱とした学校づくりを行っている。社会に貢献できる大人になるために今何が課題であるかを一人一人に考えさせ、全職員が支え、学校全体としてこのような取組を継続していくことのできる風土が学力向上につながっていると考えられる。

### (3) 市町村教育委員会及び学校の取組に関する提言

#### ■ 成果を上げている取組に関する情報を更に収集する。

- 学力向上について県内で成果を上げている地域や学校の取組について、学力向上をめざして取り組む他の地域や学校で利用可能な形で情報を収集する必要がある。

#### ■ 学力向上に関する市町村の交流を促進する。

- 県教育委員会が、学力向上について県内で成果を上げている地域や学校の取組に関する情報を収集・公開するにとどまらず、学力向上を願う学校や地域が、成果を上げている地域や学校を実際に訪問・視察するなどの取組を促進することが期待される。

## 6 学力に関する地域の実態

学力の実態については、学校や地域それぞれの状況をもとに考えていく必要がある。そのために、県教育委員会は、教育事務所ごとに管内の学校や地域の実情に応じて学力向上に向けた支援をしていくことが必要であり、各教育事務所が、適切な支援を講じることができるような体制を整えていくことが望ましい。

## IV 分析委員会からの提言(総括)

### (1) 提言(総括)

- ① 本県の学力向上に関する提言(詳しくは、Ⅲ1(6)参照)
  - 活用力を支える知識・技能などの確実な定着を図る。
  - 「ねらい・めりはり・見とどけ」を重視した授業改善の充実を図る。
  - 授業改善を進めるための具体的な支援を行う。
  - 総合的な学習の時間における探究的な活動を充実させる。
  - 県立高等学校入学者選抜学力検査について検討する。
- ② 家庭学習の改善に関する提言(詳しくは、Ⅲ2(3)参照)
  - 学習内容を確実に定着させるために、家庭学習の内容の充実を図る。
  - 小中の連携した取組を進める。
- ③ 基本的な生活の改善に関する提言(詳しくは、Ⅲ3(3)参照)
  - 学力向上のために児童生徒の基本的な生活の確立が欠かせない。
  - 適切な睡眠時間を確保するとともに、睡眠の質を高める。
  - 中学生は、帰宅後の過ごし方を見直す。
- ④ 学力向上に向けた長野県教育委員会の取組に関する提言(詳しくは、Ⅲ4(5)参照)
- ⑤ 市町村教育委員会及び学校の取組に関する提言(詳しくは、Ⅲ5(3)参照)
  - 成果を上げている取組に関する情報を更に収集する。
  - 学力向上に関する市町村の交流を促進する。

### (2) 分析委員会から長野県教育委員会に特に期待する事項

- ① 昨年度の提言に関して
  - 昨年度の提言については、全ての項目で取組が進められた。現時点で十分に成果が表れていないものも見られるが、改善の兆しが見え始めている。さらに内容を充実させ、引き続き取組を進めたい。
- ② 授業のあり方に関して
  - 教師一人一人に具体的な授業改善のポイントを周知する。
  - 授業改善に関する研修では、ロールプレイやワークショップ等を用いた具体的な内容を充実する。
  - 指導主事の学校訪問においては、模擬授業を行う等、具体的な支援を行う。
- ③ 県立高等学校入学者選抜学力検査の問題に関して
  - 県立高等学校入学者選抜学力検査について検討する。
- ④ 中学生の生活に関して
  - 小学生、中学生が、より望ましい生活が送れるように、県教育委員会関係各課が連携して施策を実施していく。
- ⑤ 学力向上の取組を共有する工夫に関して
  - 市町村教育委員会に対して、取組を紹介できる機会を設定する。
  - 市町村教育委員会、地域住民、学校関係者等が、地域ぐるみで学力向上に取り組む活動を推進する。

## 全国学力・学習状況調査長野県分析委員会名簿

委員長	宮崎 樹夫	(信州大学学術研究院教育学系教授)
委員	青木 陽子	(県P T A連合会編集委員)
	伊澤 順子	(長野市立朝陽小学校教諭)
	井出 由賀理	(県P T A連合会副会長)
	小林 雅彦	(須坂市教育委員会教育長)
	齋藤 嘉克	(学校法人信学会教育振興部学習企画課係長)
	鈴木 千衣	(佐久大学看護学部教授)
	二木 治樹	(安曇野市教育委員会教育指導室学習指導員)
	松木 智子	(東御市立滋野小学校長)
	宮崎 桂子	(長野市立篠ノ井西中学校教諭)
	山口 真一	(木島平村立木島平中学校長)

(敬称略・五十音順)

# 資 料

分析を行うにあたって参考にした主な資料

- ◆記述式問題の正答率・無解答率
- ◆質問紙調査の回答状況及び教科調査との関係
- ◆学習指導に関する質問紙調査の回答と平均正答率の関係
- ◆長野県の中学生における生活と学力の関係
- ◆長野県の設問別調査結果
- ◆様々なまとまりによる平均正答率

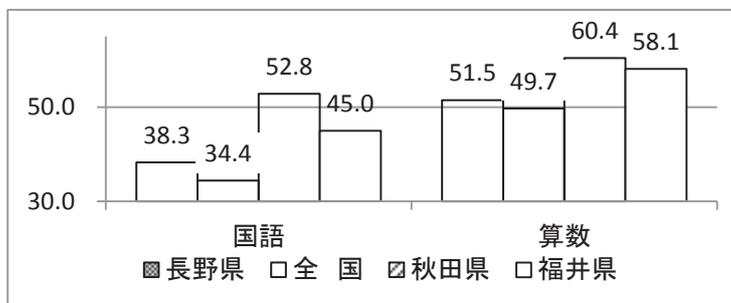
## ◆記述式問題の正答率・無解答率

本年度の調査問題におけるB問題の記述式問題だけを取り出し、その正答率、無解答率を、全国平均や、小中共に一定の成果を上げている県(秋田県、福井県)と比較してまとめた。

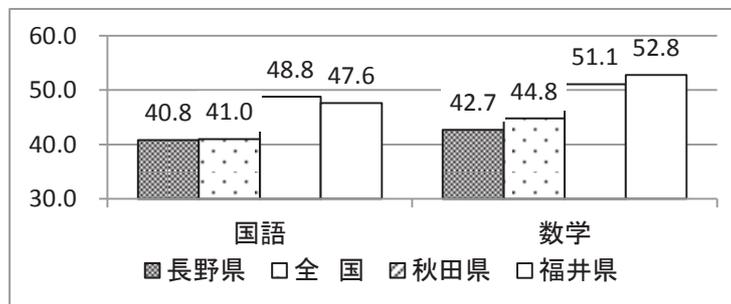
### (1) 平成26年度調査における記述式問題の正答率と無解答率

#### ①正答率

	小学校	
	国語	算数
長野県	38.3	51.5
全国	34.4	49.7
秋田県	52.8	60.4
福井県	45.0	58.1

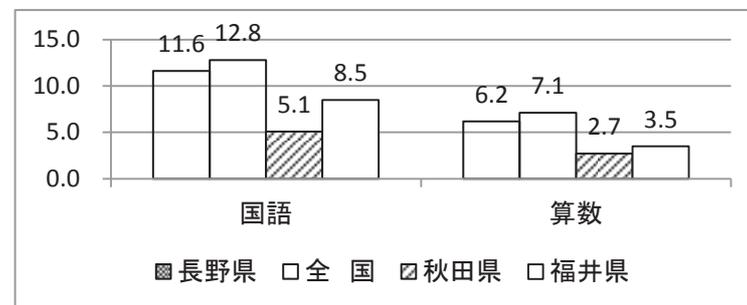


	中学校	
	国語	数学
長野県	40.8	42.7
全国	41.0	44.8
秋田県	48.8	51.1
福井県	47.6	52.8

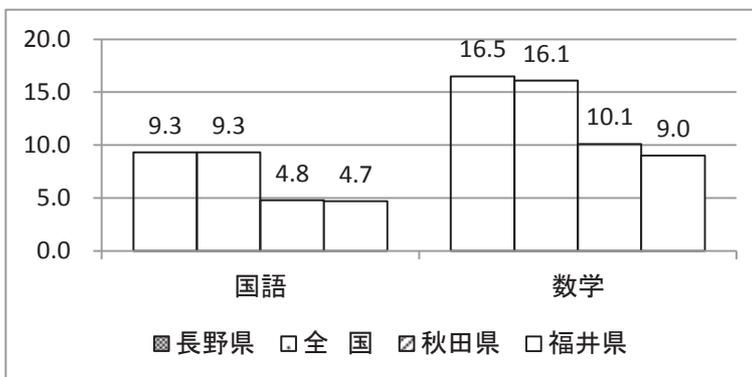


#### ②無解答率

	小学校	
	国語	算数
長野県	11.6	6.2
全国	12.8	7.1
秋田県	5.1	2.7
福井県	8.5	3.5



	中学校	
	国語	数学
長野県	9.3	16.5
全国	9.3	16.1
秋田県	4.8	10.1
福井県	4.7	9.0



記述式問題の平均正答率は、小学校では全国を上回っているものの、秋田県、福井県と比べると、大きな開きがある。中学校では、国語、数学ともに、全国平均を下回っている。

記述式問題の無解答率は、小学校で全国平均より低いものの、秋田県と比べると、2倍以上である。中学校では、全国と同程度であるものの、秋田県、福井県と比べて、高い。

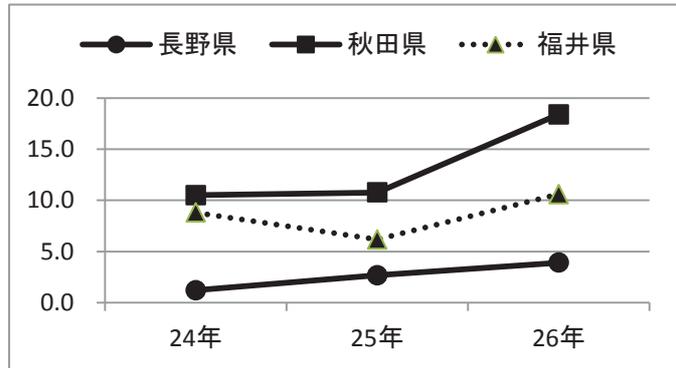
(2) 正答率と無解答率の経年変化

①記述式問題の全国平均との差の推移

記述式の問題について、(県平均－全国平均)の値を整理し、経年の変化の様子をまとめた。

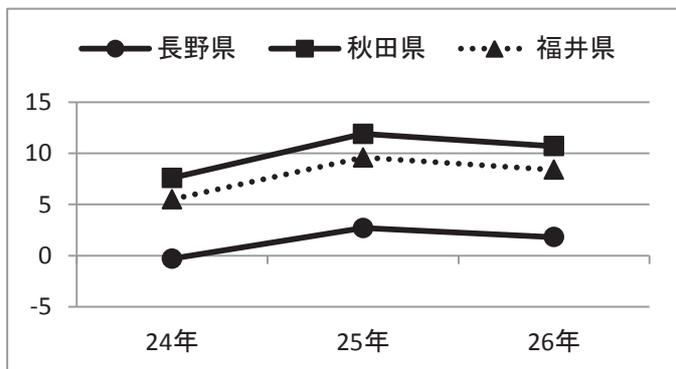
【小学校国語】

	24年	25年	26年
長野県	1.2	2.7	3.9
秋田県	10.5	10.8	18.4
福井県	8.8	6.2	10.6



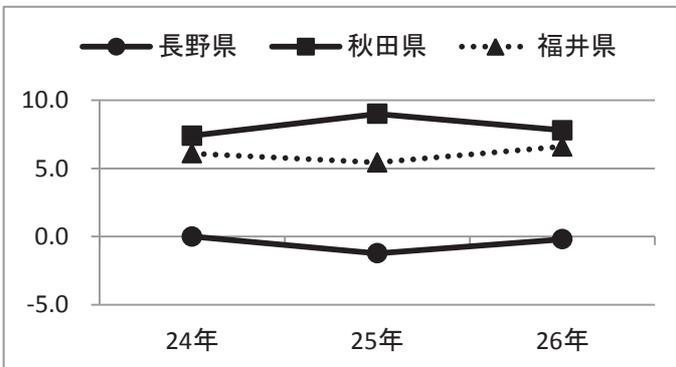
【小学校算数】

	24年	25年	26年
長野県	-0.3	2.7	1.8
秋田県	7.6	11.9	10.7
福井県	5.5	9.6	8.4



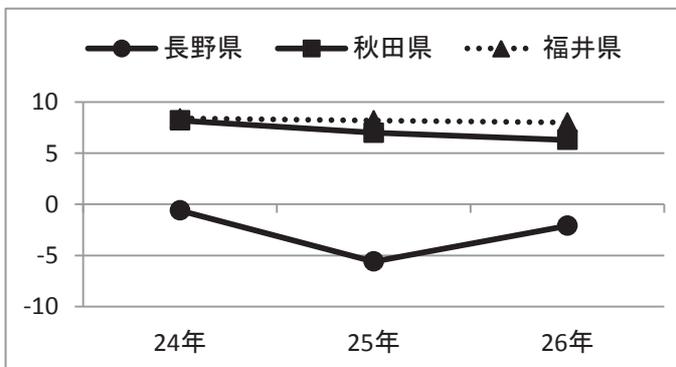
【中学校国語】

	24年	25年	26年
長野県	0.0	-1.2	-0.2
秋田県	7.4	9.0	7.8
福井県	6.1	5.4	6.6



【中学校数学】

	24年	25年	26年
長野県	-0.6	-5.6	-2.1
秋田県	8.2	7	6.3
福井県	8.4	8.2	8



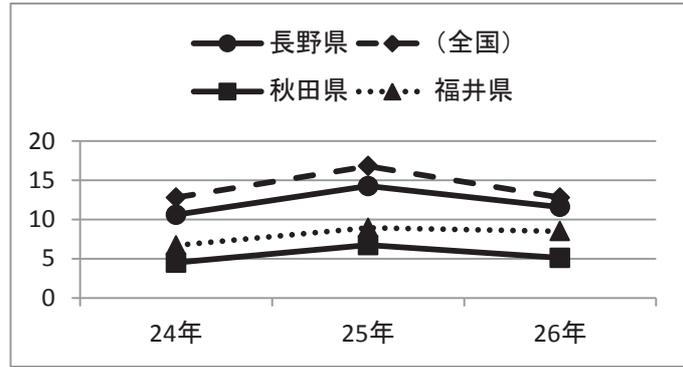
小学校では、国語で全国平均との差が正の方向に増加しているが、算数で秋田、福井とともに、若干の減少がみられる。

中学校では、国語、数学ともに、全国平均を下回っているものの、その差は縮まった。

②記述式問題の無解答率の変化

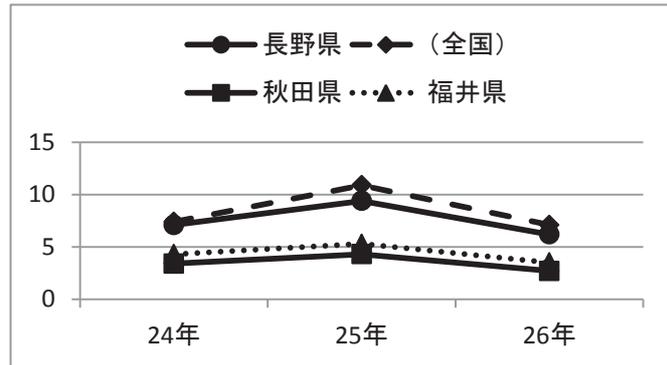
【小学校国語】

	24年	25年	26年
長野県	10.6	14.3	11.6
(全国)	12.8	16.8	12.8
秋田県	4.5	6.7	5.1
福井県	6.7	8.9	8.5



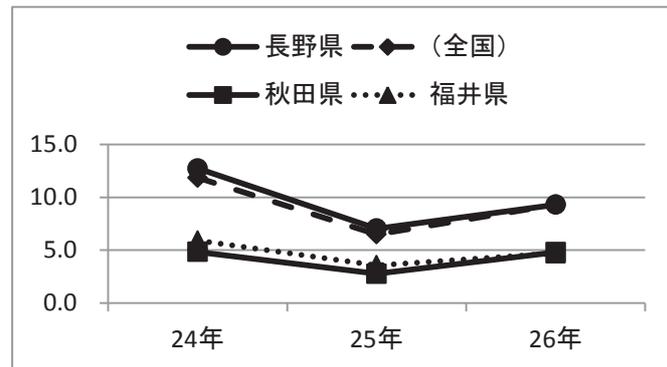
【小学校算数】

	24年	25年	26年
長野県	7.1	9.4	6.2
(全国)	7.4	10.9	7.1
秋田県	3.4	4.3	2.7
福井県	4.3	5.3	3.5



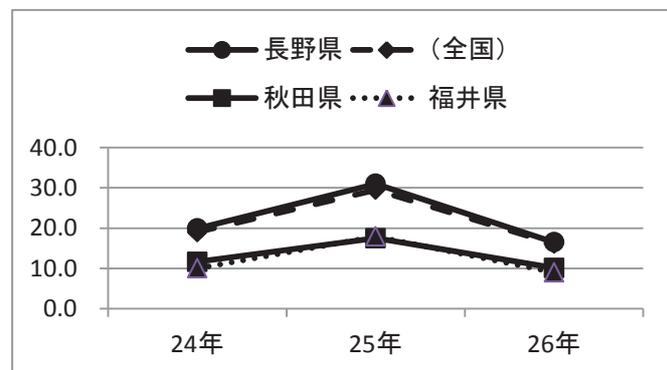
【中学校国語】

	24年	25年	26年
長野県	12.7	7.0	9.3
(全国)	11.9	6.5	9.3
秋田県	4.8	2.8	4.8
福井県	5.9	3.6	4.7



【中学校数学】

	24年	25年	26年
長野県	19.9	31.0	16.5
(全国)	19.0	29.5	16.1
秋田県	11.6	17.5	10.1
福井県	10.0	17.9	9



無解答率の経年変化の様子は、小中ともに全国の成果を上げている県と開きはあるものの、同様の傾向で推移している。

## ◆質問紙調査の回答状況および教科調査との関係

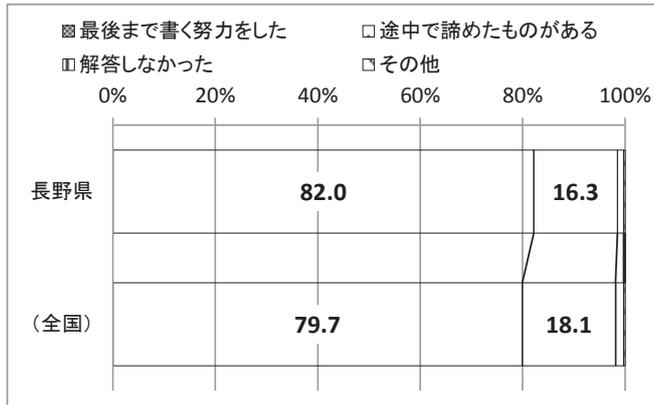
<学習に対する関心・意欲・態度>

【児童生徒質問紙】

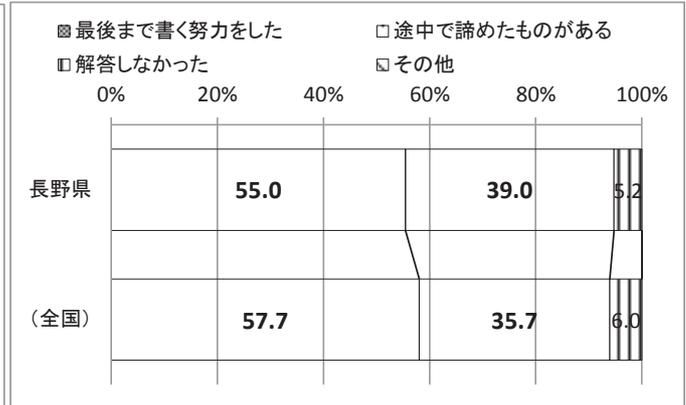
	質問番号	質問事項
小学校	72	今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか
中学校	72	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って、説明する問題がありましたが、最後まで解答をかこうと努力しましたか

《平成26年度結果》

小学校

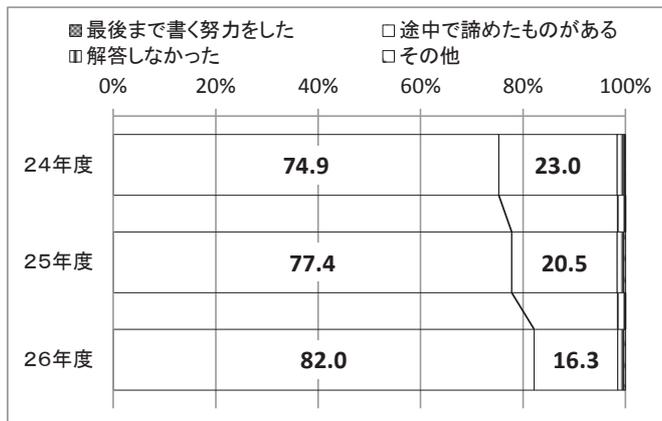


中学校

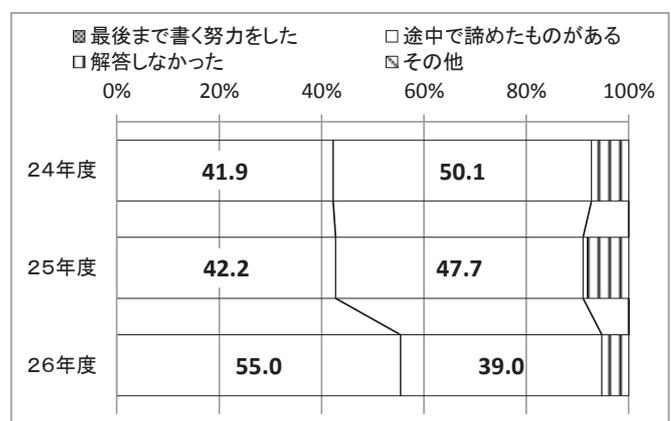


《経年変化》

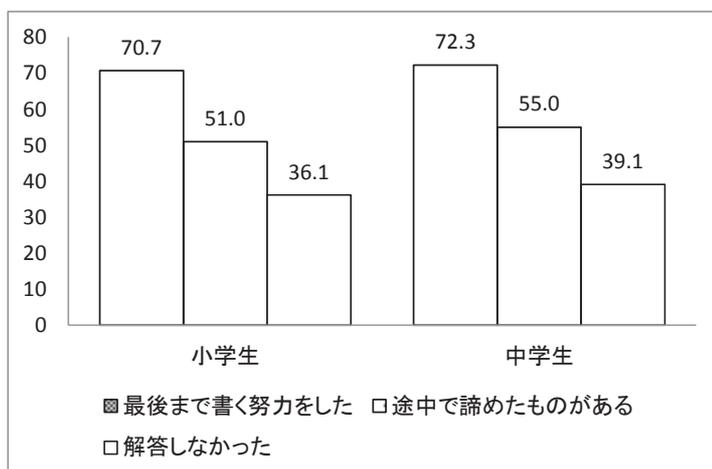
小学校



中学校



《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》



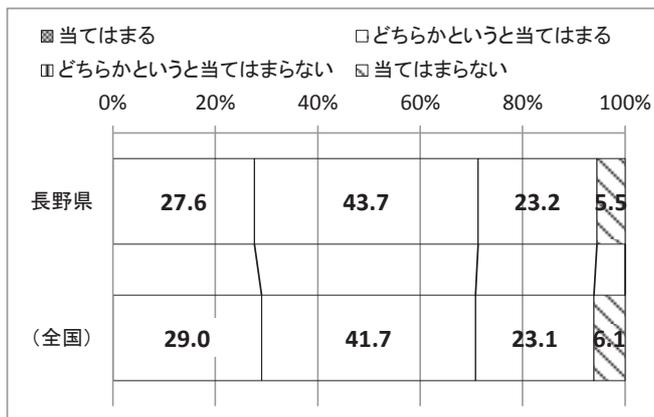
<学習に対する関心・意欲・態度>

【児童生徒質問紙】

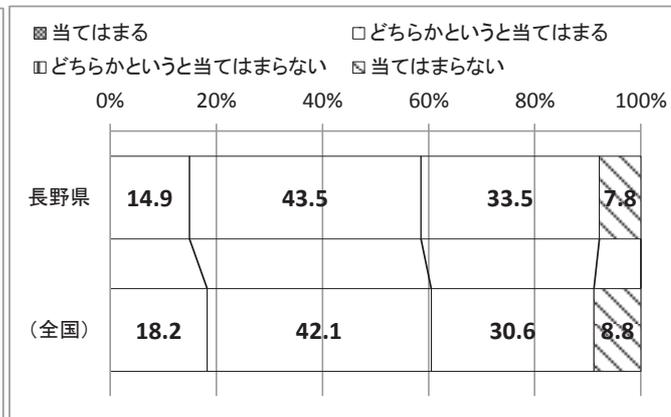
質問番号		質問事項
小学校	57	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
中学校	57	

《平成26年度結果》

小学校

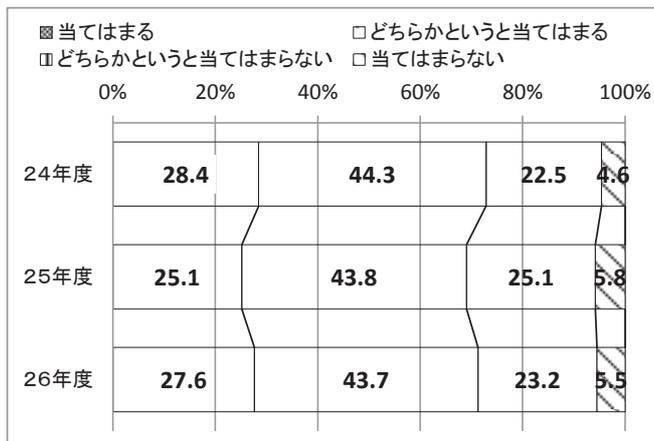


中学校

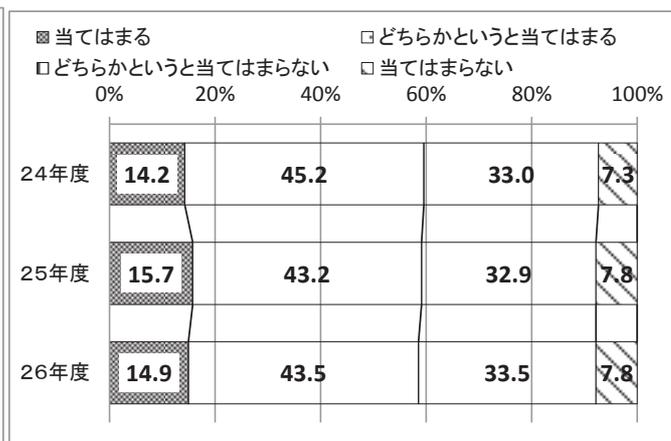


《経年変化》

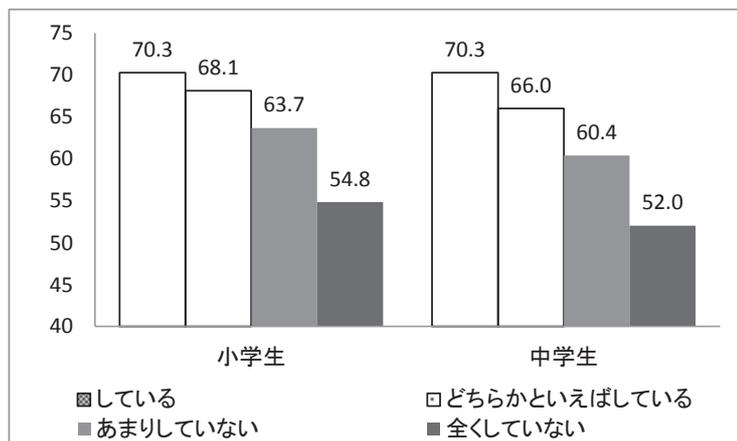
小学校



中学校



《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》



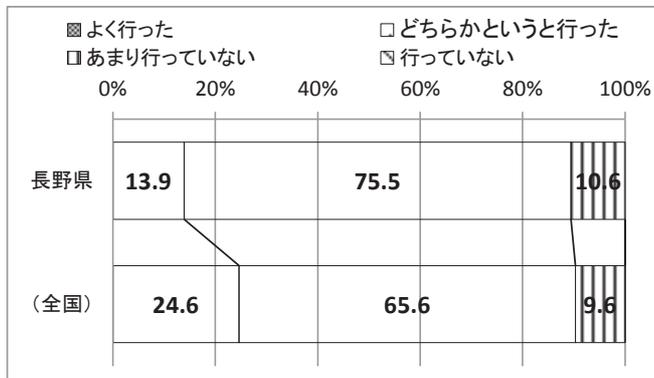
<言語活動の指導>

【学校質問紙】

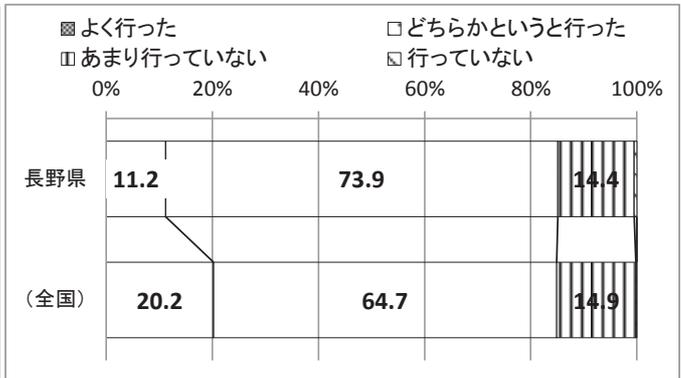
	質問番号	質問事項
小学校	30	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか(新規)
中学校	30	

《平成26年度結果》

小学校



中学校

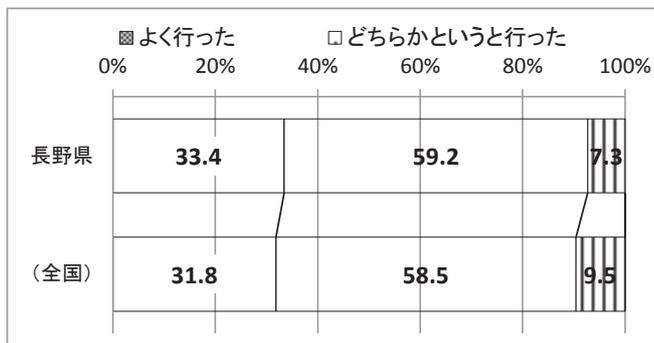


【学校質問紙】

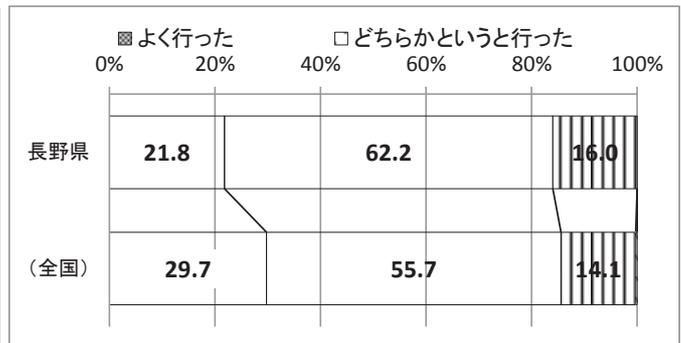
	質問番号	質問事項
小学校	97	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか(新規)
中学校	95	

《平成26年度結果》

小学校

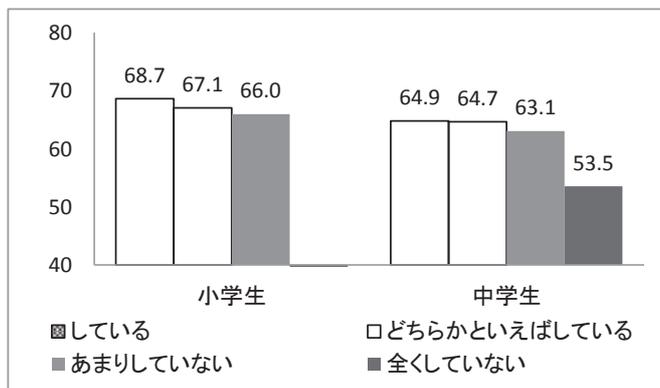


中学校

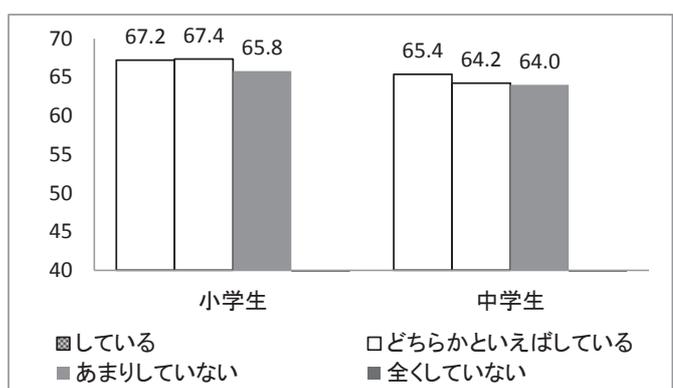


《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》

指導のねらいを明確にした位置付け



学校全体としての取り組み



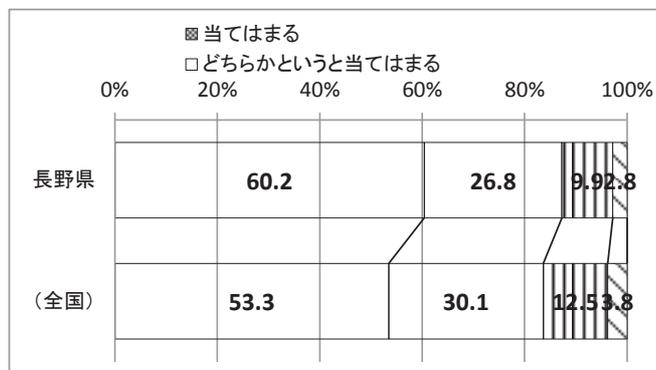
<学習に対する関心・意欲・態度>

【児童生徒質問紙】

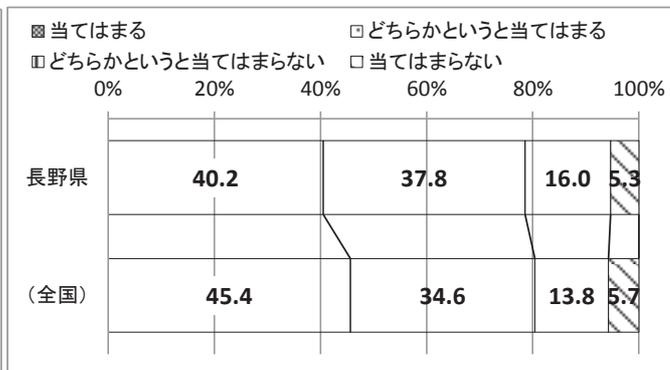
	質問番号	質問事項
小学校	71	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか
中学校	71	

《平成26年度結果》

小学校

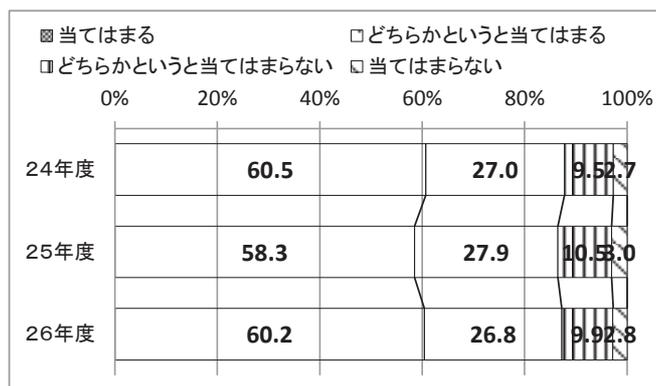


中学校

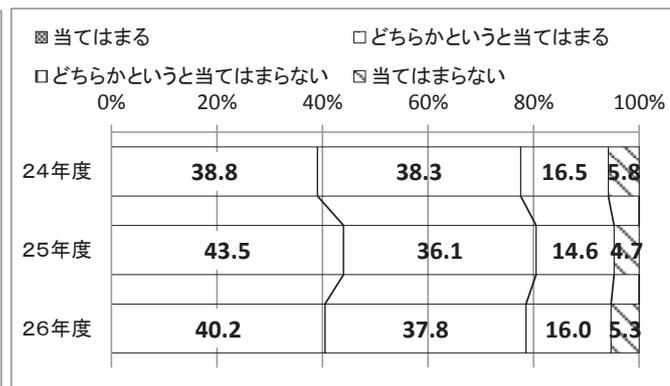


《経年変化》

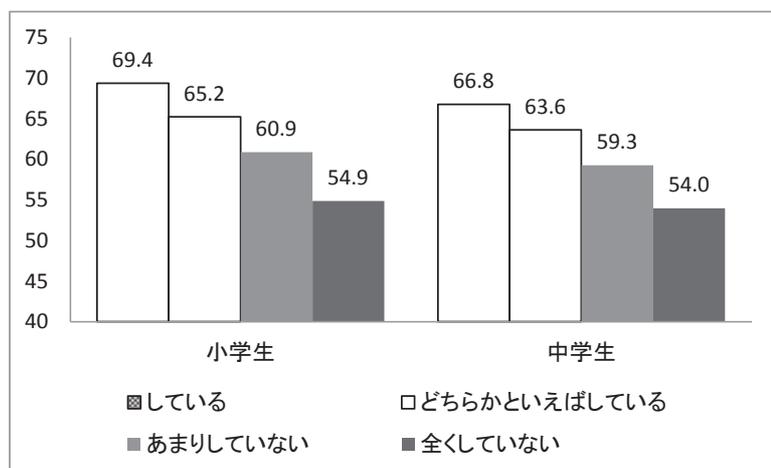
小学校



中学校



《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》



<学習に対する関心・意欲・態度>

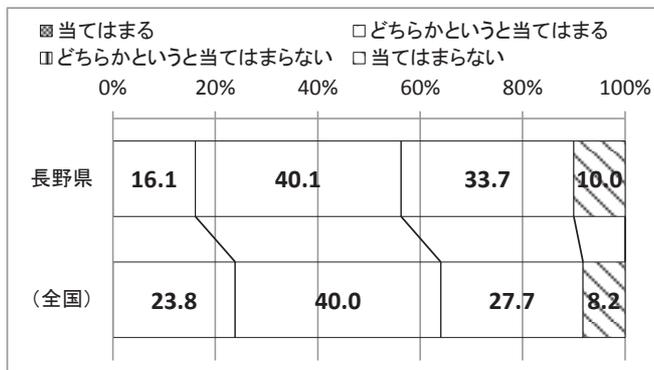
《総合的な学習の時間》

【児童生徒質問紙】

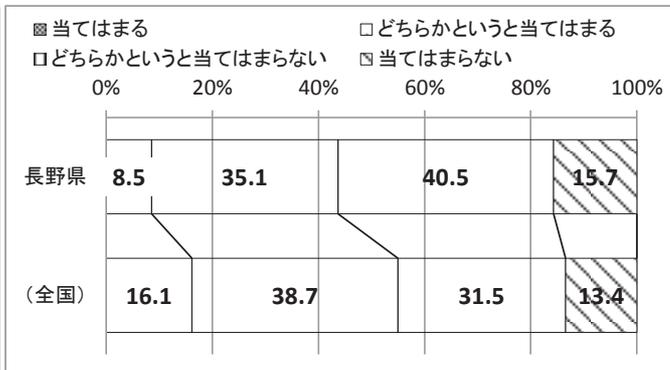
	質問番号	質問事項
小学校	40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
中学校	40	

《平成26年度結果》

小学校

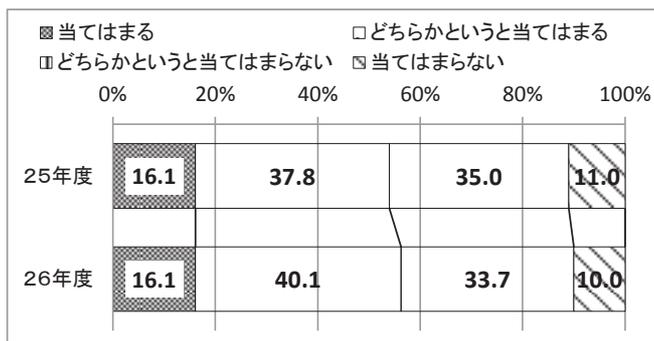


中学校

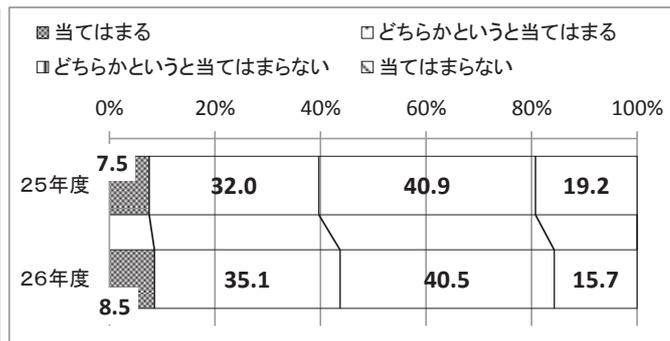


《経年変化》

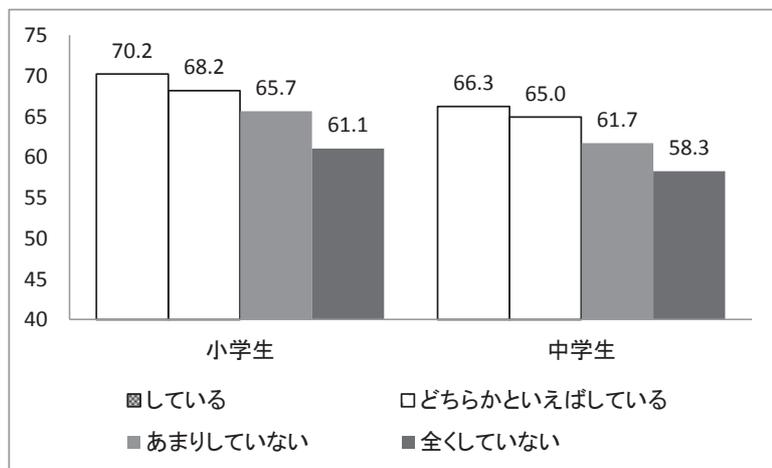
小学校



中学校



《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》



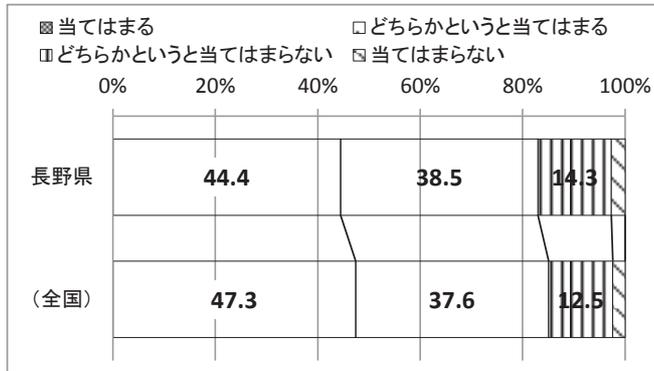
<学習に対する関心・意欲・態度>

《言語活動》

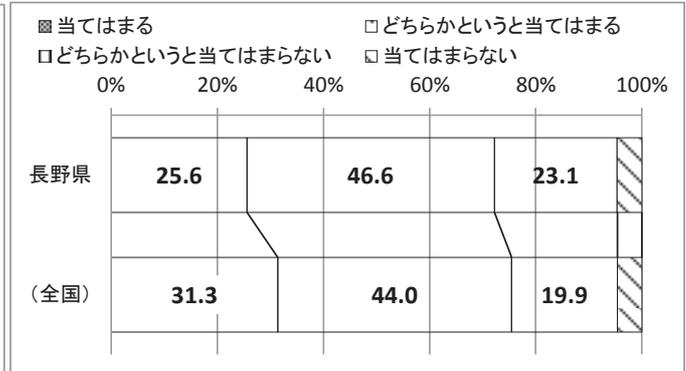
【児童生徒質問紙】

	質問番号	質問事項
小学校	43	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか
中学校	43	

小学校

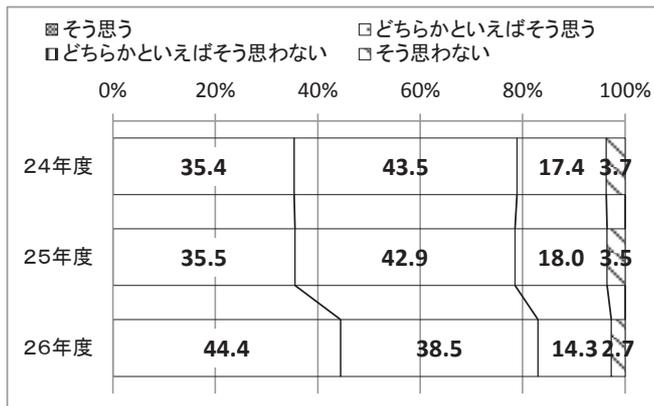


中学校

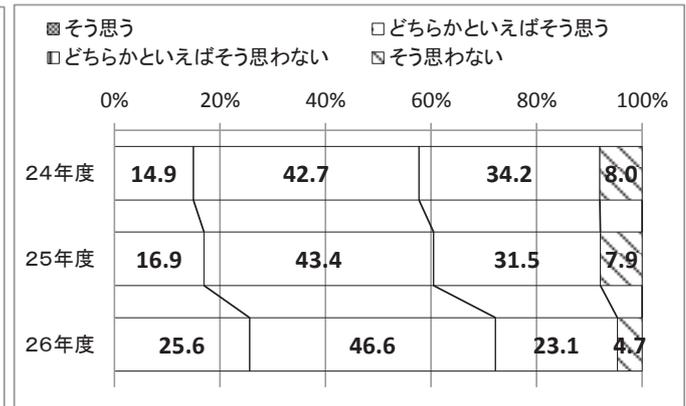


《経年変化》

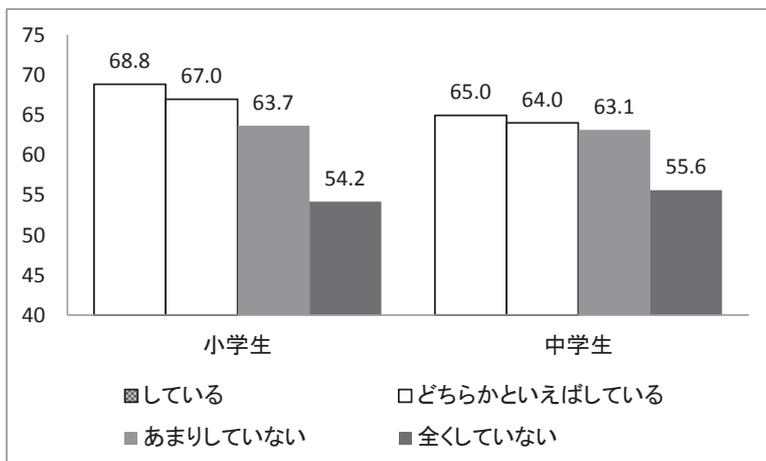
小学校



中学校



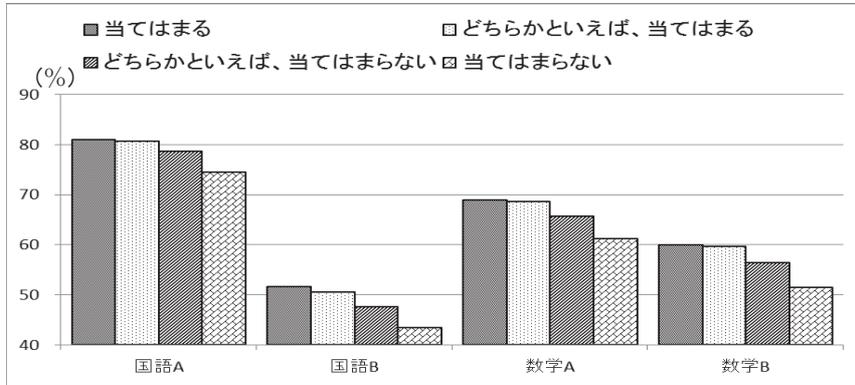
《26年度の教科調査と質問紙調査の回答状況の関係》



◆学習指導に関する質問紙調査の回答と平均正答率の関係

授業の目標について

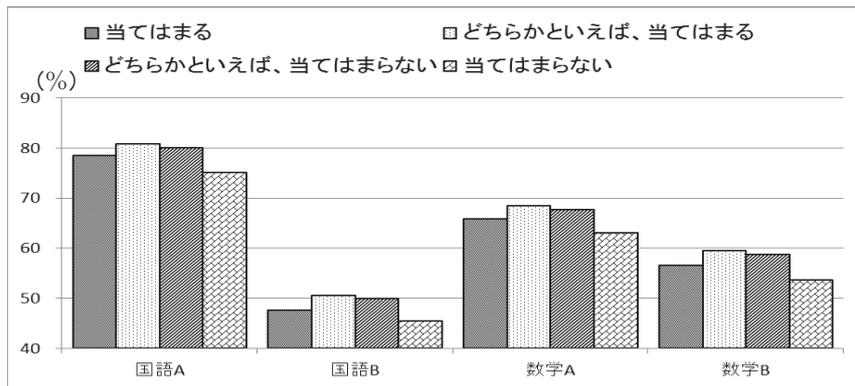
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
44	授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	23.1	81.0	51.6	68.9	60.0
どちらかといえば、当てはまる	41.3	80.8	50.6	68.6	59.7
どちらかといえば、当てはまらない	27.0	78.7	47.6	65.8	56.4
当てはまらない	8.4	74.6	43.5	61.3	51.5

授業を振り返る活動について

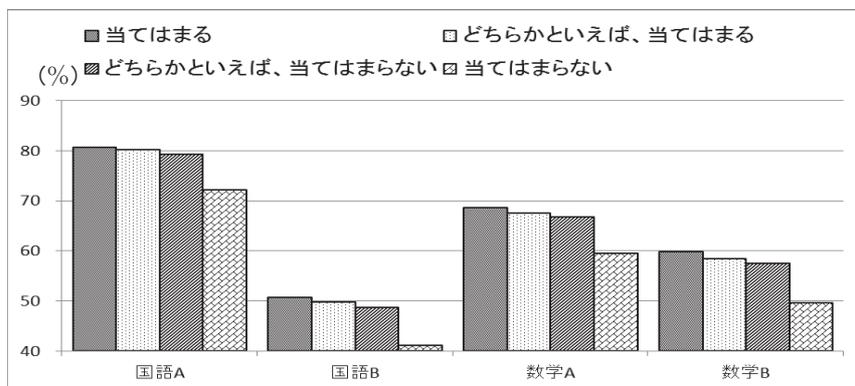
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
45	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	8.5	78.5	47.6	65.9	56.6
どちらかといえば、当てはまる	35.1	80.9	50.6	68.5	59.6
どちらかといえば、当てはまらない	40.5	80.1	50.0	67.8	58.7
当てはまらない	15.7	75.1	45.4	63.1	53.7

## 話し合う活動について

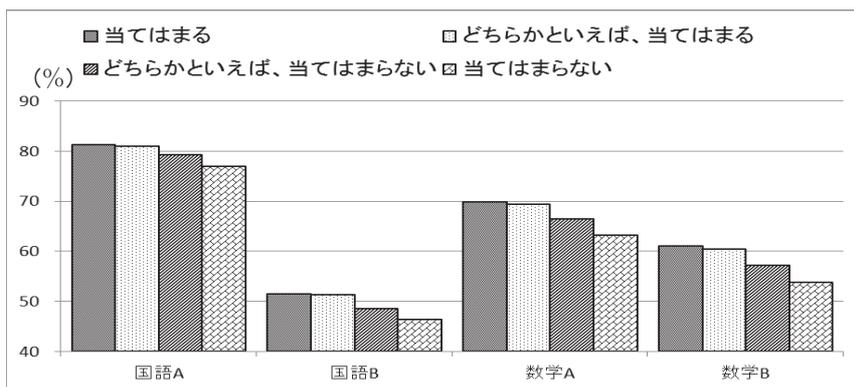
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
43	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	25.6	80.7	50.7	68.6	59.8
どちらかといえば、当てはまる	46.6	80.2	49.8	67.6	58.4
どちらかといえば、当てはまらない	23.1	79.3	48.8	66.8	57.6
当てはまらない	4.7	72.2	41.1	59.6	49.6

## 総合的な学習の時間における探究的な活動について

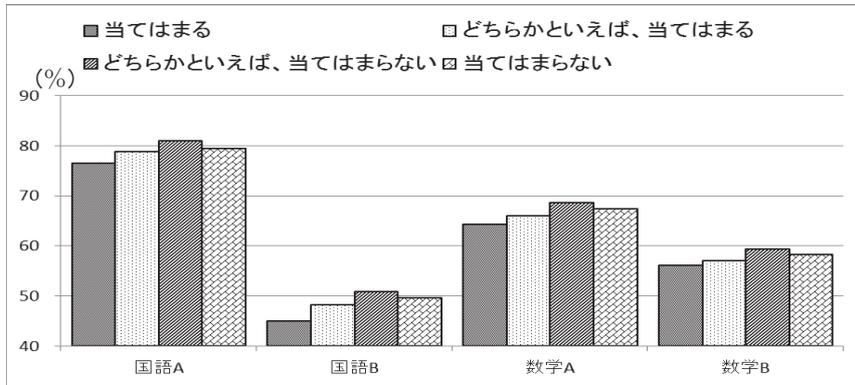
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	14.4	81.3	51.5	69.9	61.1
どちらかといえば、当てはまる	38.2	81.1	51.3	69.4	60.5
どちらかといえば、当てはまらない	36.6	79.3	48.5	66.5	57.2
当てはまらない	18.4	77.0	46.4	63.3	53.9

## 調べる活動について

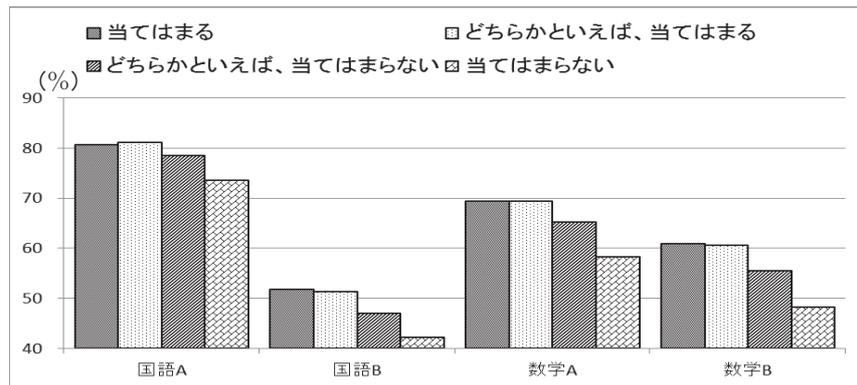
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
41	授業で、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	8.7	76.6	45.0	64.3	56.2
どちらかといえば、当てはまる	28.0	78.8	48.2	66.0	57.0
どちらかといえば、当てはまらない	44.2	81.0	50.9	68.6	59.4
当てはまらない	19.0	79.5	49.6	67.5	58.3

## 話し合う活動を通じての考えの広がりについて

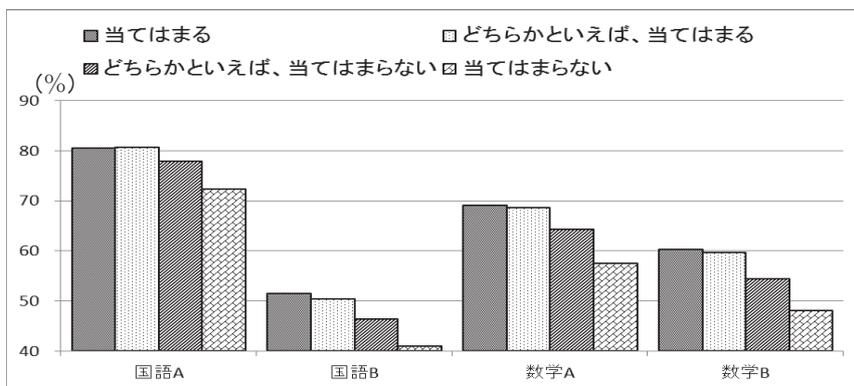
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
48	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	14.9	80.8	51.8	69.4	61.0
どちらかといえば、当てはまる	46.3	81.2	51.4	69.5	60.7
どちらかといえば、当てはまらない	30.7	78.6	47.0	65.3	55.6
当てはまらない	7.9	73.6	42.3	58.3	48.2

## 先生によいところを認められているかについて

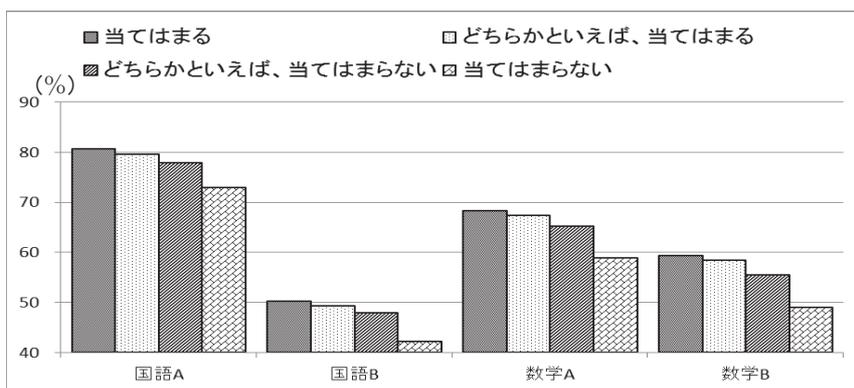
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	27.0	80.6	51.5	69.1	60.3
どちらかといえば、当てはまる	48.7	80.8	50.4	68.6	59.7
どちらかといえば、当てはまらない	17.8	77.9	46.4	64.3	54.5
当てはまらない	5.9	72.4	41.0	57.6	48.1

## 学級みんなでの取組について

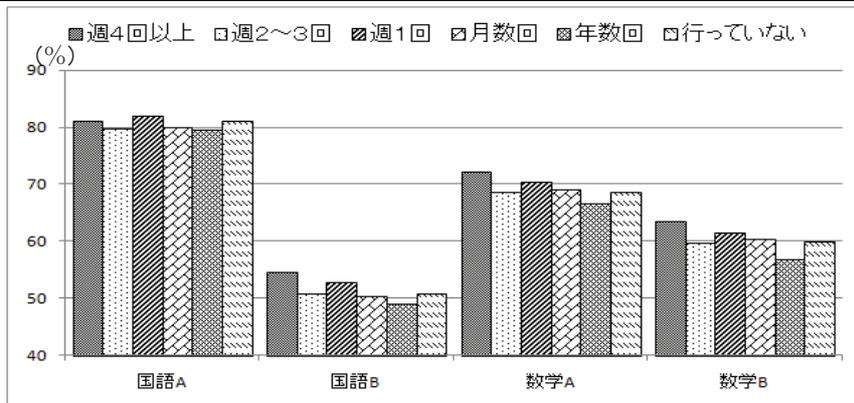
質問番号	質問事項(生徒質問紙)
27	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	55.7	80.7	50.3	68.3	59.4
どちらかといえば、当てはまる	29.3	79.7	49.4	67.4	58.4
どちらかといえば、当てはまらない	10.1	78.0	47.9	65.3	55.5
当てはまらない	4.5	73.0	42.3	58.9	49.1

## 補足的な学習サポートについて

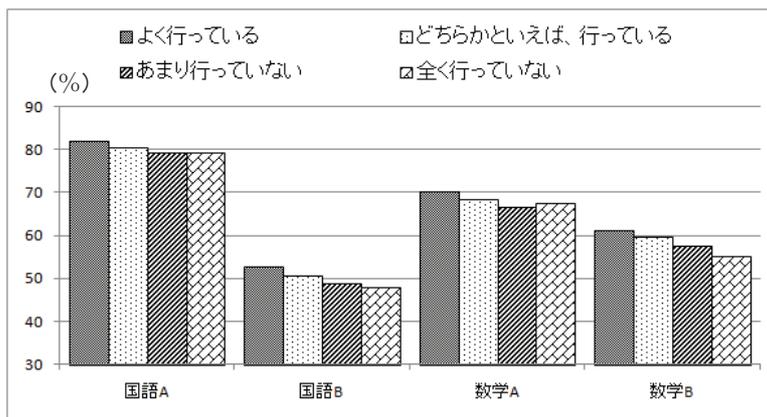
質問番号	質問事項(学校質問紙)
25	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか



	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
週4回以上	1.6	81.0	54.4	72.1	63.4
週2～3回	4.8	79.6	50.7	68.6	59.7
週1回	9.0	81.8	52.8	70.4	61.3
月数回	20.2	79.9	50.2	68.9	60.3
年数回	34.6	79.4	49.0	66.4	56.8
行っていない	29.8	81.0	50.6	68.6	59.9

## 小学校との連携について

質問番号	質問事項(学校質問紙)
70	教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携(教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など)を行っていますか(中学校への質問)

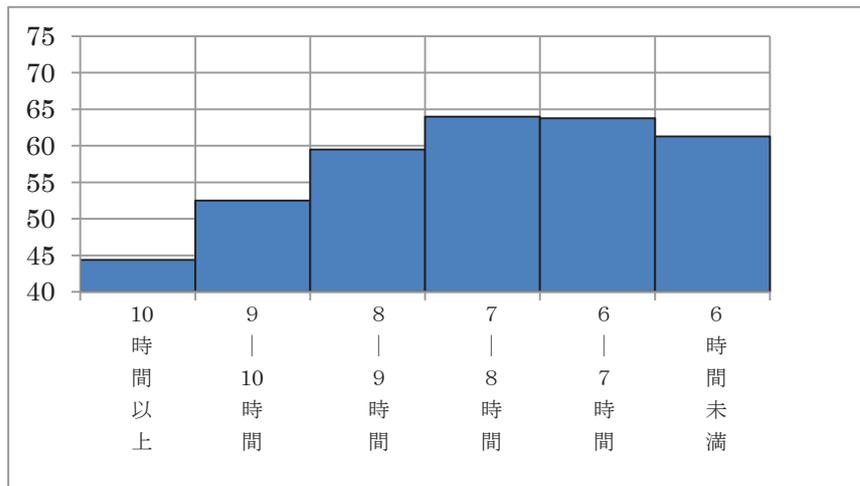


	回答割合	教科調査の正答率			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	21.8	81.7	52.5	70.0	61.0
どちらかといえば、当てはまる	50.0	80.3	50.3	68.3	59.4
どちらかといえば、当てはまらない	25.0	78.9	48.5	66.2	57.4
当てはまらない	3.2	79.1	47.6	67.4	55.0

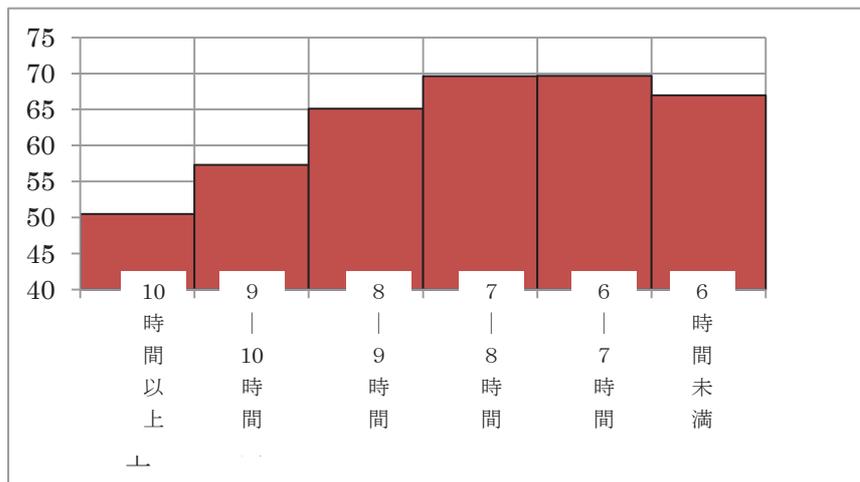
◆長野県の中学生における生活と学力の関係

1 長野県の平均正答率と睡眠時間（平成 20、21、25 年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙）

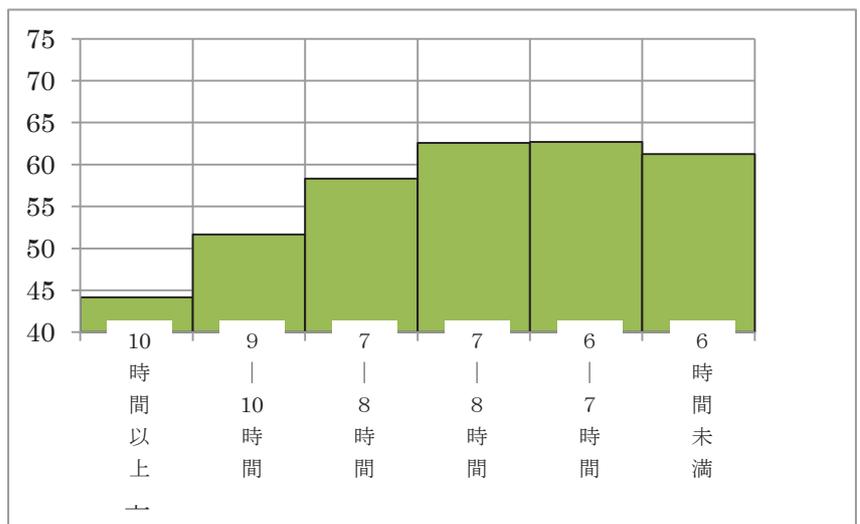
平成 20 年度



平成 21 年度



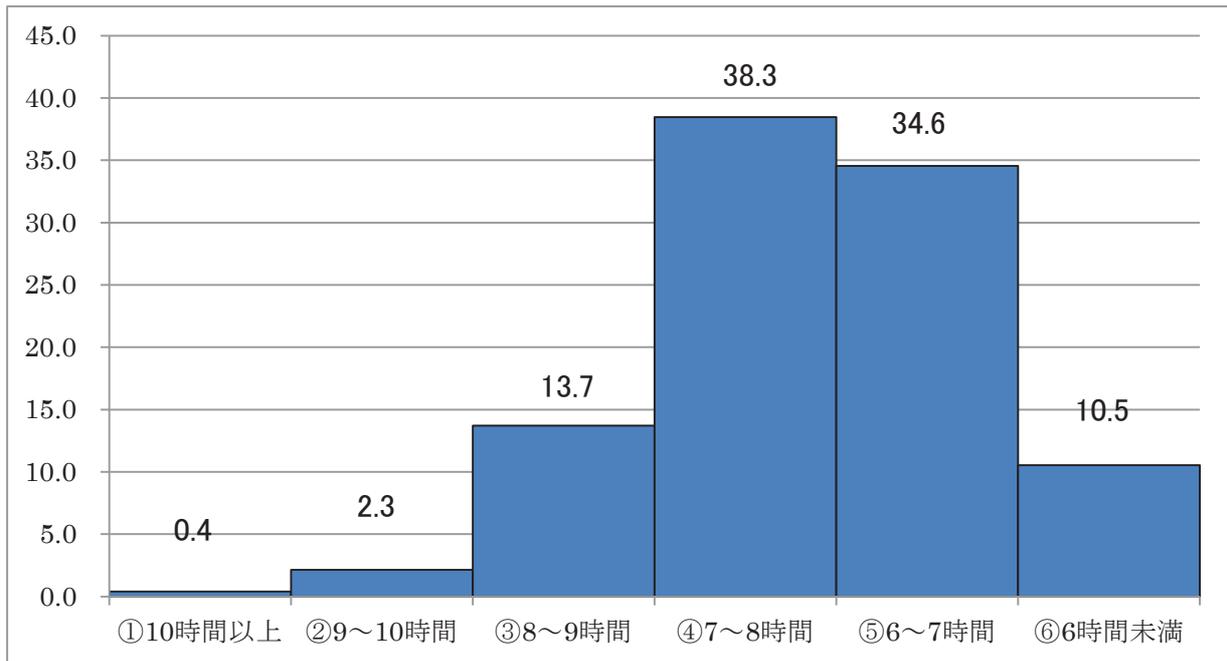
平成 25 年度



○過去3年間のグラフから、長野県の中学生は6～8時間の睡眠時間をとっている生徒の正答率が高いといえる。

## 2 全教科で全国平均正答率を上回った生徒の睡眠時間ごとの構成比

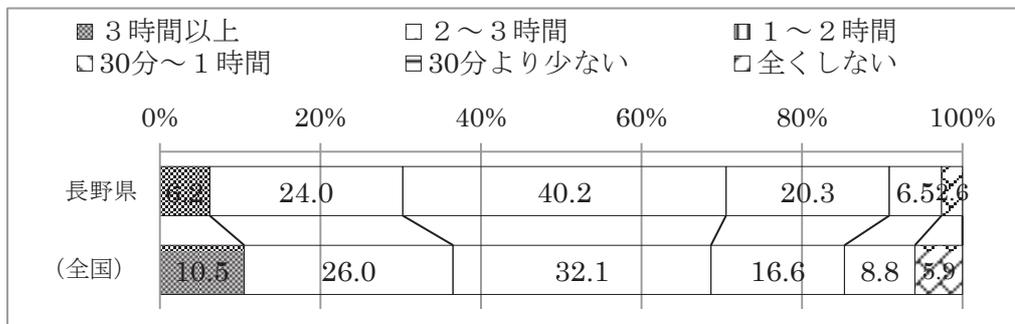
＜長野県＞（平成 25 年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙）



○長野県で、全教科全国平均正答率を上回った生徒は、7～8時間の睡眠時間の生徒が 38.3%で、最も多い。

## 3 長野県の中学生（小学生）の家庭生活

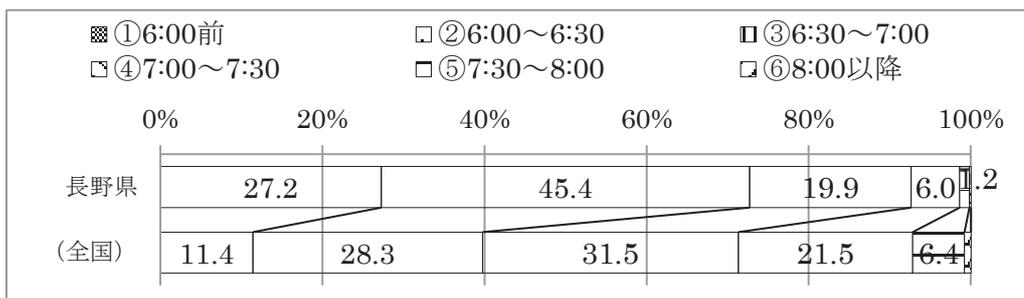
（1）家庭学習（平成 25 年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙）



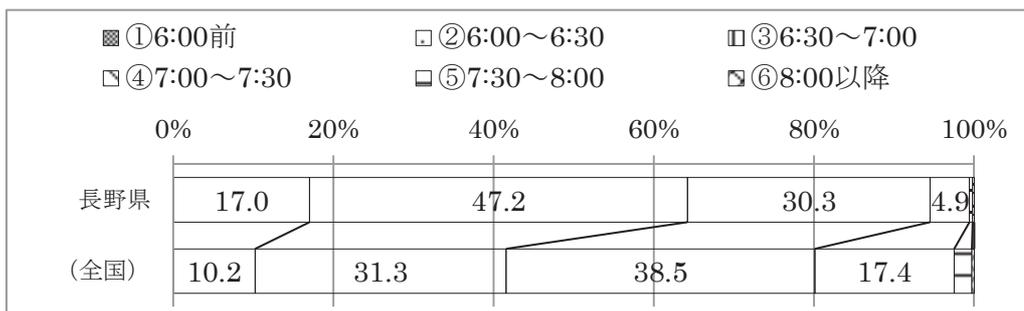
○長野県の中学生は、全国と比べ、家庭学習を3時間以上する生徒の割合は少なく、2～3時間を加えても、6ポイント以上少ないが、30分～1時間の生徒の割合は全国よりも8ポイント以上多い。このことから、決められた提出ノートをこなして、家庭学習を終わりにしている生徒が多いと思われる。

(2) 起床時刻 (平成 25 年度全国学力・学習状況調査 小学校児童質問紙 中学校生徒質問紙)

<中学生>



<小学生>

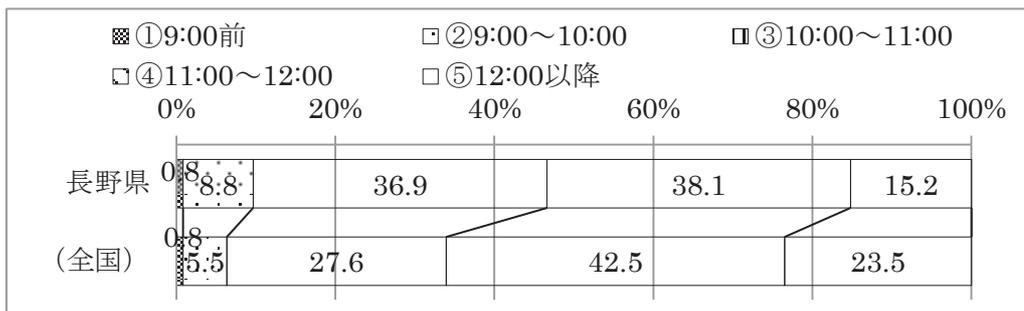


※ 6 時前に起床している生徒の割合が高い県

(千葉 29.3% 茨城 19.5% 群馬 11.8% 岐阜 11.7%)

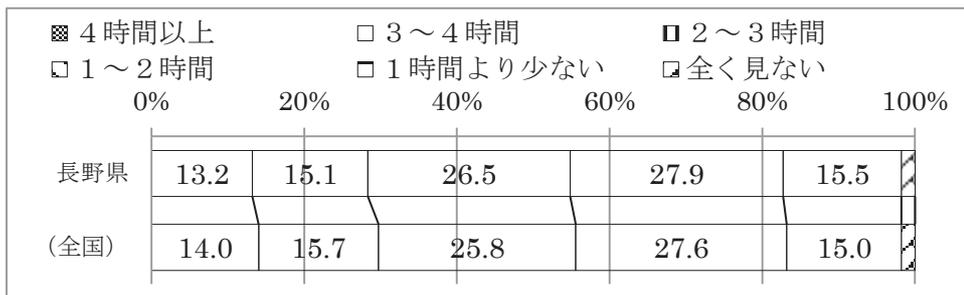
○長野県の小・中学生は、6 時前、6 時～6 時 30 分までに起きる児童生徒が全国に比べて多く、特に中学生では、顕著な差がある。小学生期から起床時間が早い要因として、中学生の兄や姉との関係や早寝早起きの習慣の定着などが考えられる。

(3) 就寝時刻 (平成 25 年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙)



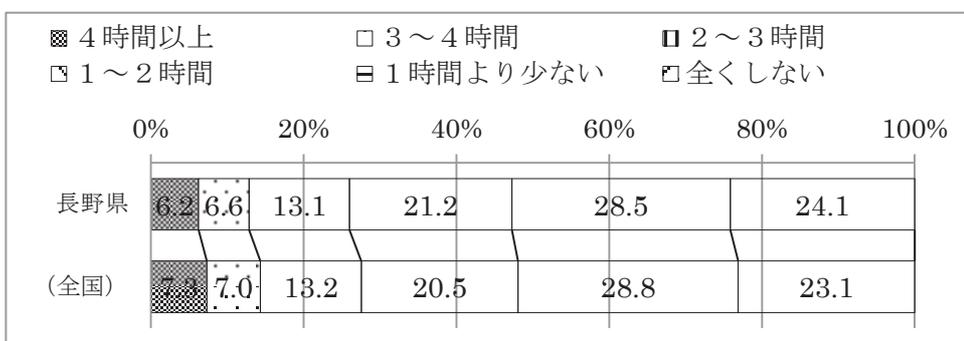
○長野県の中学生は、全国に比べて、就寝時刻が早い。

(4) TV等の視聴時間 (平成25年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙)



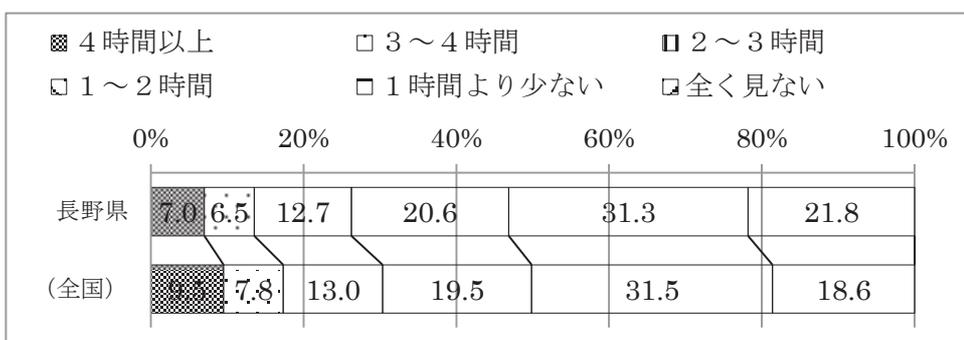
○長野県の中学生は、全国に比べて、テレビの視聴時間がやや短い。

(5) ゲームの時間 (平成25年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙)



○長野県の中学生は、全国に比べて、ゲームの時間がやや短い。

(6) インターネットの利用時間 (平成25年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問紙)



○長野県の中学生は、全国に比べて、インターネットの利用時間が短い。

# 長野県の調査結果

## 【設問別調査結果 小学校】

### ◇国語A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1一(1)	漢字を読む(道路の標識を見る)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	伝	言	短	91.7	91.7	1.5	1.7
1一(2)	漢字を読む(街灯がつく)		伝	言	短	87.9	87.0	2.5	2.5
1一(3)	漢字を読む(勢よく走り出す)		伝	言	短	71.0	74.4	1.7	1.5
1二(1)	漢字を書く(料理をのせたさらを運ぶ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝	言	短	98.3	97.8	0.5	0.6
1二(2)	漢字を書く(勝利をいわず)		伝	言	短	62.4	59.3	6.0	6.8
1二(3)	漢字を書く(かぜをよぼうする)		伝	言	短	77.0	77.4	7.7	7.2
2一	故事成語の使い方として適切なものを選択する(五十歩百歩)	故事成語の意味と使い方を理解する	伝	言	選	49.5	55.8	0.3	0.3
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する(百聞は一見にしかず)		伝	言	選	44.5	49.9	0.4	0.5
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果捉える	書伝	書言	選	57.4	58.7	0.2	0.2
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	読	読	選	72.5	71.7	0.2	0.3
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える	読	読	短	65.8	65.3	0.5	0.5
6一	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	書伝	書言	短	74.9	74.9	4.5	5.7
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える	書伝	書言	選	85.0	83.1	1.4	2.0
7	話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける	話	話	選	73.4	72.4	1.7	2.1
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する(はかる)	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する	伝	言	選	77.2	74.3	2.3	2.7

### ◇国語B

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1一	司会㊦の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話し合いの観点を整理する	話	話	短	64.3	65.2	6.4	7.9
1二	林さん㊧の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	話	話	選	59.5	60.2	3.1	3.5
1三	大野さん㊨の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	話書	聞話書	記	31.4	28.3	4.8	5.0
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える	読	読	短	72.7	71.9	6.9	8.2
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	書読	聞書読	記	30	26.9	6.7	7.4
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む	読	読	短	68.6	66	3.8	4.3
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	読伝	読言	選	81.6	80.4	4	4.4
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する		読伝	読言	選	59.2	59.2	5.1	5.5
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える	読	読	選	49.5	48.5	19.6	19.8
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	書伝	聞書読	記	53.4	48.1	23.4	26.0

※領域等 話：話すこと・聞くこと  
書：書くこと  
読：読むこと  
伝：伝統言語文化と的な国語の特質に関する事項

※評価の観点 関：国語への関心・意欲・態度  
話：話す・聞く能力  
書：書く能力  
読：読む能力  
言：言語についての知識・理解・技能

※問題形式 選：選択式  
短：短答式  
記：記述式

【設問別調査結果 小学校】

◇数学A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1(1)	46+57を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	計	技	短	96.8	96.9	0.0	0.1
1(2)	903×6を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	計	技	短	92.5	92.8	0.1	0.2
1(3)	9-0.8を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	計	技	短	84.7	83.8	0.6	0.8
1(4)	2÷5を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	計	技	短	92.4	91.8	0.8	0.9
1(5)	100-20×4を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	数	技	短	87.0	80.9	0.4	0.5
1(6)	1/3+2/5を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	計	技	短	90.2	90.6	1.1	1.1
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	計	知	選	70.3	71.9	0.2	0.3
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	計	知	選	54.3	54.1	0.2	0.4
3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	計	知	選	72.8	72.5	0.6	0.6
4(1)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	量	知	選	83.4	82.3	0.5	0.7
4(2)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋について、1m <sup>2</sup> 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	量	知	短	62.1	60.8	3.3	3.4
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	図	技	短	85.8	83.9	1.7	1.5
5(2)	1cm <sup>3</sup> の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm <sup>3</sup> )と測定について理解している	量	知	短	82.7	81.1	1.6	1.8
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	図	知	選	55.2	52.0	0.4	0.6
7	縦5cm、横1cm、高さ4cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	図	知	選	69.8	69.4	0.5	0.7
8	答えが100-20×4の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している	数	知	選	82.5	81.0	0.7	0.9
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる	図数	技	選	82.6	82.0	1.0	1.2

◇数学B

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1(1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	計	技	選	95.0	94.6	0.2	0.3
1(2)	二人の説明を基に、37×24の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	計数	考	記	58.2	55.2	4.6	6.0
2(1)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	計量	技	短	82.9	82.5	2.8	3.0
2(2)	6・7月の水の使用量1500m <sup>3</sup> は、プールに入る水の量250m <sup>3</sup> の何倍かを求める式と答えを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる	量数	考	記	72.5	69.1	2.0	2.6
2(3)	1目盛りを50m <sup>3</sup> として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる	量数	知	選	57.9	61.5	1.0	1.2
3(1)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	量	考	短	38.1	38.6	3.1	3.4
3(2)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	計	知	選	59.0	56.7	1.3	1.8
3(3)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	量	考	記	30.6	30.6	1.5	1.9
4(1)	⑦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節目を求めることができる	計数	技	短	63.9	62.2	1.5	1.7
4(2)	二人の⑧のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	計	考	記	62	60.5	10.7	12.1
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる	図	技	短	66.1	65.7	4.0	5.2
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	計	知	選	46.9	46.1	3.1	3.5
5(3)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	計量	考	記	34.3	33	12.3	13.1

※領域等 計：数と計算  
量：量と測定  
図：図形  
数：数量関係

※評価の観点 関：算数への関心・意欲・態度  
考：数学的な考え方  
技：数量や図形についての技能  
知：数量や図形についての知識・理解

※問題形式 選：選択式  
短：短答式  
記：記述式

【設問別調査結果 中学校】

◇国語A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		
						長野県	全国	長野県	全国	
1一	フリップの効果の説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	話	話	選	77.7	78.6	0.1	0.2	
1二	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	話	話	選	81.4	80.3	0.1	0.2	
2一	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	書	書	選	90.4	90.9	0.1	0.2	
2二	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	書	書	短	78.9	79.8	10.8	9.2	
3一	主人公が「素通りができなくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意してよみ、内容を理解する	読	読	選	91.0	91.9	0.2	0.2	
3二	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	読	読	選	80.5	79.8	0.2	0.2	
3三	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したものとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	読	読	選	76.2	79.1	0.3	0.4	
4一	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	書	書	選	94.5	92.6	0.3	0.4	
4二	主語を置き換えて行事の記録を書きなおす	叙述の仕方などを確かめて、適切に書きかえる	書	書	短	80.8	80.5	3.1	3.1	
5一	「動物」と「外界のもの」との組み合わせとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する	読	読	選	76.9	78.2	0.4	0.4	
5二	「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する	読	読	選	85.1	85.6	0.5	0.5	
6一	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	話	話	短	51.5	54.3	6.6	5.9	
6二	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	話	話	選	76.1	76.0	1.2	1.2	
7一	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	書	書	選	84.4	84.6	0.6	0.6	
7二	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書きなおす	書	書	選	71.3	72.1	1.0	1.0	
8一1	漢字を書く（地域の人をショウタイする）	文脈に即して漢字を正しく書く	伝	言	短	61.8	57.6	10.6	12.3	
8一2	漢字を書く（円のハンケイを求める）		伝	言	短	64.6	59.5	2.8	3.3	
8一3	漢字を書く（計画を行動にウツす）		伝	言	短	77.3	73.6	10.0	10.9	
8二1	漢字を読む（アユの稚魚を放流する）	文脈に即して漢字を正しく読む	伝	言	短	78.2	77.0	7.5	7.7	
8二2	漢字を読む（このホールは音響効果が良い）		伝	言	短	89.8	88.6	4.2	4.1	
8二3	漢字を読む（新記録に挑む）		伝	言	短	95.4	95.2	1.3	1.3	
8三ア	適切な語句を選択する（良い結果を早く出したように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝	言	選	57.9	59.2	1.0	1.0	
8三イ	適切な語句を選択する（先のことは分からないが、とりあえず準備だけはしておく）		伝	言	選	96.3	96.2	0.6	0.6	
8三ウ	適切な語句を選択する（地域の伝統的な文化を継承する）		伝	言	選	79.5	80.8	0.9	0.8	
8三エ	適切な語句を選択する（笑い声が満ちている家には幸福が訪れることを「笑う門は福来る」という）		伝	言	選	89.3	89.5	0.8	0.7	
8三オ	適切な語句を選択する（お客様、私が校内をご案内します）		伝	言	選	92.9	93.0	0.9	0.8	
8三カ	適切な語句を選択する（あの人は、単刀直入にものをいう）		伝	言	選	87.6	86.3	1.1	1.1	
8三キ	適切な語句を選択する（忙しい兄は、休日にのびのびと羽を伸ばす）		伝	言	選	93.0	92.1	1.1	1.0	
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く（英気を養う）		辞書を活用して、語句の意味を適切に書く	伝	言	短	60.4	59.9	13.3	12.3
8五1	歴史低仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）		歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	伝	言	短	80.0	80.3	7.4	7.0
8五2	古文に当てはまる言葉が昔話の中から抜き出す		古典と昔話とを対応させて内容を捉える	伝	言	短	70.7	71.0	9.6	9.0
8六	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く	伝	言	選	78.1	77.6	1.4	1.6	

◇国語B

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1一	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	伝	言	選	60.4	65.3	0.3	0.3
1二	標語から伝わってくるメッセージを書く際に、気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ	読	読	選	52.7	58.9	0.3	0.4
1三	ノートを基に、標語から伝わってくる（メッセージ）と（表現の工夫とその効果）を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	書読伝	開書読言	記	44.9	48.2	3.5	3.4
2一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較してよみ、要旨を捉える	読	読	選	32.8	31.4	0.4	0.6
2二	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る	読	読	選	59.3	60.9	0.5	0.7
2三	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	書読	開書読	記	30.2	28.4	16.9	16.0
3一	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る	読	読	選	50.2	52.0	0.6	0.7
3二	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する	読伝	読言	選	66.5	67.2	0.7	0.8
3三	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く	書読伝	開書読言	記	47.2	46.5	7.6	8.6

※領域等 話：話すこと・聞くこと

書：書くこと

読：読むこと

伝：伝統言語文化と的な国語の特質に関する事項

※評価の観点 関：国語への関心・意欲・態度

話：話す・聞く能力

書：書く能力

読：読む能力

言：言語についての知識・理解・技能

※問題形式 選：選択式

短：短答式

記：記述式

【設問別調査結果 中学校】

◇数学A

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1 (1)	$3/4+5/6$ を計算する	分数の除法の計算ができる	数	技	短	85.4	85.8	2.6	2.8
1 (2)	$2 \times (-5)^2$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	数	技	短	69.3	70.7	1.1	1.5
1 (3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	数	知	短	81.0	81.0	6.2	5.9
1 (4)	35を基準にして38を正の数で表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	数	知	短	91.2	91.1	1.9	2.3
2 (1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	数	技	短	47.0	45.2	11.2	11.1
2 (2)	$10x \div 5x$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	数	技	短	91.1	90.7	2.1	2.4
2 (3)	$a=2$ 、 $b=3$ のときの式 $a^2b$ の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	数	技	短	80.4	82.6	7.1	5.9
2 (4)	男子 $m$ 人と女子 $n$ 人が1人2個ずつもった風船の個数を、 $m$ 、 $n$ を用いて表した式を選ぶ	数量を文字式で表すことができる	数	技	選	90.7	91.2	0.3	0.4
3 (1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	等式の性質と移項の関係を理解している	数	知	選	89.6	89.7	0.5	0.6
3 (2)	一元一次方程式 $x-1/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	数	技	短	57.5	59.5	13.6	12.4
3 (3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることできる	数	知	短	73.2	74.1	0.9	1.0
3 (4)	連立方程式 $y=3x-2$ $y=2x+3$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	数	技	短	65.4	67.2	11.3	10.0
4 (1)	線対称な図形を完成する	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	図	技	短	94.1	93.8	2.2	2.5
4 (2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	図	知	選	53.3	56	0.6	0.7
4 (3)	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができるとかをかきみる	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	図	技	選	43.0	42.5	0.5	0.6
5 (1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の並行について理解している	図	知	短	81.6	81.0	3.9	4.2
5 (2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ動かしてできる立体の名称を選ぶ	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	図	知	選	85.2	84.8	0.3	0.5
5 (3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径の母線に対応していることを読み取ることができる	図	技	短	66	67.7	7.9	7.4
5 (4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	図	知	選	46.1	38.7	0.5	0.7
6 (1)	長方形 $ABCD$ において、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	図	技	選	60.5	61.7	0.4	0.6
6 (2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	図	知	選	72.4	73.4	0.9	1.0
6 (3)	$n$ 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	$n$ 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している	図	知	選	49.1	47.8	1.0	1.0
7	証明で用いられている三角形について正しい記述を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図	知	選	71.7	73.1	0.9	0.9
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している	図	知	短	75.4	75.8	7.5	7.2
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を「…は…の関数である」という形で表す	関数の意味を理解している	関	知	短	37.9	35.8	17.9	17.9
10 (1)	$x=2$ 、 $y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる	関	技	短	57.1	56.7	13.7	13.0
10 (2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している	関	知	選	73.0	75.9	1.1	1.1
10 (3)	$s=vt$ を基に速さが一定のとき、時間 $t$ と道のり $s$ の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる	関	知	選	58.0	60.4	1.6	1.5
10 (4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	関	知	選	46.7	45.7	1.7	1.7
11 (1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	関	知	選	51.4	47.3	1.8	1.8
11 (2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	関	知	選	72.9	75.1	1.4	1.4
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	関	知	選	66.4	66.7	2.9	2.5
13 (1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる	資	技	短	42.0	42.7	19.4	16.7
13 (2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している	資	知	選	55.3	52	2.0	1.8
14 (1)	画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	確率の意味を理解している	資	知	選	75.7	76.6	2.2	2.0
14 (2)	樹形図を利用して、3枚の効果を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる	資	技	短	63.8	65.1	11.2	10.6

◇数学B

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域等	評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)	
						長野県	全国	長野県	全国
1 (1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形的位置関係を的確に捉えることができる	図	見	選	75.4	77.0	0.2	0.3
1 (2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	図	見	選	92.8	92.8	0.2	0.4
1 (3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	図	見	記	58.9	60.6	13.3	12.7
2 (1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	数	見	短	57.9	61.2	10.0	9.3
2 (2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる	数	見	短	64	65.4	9.0	9.0
2 (3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	数	見	記	41.3	44.2	5.7	6.3
3 (1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	関	知	短	88.5	87.5	5.0	5.8
3 (2)	大地さんの求め方を基に、ウェブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる	関	見	記	59.4	62.3	32.3	30.1
4 (1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	図	見	記	38.2	39.4	24.2	22.5
4 (2)	$\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	図	見	短	20.5	23.3	29.3	25.8
5 (1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる	資	見	短	80.5	79.7	4.3	4.8
5 (2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	資	見	記	30.9	32.1	6.3	7.3
6 (1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる	関	見	短	58.6	62.7	9.3	9.0
6 (2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる	関	見	選	77.9	79.8	2.6	2.5
6 (3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	関	見	記	27.3	29.9	17.2	17.5

※領域等

数：数と式  
図：図形  
関：関数  
資：資料の活用

※評価の観点

関：数学への関心・意欲・態度  
見：数学的な見方や考え方  
技：数学的な技能  
知：数量や図形についての知識・理解

※問題形式

選：選択式  
短：短答式  
記：記述式

◆様々なまとまりによる平均正答率

○行政の単位ごとの正答率

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
市	72.8	57.2	79.4	59.3	79.4	49.0	66.7	57.5
町	71.7	56.2	77.9	58.1	80.6	50.5	68.3	60.3
村	71.5	55.4	78.3	58.5	80.1	50.2	69.1	59.3
長野県	72.6	57.0	79.1	59.0	79.7	49.4	67.2	58.1
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8

○教育事務所別の正答率

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
東 信	70.9	55.5	78.0	56.8	77.7	47.2	64.1	55.2
南 信	72.1	57.1	79.2	59.0	80.6	50.5	68.4	59.3
中 信	73.8	57.9	79.9	59.9	80.6	50.5	68.5	59.5
北 信	72.9	57.0	79.1	59.6	79.0	48.3	66.6	57.2
長野県	72.6	57.0	79.1	59.0	79.7	49.4	67.2	58.1
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8

○学校の規模ごとの正答率

	小学校					中学校				
	学校数	国語A	国語B	算数A	算数B	学校数	国語A	国語B	数学A	数学B
1	152	72.2	57.5	79.6	59.8	93	80.5	51.0	68.8	60.0
2	110	72.4	56.2	78.8	58.3	55	79.6	49.0	67.8	58.6
3	107	72.7	57.2	79.2	59.3	38	79.1	48.5	65.5	56.3
長野県		72.6	57.0	79.1	59.0		79.7	49.4	67.2	58.1
全国		72.9	55.5	78.1	58.2		79.4	51.0	67.4	59.8

※小学校 1：学年1学級以下（複式学級を含む）      中学校 1：学年3学級以下  
 2：学年2学級      2：学年4～5学級  
 3：学年3学級以上      3：学年6学級以上

○1学級の人数ごとの正答率

	小学校					中学校				
	校数	国語A	国語B	算数A	算数B	校数	国語A	国語B	数学A	数学B
15人未満	63	72.3	58.2	79.1	60.2	23	83.3	55.2	73.0	64.4
15～25人	108	73.0	57.9	79.4	59.6	27	80.6	52.1	70.0	61.3
25～30人	99	71.9	56.0	78.4	58.4	39	79.9	49.5	68.1	58.9
30人以上	98	72.9	57.3	79.6	59.3	97	79.4	48.9	66.5	57.4
長野県		72.6	57.0	79.1	59.0		79.7	49.4	67.2	58.1
全国		72.9	55.5	78.1	58.2		79.4	51.0	67.4	59.8

○経験年数5年未満の教員の割合による正答率

	小学校					中学校				
	校数	国語A	国語B	算数A	算数B	校数	国語A	国語B	数学A	数学B
10%未満	162	72.7	57.3	79.4	59.5	29	79.1	49.2	67.4	57.8
10～20%	140	72.5	56.5	78.8	58.5	91	79.5	49.1	66.7	57.9
20～30%	52	72.7	57.6	80.0	60.2	49	79.8	49.0	67.3	57.8
30%以上	14	67.4	54.9	73.6	54.3	8	80.2	51.6	68.4	60.0
長野県		72.6	57.0	79.1	59.0		79.7	49.4	67.2	58.1
全国		72.9	55.5	78.1	58.2		79.4	51.0	67.4	59.8

○経験年数20年以上の教員の割合による正答率

	小学校					中学校				
	校数	国語A	国語B	算数A	算数B	校数	国語A	国語B	数学A	数学B
40%未満	41	70.9	56.7	77.4	57.6	40	80.3	50.0	67.9	59.7
40～50%	53	73.1	56.9	78.7	58.8	49	80.0	50.1	67.4	58.2
50～60%	75	72.9	57.5	79.3	59.1	54	79.3	41.1	67.1	57.6
60%以上	179	72.4	56.7	79.5	59.4	43	79.0	48.3	66.0	56.9
長野県		72.6	57.0	79.1	59.0		79.7	49.4	67.2	58.1
全国		72.9	55.5	78.1	58.2		79.4	51.0	67.4	59.8

# 平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」長野県の結果分析報告書 概要版

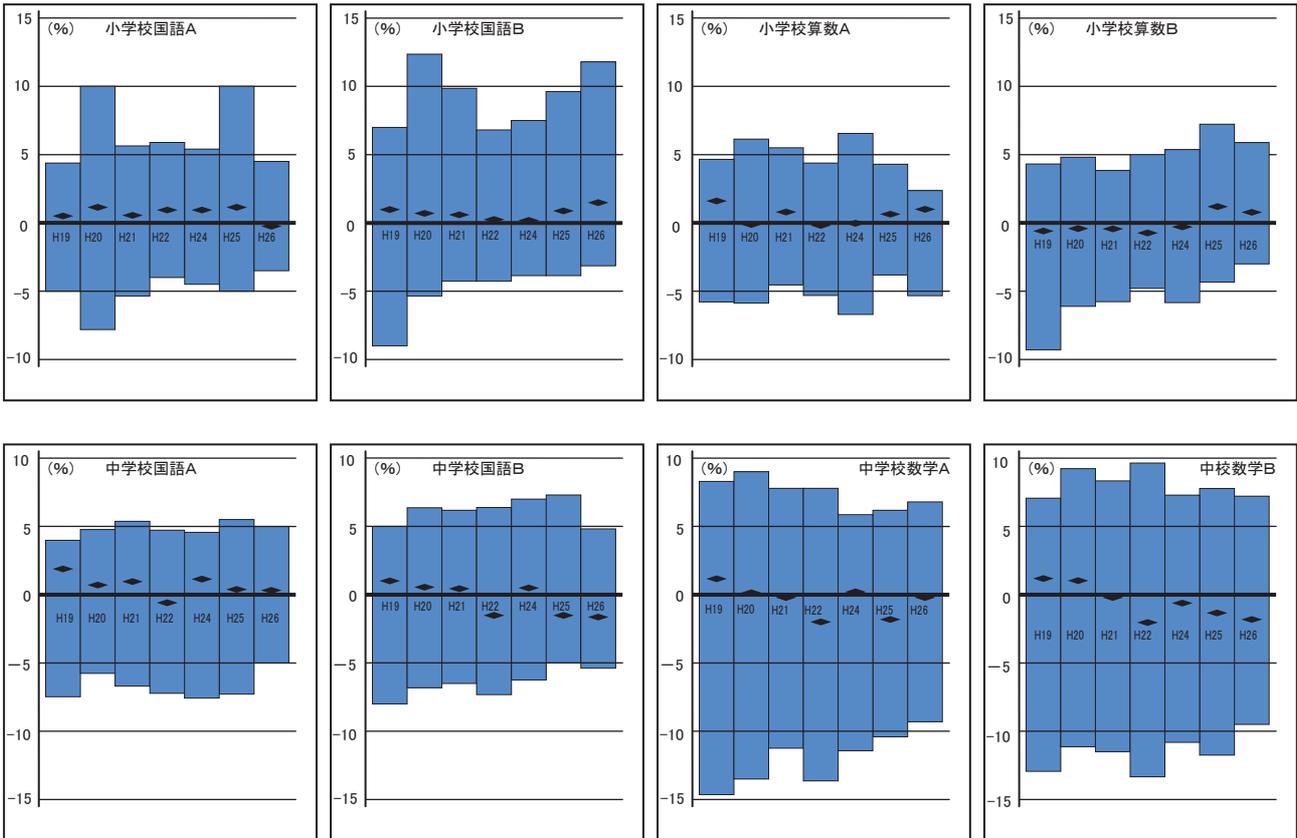
## I 教科に関する長野県の調査結果（平成 26 年度）

公立	小学校				中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B	
平均正答率(%)	長野県	72.6	57.0	79.1	59.0	79.9	49.4	67.2	58.1
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8

◇小学校では、国語Aが若干全国平均を下回ったものの、他は全国平均を上回り、概ね良好な結果となった。  
 ◆中学校では、国語Aが全国平均を上回り、数学Aも全国平均程度となったが、国語B、数学Bは依然として全国平均を下回っている。

### 各年度の全国平均と都道府県の平均正答率・長野県の平均正答率の差

■ 都道府県の平均正答率と全国平均の差が含まれる範囲  
 ◆ 長野県の全国平均との差

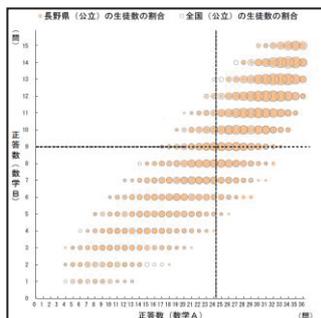


□小学校、中学校ともに、都道府県間の平均正答率の差は縮小傾向にある。  
 ◇小学校では、概ね全国平均を上回った状態で推移している。  
 ◆中学校では、A問題は平均との差が縮まる傾向にあるが、B問題は依然として開きがみられる。

## II 分析委員会における協議

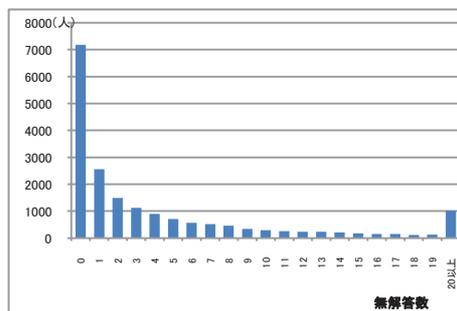
### 1 本県中学生の学力の状況と課題

〔数学Aと数学Bの相関〕



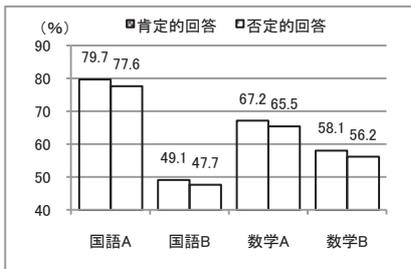
数学Bの正答数が多い生徒は、数学Aの正答数も多い傾向にあり、数学Aの正答数が多い生徒は、数学Bの正答数も多い傾向にある。

〔4科目の無解答数〕



4科目の無解答数の合計は、ほとんどの生徒が10問以下である。一方、20問以上無解答である生徒が、県内に1000人以上いる。

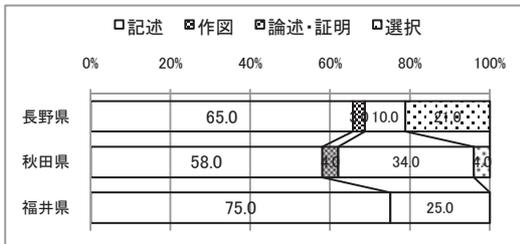
〔学習を振り返る活動と正答率の関係〕



授業の最後に学習を振り返る活動を行っている生徒は、行っていない生徒よりも正答率が高い傾向がある。

本県の中学校では、学習内容の理解と確実な定着をめざして授業改善に取り組んでいるものの、改善の成果が目に見える形で十分に表れていない現状が伺われる。  
授業改善として何をどのように行うことが効果的であるかなど、具体的な姿が十分に周知されていないことも要因の一つであると考えられる。  
教師が具体的なイメージを持てるような支援をしていくことが必要ではないか。

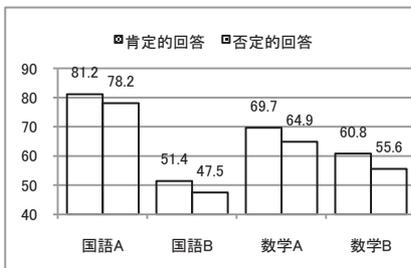
〔県立高等学校入学者選抜学力検査問題 形式別配点 数学〕



数学の論述・証明問題の全体に占める配点の割合は、長野県が10%、秋田県34%、福井県が25%である。

中学生にとって、高校入試は大きな目標であることも考えると、日頃の授業、定期テスト、全国学力・学習状況調査、高等学校入学者選抜学力検査問題に、より関連性を持たせて、生徒を適切に評価できるものになるよう研究していくことが望ましい。

〔総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動の状況〕

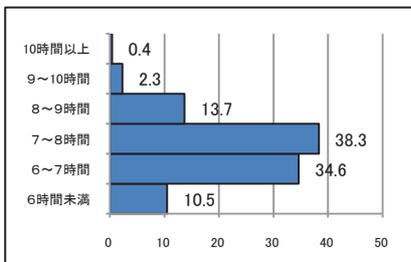


総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの活動を行っている生徒は、行っていない生徒よりも正答率が高い傾向がある。

総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの活動を行うことは、児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために必須のことである。県内の一部の学校では、総合的な学習の時間が、行事の準備等に充てられている状況にある。総合的な学習の時間で育てたい力を明確にして、児童生徒が「ひと・もの・こと」とかかわりながら、探究的な活動を行えるようにしていく必要がある。

2 中学生の基本的な生活に関して

〔全教科で全国平均正答率を上回った生徒の睡眠時間の構成比〕



全教科で全国平均を上回った生徒の睡眠時間は、7～8時間が38.3%で最も多い。

児童生徒自身が帰宅後の時間の使い方を見直し、一定の睡眠時間の確保や計画的な生活を実現することで、質の高い睡眠や安定した学校生活、充実した学習活動が期待できる。  
睡眠時間や帰宅後の時間の使い方など、児童生徒の生活全般に目を向け、望ましい生活のあり方や、そのための学校と家庭の連携のあり方について議論をしていく必要がある。

III 分析委員会からの提言（分析委員会から県教育委員会に期待する事項）

1 昨年度の提言に関して

□昨年度の提言については、全ての項目で取組が進められた。現時点で十分に成果が表れていないものも見られるが、改善の兆しは見え始めている。さらに内容を充実させ、引き続き取組を進めたい。

2 授業のあり方に関して

- 教師一人一人に具体的な授業改善のポイントを周知する。
- 授業改善に関する研修では、ロールプレイやワークショップ等を用いた具体的な内容を充実する。
- 指導主事の学校訪問においては、指導主事が模擬授業を行う等、具体的な支援を行う。

3 高等学校入学者選抜学力検査の問題に関して

□県立高等学校入学者選抜検査について検討する。

4 中学生の生活に関して

□小学生、中学生が、より望ましい生活が送れるように、県教育委員会関係各課が連携して施策を実施していく。

5 学力向上の取組を共有する工夫に関して

- 市町村教育委員会に対して、取組を紹介できる機会を設定する。
- 市町村教育委員会、地域住民、学校関係者等が、地域ぐるみで学力向上に取り組む活動を推進する。